

NICHE

工 学 院 大 学 建 築 学 科 同 窓 会 誌

TOPICS

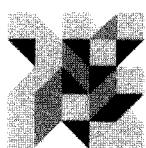
同窓生を
訪ねて

同窓生
からの
便り

輝かしき
先輩たち

建築学科の
新しい風に
聞く

また
逢う日
まで



【建設大臣指定住宅性能評価機関】 木造軸組・2×4住宅工法
株式会社住宅性能評価センター

■ 代表取締役社長 田野邊 幸裕 (工学院大学建築学科昭和44年卒)

このたび本年4月に施行された「品確法」の制定にともない
指定住宅性能評価機関である
(株)住宅性能評価センターを設立いたしました。

当社は全国展開に対応するため、
評価申請手続き・性能評価、生産プロセスの
トータルシステムでインターネットを利用します。
全国の設計事務所・中小工務店の皆様の
より手軽な利用を目指し、支援いたします。

全国の工学院大学建築学科卒業生の皆様のご支援を承りますよう
お願い申し上げます。

- 社名 株式会社住宅性能評価センター
- 資本金 8,800万円(9/1現在)
- 住 所 〒160-0022 東京都新宿区新宿2-3-11 東京建物御苑前ビル5階
- 電 話 03-5367-8730 ■ e-mail hyouka@email.plala.or.jp
- 業務内容 品確法に基づく住宅性能評価業務
建築基準法による建築確認審査及び検査に関する事業
住宅金融公庫等公的金融機関の設計審査及び検査に関する事務代行
- 社員数 (契約評価員含む)
設計評価員 15名 (その他 5名)
建設評価員 100名 (来年度200名)

サービス向上をねらい全国に建設評価員(契約)を隨時募集中。
(100名増予定)

- 作業内容
住宅性能評価における現場検査 検査時期(計4回)
1. 基礎配筋工事の完了時 2. 軸体工事の完了時
3. 下地張り直前の工事の完了時 4. 塗工時
- 条件
建築資格者(1級・2級・木造建築士)
パソコン(Windows)及びインターネットの利用可能な方

■ 資本参加者 ■ 有識者(個人・建築士・大学教授・弁護士・土地家屋調査士・司法書士・税理士他) ■ 企業 中部住宅販売林
トヨタウッドユーホーム株・日本電建株・野村木一株・東日本ハウス株・株細田工務店・ホラテック株・三井木材工業株・山佐産業株
富士通エフ・アイ・ヒー株・日本ユニシス株・エイアイユーインシニアランスカンパニー・AIU・東京海上火災保険株・株ナカシマ
宮川工機株・飯田工業株・丸三商事株・株青空広告事務所

[目次]

■「工学院大学校友会 VISA カード」ご利用(切替え)のお願い	02
■『NICHE』vol.24 の発刊に寄せて 母校の発展を卒業生のネットワークで:高木雅行	03
■TOPICS	
①初田亨先生、日本建築学会賞(論文部門)を受賞	04
②校友会創立百周年式典	05
③大橋一正先生＆中島康孝先生、日本太陽エネルギー学会「論文賞」を受賞	06
④建築学科同窓会総会&校友会総会	08
⑤望月大介先生の『作品集』刊行	08
⑥「八王子キャンパス15号館」竣工	09
⑦「115周年記念体育館」着工なる	10
⑧学外コンペに大学院生たちが大活躍	12
⑨「住宅性能評価センター」設立	12
■同窓生を訪ねて	
北米型2×4工法の普及に取り組む:高橋憲一郎	13
■輝かしき先輩たち	
日本のアールヌーヴォー誕生にその名を残す:久保田小三郎	17
■同窓生からの便り	
①横須賀のまちづくりと建築行政:安藤眞巳	22
②建築技術家懇談会の紹介とその活動について:日和佐 章	24
③25年間のあれこれ:塩坂雅史	26
④アジア・アフリカでの設備設計を通して、今、感じること:肥田 淳	28
⑤“造る”に接して:久保田康弘	31
⑥ベルラーへから:橋本しのぶ	33
■ NICHE GALLERY	
①鴻ノ巣の家:濱田昭夫	36
②T山荘:安岡清則	40
③逆円錐形シェル構造:小野里憲一	44
④素庵:鈴木敏彦	46
⑤二宮邸:山口明宏	50
■新しい風に聞く	
①いろいろなことに興味や疑問をもって取り組んで欲しい:阿部道彦	54
②建築都市デザインは21世紀が求めている:倉田直道	55
③ハイテクとローテク、三周遅れの先頭を行く:中山繁信	56
■また違う日まで	
①篠原一之先生	58
②中島康孝先生	59
③望月 洵先生	61
■学科だより	63
■建築学科同窓会役員校友会役員建築学科同窓会運営委員名簿	71
■評議員会REPORT	73
■[平成11年度] 建築学科同窓会年会費・寄付金	76
■[平成11年度] 卒業生名簿	77

発行●2000年10月31日

編集・発行●工学院大学建築学科同窓会

TEL 163-8677

東京都新宿区西新宿1-24-2

TEL 03-3342-1211

(内線) 2025

編集委員●大場光博・高木雅行

谷口宗彦・類洲環

編集協力●佐藤弘規

印刷●大日本印刷株式会社

表紙デザイン●佐藤弘規

[大学院・修士課程2年]

年会費を支払わないと 『NICHE』が届かなくなります!!

建築学科の卒業生の皆様へ

拝啓 皆様方におかれましては、時下ますますご清栄のこととお慶び申しあげます。

昨年度より、同窓会費は財源確保の点から年会費とすることになりました。しかし、入金手続きの手間など考えますと、各年の徴収は困難が伴います。そこで、校友会では「工学院大学校友会VISAカード」を発行し、同窓会年会費の自動引落しなど、手続きの簡素化を図りました。同時に、今後の同窓会を維持し、発展させていくための財源確保と、併せて同カードの利用による会員に対する新たな特典を検討しました。

このカードは、本校の卒業生を対象としたオリジナル・カードで、平成11年現在、入会対象者は建築学科のみで約1万4,000名にまで及んでいます。卒業後の皆様と、母校を結ぶ絆として活用していただきたいと考えておりますので、このたびのご案内の機会に、ぜひご加入いただけますように、お願い申しあげます。なお、すでにお持ちのVISAカードから「工学院大学校友会VISAカード」への切替えは、取扱銀行で簡単にできます。

「工学院大学校友会VISAカード」への加入、あるいは切替えの手続きを速やかに取っていただき、『NICHE』がお手元に届くためのご協力を、切に、切にお願い申しあげる次第です。

年会費のお支払いは、割引料金をご利用下さい

◆従来通りの送金方法(振込など)は、一昨年から年会費4,000円です。しかし、事務手続き簡略化のため「工学院大学校友会VISAカード」利用による年会費の自動引落しは、**割引料金3,000円**となります。このカードの会員は、同窓会費を年一回、自動引落しいたします。

従来からのVISAカードの特典に加え、校友会カードとしてのオリジナル特典

- ◆一級建築士受験講座などの受講割引特典が希望者に与えられます。
- ◆同窓会のさまざまな情報を満載する『NICHE』を、毎年、自動的にお届けします。専門的な業務に携わるOBやOGたちが、どんな仕事に出会い、どんな問題に直面しているか……。皆様のご意見をもとに、校友相互の情報交換の場を提供します。
- ◆校友会名簿CD-ROM(約10万人の校友の連絡先を収録)の割引購入ができます(定価3,000円のところ、**カード会員は1,500円にて頒布**いたします。毎年、バージョンアップ)。
- ◆学年別、研究室別はもとより、全学科OB・OGを含む、会社別、地域別の検索可能。同窓生同士のネットワークに役立ちます。
- ◆引っ越しの際の同窓会名簿の住所変更手続きが不要となります。

※問合せ先:工学院大学校友会

〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2

Tel. 03-3342-2064 / Fax. 03-3342-2035

母校の発展を卒業生のネットワークで



高木雅行
建築学科同窓会会长

①大学の危機

「私大の3割定員割れ」——新聞の見出しが大きく目に飛び込できました。私立短期大学にいたっては過去最悪の6割が定員割れとのこと。

工学院大学の第1部は、建築都市デザイン学科の健闘(推薦を除く50人の定員枠に対し1,533人と30倍の受験者数)などでそうした状況には至りませんでしたが、第2部は定員の54%、専門学校も第1部が定員の73%、2部が定員の40%と、社会情勢そのままの状況です。学生数がピーク時から半減し、120万人になると言われる2010年以前に、工学院大学も危機的状況を迎えることは避けられない状態です。

②社会情勢の変化

国の施策として、大学などにおける研究成果を産業へ円滑に移転するため、98年にTLO(大学等技術移転機関)制度が創設され、すでに十数の大学で設立されました(工学院大学も株式会社TAMA TLOを他大学と連携し、その中心的立場で設立に加わり8月より営業を開始しました)。

また、今年4月に成立した産業技術力強化法により、国公立大学教官などの民間企業役員の兼業規制が緩和されるなど大学から民間に対する技術移転の環境が整備されつつあります。

しかし、東京商工会議所が行ったアンケートでは、これまで大学などとの受託研究・共同研究の経験のある企業のうち、「メリットはなかった」または「どちらとも言えない」とする企業が約4割に達しており、その理由に「時間がかかりすぎた」や「利益に結びつかなかった」といった回答が多数を占めました。

産学連携の経験のない企業が、連携を必要と感じながらこれまでできなかった理由としては、「大学などとの連携に関する情報不足」をあげるケースが圧倒的に多く、両者の取り組み姿勢には、いまだおおきなギャップが存在すると分析しています。

③卒業生の参加

今年度、学校経営の重要な部分を担う学校法人工学院大学評議員会では、初めての試みとして、校友選出評議員

からの提案により「学園将来ビジョンを考える懇談会」が設置され、経営執行部に対し提案を寄せる機会を得ました。学園の教職員、学識経験者、校友(卒業生)とさまざまな立場からの意見をまとめ大学へ提案する予定です。

現在、こうした形で私たち卒業生は母校の経営に参画しております。私学は卒業生が母校を守ってゆくからこそ発展があります。建築学科同窓会は母校を愛する卒業生の親睦団体として設立されました。

今後とも母校発展のサポーターとして、また、公益団体である社団法人工学院大学校友会に人材と資金を提供できる盤石な組織として発展してゆきたいと考えます。

④校友会・同窓会の将来ビジョン

社団法人である校友会は、従来、同窓会との事業の区分が不明確であり親睦会的要素が強く、現在その所轄官庁である文部省より事業の見直しを指摘されています。この各同窓会を選出母体とする校友会では、いま、「校友会の将来ビジョン」を作成中です。

その基本方針の重要な柱の一つに、「校友会は学園の資源と校友の資源を結びつける役割を果たす」としており、校友から見る、学園(特に大学)の知的財産や施設は大変な資源であり、一方、学園から見ると、幅広く社会活動を実践している校友(産業、研究、教育)は、貴重な資源であるのです。

この二つの大きな財産と資源を結びつけることで学園とともに、校友にも社会的にさらなる発展と躍進を可能とする糧を供給することができる、としています。

先の商工会議所のアンケートにある「大学などとの連携に関する情報不足」を解決する重要な役割を、今後この変革した校友会は果たせるはずです。親睦団体である同窓会が、同窓会誌『NICHE』を通して、強力なネットワークを活かし、人材、資金で校友会を支え、母校とともに発展するとき、少子化の状況でも、来る21世紀に知名度と実績のある大学として、たくさんの受験生が集まる魅力的な大学として、さらに発展することでしょう。そのために、今後ともどうか卒業生の皆さまの建築学科同窓会への更なる御協力をお願いいたします。



初田亨先生、 日本建築学会賞(論文部門)を受賞

平成12年7月28日(金)、午後6時半より、新宿区のエスティック情報ビル4階ワイスカフェテリアにて、総勢161名が参加して「初田亨先生の日本建築学会賞受賞を祝う会」が行われました。日本建築学会賞は、建築の研究を志す者にとって最高の栄誉であり、今回は工学院大学の出身でもある初田先生が「職人および都市住民から見た日本の近代建築に関する一連の研究」により、2000年度の日本建築学会賞(論文部門)を受賞されました。

受賞は初田先生が永年研究されてきた『都市の明治』『職人達の西洋建築』『百貨店の誕生』などの著作に代表される日本の近代建築・都市に関する一連の研究が高く評価されたものです。

昨年の宇田川光弘先生の日本建築学会賞受賞に引き続き、工学院大学建築学科からの受賞であり、たいへん輝かしい成果だと思います。

■受賞や祝賀会の御感想は如何ですか。

このたびは、日本建築学会賞受賞の祝いを開いていただき、誠にありがとうございます。学会賞を頂戴したことが身に余る光栄と考えていましたところ、祝いの会まで開いていただき、とても感激しています。

■学会賞受賞対象となられた研究内容をかいづまんで説明すると、どのようにになりますか。

研究の内容は、職人や中堅技術者、都市住民の視点から、日本の近

代を可能にしたもの、日本の近代建築の独自性を探るとともに、都市の繁華街の建築と町並みの近世から近代への変遷を明らかにしようとしたものです。

■研究の骨子の関連はどんな感じでしょうか。

6冊の著書が受賞の直接の対象となっており、研究の内容は大きく3つに別れています。

[第一部] 明治期の都市における建築と町並みの変遷

明治期の建築とその集合からなる町並みを対象として、近代建築がつくられていく上で、職人が果たした役割と、都市住民の視点から建築と町並みの変遷について考察しています。

明治初期の和洋折衷の建築、明治中期の銀座煉瓦街や土蔵造りの町並み、明治後期の効工場や洋風に似て非なる建築と呼ばれた建築と、それらがつくりだす町並みを通して日本の繁華街の建築および都市が、職人および彼らを支えてきた都市住民によって内発的につくられてきた点を指摘しています。

そして、日本の都市が、明治後期にそれまでの近世的な都市とは異

なる、近代的な性格をもっていったことを明らかにしました。

著書には『都市の明治——路上からの建築史』(筑摩書房/1981年)、『明治期の都市における建築と町並みに関する歴史的研究』(学位論文/1983年)があります。

[第二部] 都市施設としての建築

明治前期から昭和戦前期にいたる過程の中で、商店という枠を越えて、都市施設としての役割を果たしてきたと考えられる商業建築と都市住民の関わりあいについて考察しています。

カーフェーと喫茶店が、日本で別なものとして発展していった過程を明らかにするとともに、百貨店では、欧米の百貨店を参考にしてつくっていったにもかかわらず、美術館や劇場、屋上庭園などを持つ日本独自の施設がつくられていった過程や、建築意匠に社会の要求が反映されていった点などを明らかにしました。

この他、塔を持つ建物や博覧会、映画館、料亭、夜店、昭和期の銀座などを通じて、都市住民が生活を楽しんだ近代の商業施設について述べています。



おめでとうございます

校友会創立百周年式典 「若者は未来からの留学生」

内田盛也氏

著書は『カフェーと喫茶店——モダン都市のたまり場』(INAX/1993年)、『百貨店の誕生』(三省堂/1993年)、『モダン都市の空間博物学——東京』(彰国社/1995年)があります。

[第三部] 日本の近代建築と職人

日本に近代建築がつくられていくなかで、職人や中堅技術者の果たした役割や、近世的建築技術、考え方など、どのように近代建築に受け継がれていったかなどについて考察しています。

日本は比較的スムーズに近代化に移行することができたと考えられますが、その過程で、新しいものに積極的に取り組んできた職人や、職人上がりの中堅技術者、工手学校の卒業生など新しい教育を受け誕生した技術者の活躍があったことを指摘しています。

著書は『職人達の西洋建築』(講談社/1997年)があります。

■今後の抱負は如何ですか。

多くの方々に支えていただき、やっとここまでたどり着くことができました。

これからもこつこつと研究を進めていくとともに、母校・工学院大学の発展に全力をつくしていく覚悟であります。

今後ともご指導賜りますよう、お願い申し上げます。



同窓生一同、初田先生の今後の益々のご健闘を祈念申し上げます。

(レポート:大場光博)

快晴の冬空のもと1月22日(土)午後1時、工学院大学新宿キャンパス3階・階段教室に、招待客46名、校友270名。会場満員の中で「創立百周年式典」が開催されました。

大学への貢献、校友会活動に顕著な方々として、伊藤鄭爾元学長、北郷薰理事長、榎井寛一校友会広島支部長、菊池忠雄・福島支部、九島兼一・静岡支部、丹羽宏之前校友会会长・名誉会長、桑原宗一郎・新潟県支部の7名に感謝状が贈呈されました。

平成11年夏、設計競技により決定した大学創立115周年記念体育館建設寄付金として、校友会会长南雲芳夫から工学院大学に3,000万円が贈呈されました。



大橋秀雄学長、中澤宣也常務理事の来賓挨拶では、「工手学校が明治20年に築地に開校し、10年後に校友会が結成。昭和53年に社団法人工学院大学校友会として発足、この間、工手学校から数えると約10万人の卒業生が社会で活躍している。現在、大学院、大学、専門学校、高校、中学の在学生が9,500名



近くに及んでいる。一方、少子化などの社会現象が今後一層促進され「今までの50年間よりも、これから50年間の方が厳しい変化の時代になる」との説明がありました。



内田盛也本学理事による記念講演「地球時代と自立社会の到来、知的資本と明日の大学」が、引き続き1時間半にわたり行われました。今までの100年を思い、100年後に本校がトップになるためとの意気込みで、豊富な体験談を交え、東洋文化と欧米文化を比較しながら、「起業家を生む大学の組織」「若者は未来からの留学生」「若者に夢と情熱を与えるチャンスと機会」という言葉で締めくくりました。



新年懇親会は、28階・会議室に全員が移動して、ロビーや室内に盛り沢山な各種和洋中華料理、飲み物が並べられ準備万端。校友会会长をはじめ関係者一同、気合いを込めて菊正宗の樽酒を一気に割り合い、乾杯の音頭を合図に校友相互の歓談が盛大に進められました。

室内からは熱気のこもるざわめきが溢れて旧交を温め、名残惜しく午後5時半にお開きになりました。首都圏在住の校友の方々、次回の新年会には是非ご出席下さい。お待ちしております。

(レポート: 大場光博)

大橋一正先生と中島康孝先生、日本太陽エネルギー学会「論文賞」を受賞

平成12年3月28日、午後1時半、明治大学大学会館8階大会議室で開催になった日本太陽エネルギー学会の平成11年度・第26回総会において、大橋一正先生と中島康孝先生の共同研究論文が表彰されました。

論文のテーマは「ソルエアヒートポンプシステムの基礎特性と長期運転特性、第1報:気象とシステム特性、第2報:SAT(相当外気温度)とパネル熱交換特性」です。

受賞後に、両先生に研究の内容について伺いました。

◆何時頃から研究に着手されましたか?

追跡調査対象となった実システムは、1986年に八王子キャンパス5号館(地上9階・地下1階)に設置されたもので、自然エネルギー(太陽熱、空気熱、地中熱)を利用して、各種の蓄熱方式(水、氷、地中、水素吸収合金)を有機的にコントロールして空調を行う研究実験装置です。

今回、これらのシステムを単年度の研究ではなく、10年間という長期に渡り実施した研究内容であること、そして実際の建物で実用



■「八王子校舎5号館」全景——中央の高層棟が5号館／屋上にソーラーシステムが設置されている／左の11号館には建築系の実験室がある

化して実証した点が高く評価されました。受賞した研究メンバーは、大橋一正教授、中島康孝教授、日野俊之(鹿島建設技術研究所)、増岡陽一(横河建築設計事務所／本大学院修了)の4名です。

この他、八王子校舎大橋研究室に在籍した多くの学生が、気象観測やシステムの運転・評価に励んでくれたことが、受賞に大きく貢献したと思っております。

◆ソルエアヒートポンプシステムをわかりやすく説明して下さい。

このシステムは70年代前半から開発を始めました。ネーミングの中でソルは太陽、エアは空気、ヒートポンプは熱を汲み上げるシステムを意味します。

つまり、外部の空気の熱を取りきり、室内側に熱を供給したり、熱を取りさるシステムです。夏期夜間はパネルによる放熱で蓄熱槽に氷を生成し、冬期日中はパネルによる集熱で蓄熱槽に温水を生成します。

夏期の利用のメリットとしては、夜間に天空に熱を放出して、氷蓄熱してこれを昼間の冷房に使用することができ、エネルギーのピークを押さえて平準化が可能になります。つまり夏の暑い時にパネルは50度近くの高温に上昇しますが、天空は温度が低く、熱を放出する事が可能です。この温度差を利用しているシステムです。

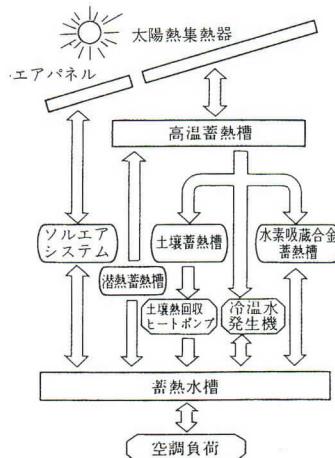
従来のクーリングタワーの役目を、屋上のパネルで置き換えるた

めに、無動力で放熱することになり省エネになります。音が出ないため、夜間の騒音対策で苦情が発生しません。また消費電力が少なく、CO₂を出さないということから、環境問題や省エネなどの課題をクリアしています。

冬期の場合は、逆に昼の太陽を温水蓄熱槽を利用して、温水蓄熱して暖房に使用します。通年を通して春の4~5月と、秋の10~11月の4カ月程度は気候的にも温暖なためにシステムを利用する事が少なく、夏と冬の8カ月間に主に稼動することになります。つまり、放射冷却現象をうまく使っているシステムです。

◆長期蓄熱システムについて

長期蓄熱システムでは、夏の熱を3~4カ月間土壌蓄熱して冬に使用します。一方では冬の冷熱を夏に使うシステムです。ただし、冬の暖房負荷には、40度程度の温水を



■ソーラーシステムのエネルギーの流れ(『環境建築のための太陽エネルギー利用』/オーム社出版局)



■左:大橋先生／右:中島先生



ヒートポンプで熱回収して利用するのに適しており、夏の負荷はピークが起こり易いために、1日のピークである3時間を補助燃料としてガスを利用して切り抜けなければなりません。

夏の太陽熱を蓄え、冬100%を越えて暖房に利用できたという実証実験結果が得られるなど、技術的には完成に近いシステムですが、現実的には実現に向けて土壤を利用する場合の土壤物性値の調整など、幾つかの問題点も存在しています。

さらに冷暖房を効率良く利用するには高断熱、高気密化のシステムが不可欠であり、一方、都市の問題ではエネルギーの使い過ぎなども指摘されています。そして、今のところ実現に際しての隘路は、経済的な側面などが指摘されています。

◆太陽熱利用の今後の展開についていかがですか？

太陽光発電は国の補助金が1/3あるために、国内にすでに5000件程普及しています。しかし、太陽熱利用は技術的には完成に近いものの、実現に向けて幾つかの問題が存在しています。

まず、市場対策が確立されていません。太陽エネルギーの場合は、建築設備が在来工法のために技術レベルが低いと活用できないことになり、これが一番の問題です。オフィスの設備はある程度の信頼性が確保されているものの、住宅向

けの在来工法の設備の市場は、材料の手配や施工方法などのレベルが未だにお粗末です。

例えば、施工が不十分なために水がからむ冬期の凍結問題が起こると熱が逃げてしまい、かつ燃料の節約が分かりにくい面などが指摘されています。建築に比較して設備の寿命が短く、メンテナンスなしで20～30年の長期になるなど、長期間の耐久性が要求されることに対しても充分な対応がなされていません。

◆DEN(地域エネルギーネットワーク)の普及について関連を教えて下さい。

太陽エネルギー利用の関心は、いま太陽光発電システムにあり、太陽熱利用システムではありません。その原因と今後の対策を考えるとき、COP3の京都会議による我国のCO₂排出量6%削減を達成させるための切り札が、これからDENの普及にあります。DENは自然エネルギー、コジェネレーションなどの分散型エネルギーを活用しやすい地域計画用エネルギーネットワークシステムです。例えば1,000～2,000世帯の住宅地域において、地域の核となる小中学校の中に防災型分散エネルギープラントを設置し、各住戸に太陽集熱器と光発電体を設け、上下水配管計画の中に電気と温水とを共同溝を利用して同時に送付できるネットワークを組み込みます。このシステムにより、CO₂排出削減に最も効果のある自然エネル

ギー利用と、コジェネレーションシステムとが、蓄熱システムに活用できる他、防災拠点としての役割や光発電のみならず、熱利用でもエネルギー買取りシステムを導入しやすいシステムになります。

この他、電柱が不要で電線が地下埋設になるなど、都市景観的にも、防災的にも優れた都市の空間づくりが可能になります。

◆太陽光発電(PV)利用の施設に関して何か参考になる資料はございますか？

『PV建築デザインガイド[世界の太陽光発電建築事例集]』について、平成12年9月末日発行予定で編集(編集委員長:中島康孝教授)作業を進めています。

本誌はPVの持つ意匠的な可能性に注目して、最低限必要なPVの基礎知識を提供し、建築に統合されたPVシステムをトータルな建築デザインの中でとらえられている事例として、シドニーオリンピック施設をはじめ最新の優れた海外の43作品、NTT横浜(メディアタワー)などの国内の優れた14作品を写真集として紹介しています。

問い合わせ先はNEDO 電話03-3987-9399、新エネルギー・産業技術総合開発機構/編、初版3,000部。お手元にこの記事が届く頃にはすでに発行の予定。

関心を持たれる方は、表記連絡先までお問い合わせ下さい。

※太陽光発電(PhotovoltaicsをPVと略)
(レポート:大場光博)

建築学科同窓会総会と校友会総会

「建学の理念を活かして産業界に人材を」——有馬朗人氏



本年5月28日(日)、「2000年度建築学科同窓会第35期通常総会」と「社団法人工学院大学校友会第44回総会」が行われました。

■□■

「建築学科同窓会総会」では、第34期(1999年度)の事業報告および会計報告があった後、第35期の事業計画および会計予算案について審議がなされました。

また、その他では、①大交流懇親会、②次期人事、③会費の納入、④『NICHE』の今後……などについて報告がありました。

「大交流懇親会」は本年12月2日(土)に決定。OB・OGの多くの方々

のご参加を、お待ちしております。

そして、まだの方は、その席上で、どうぞ「会費」をお納め下さい。

シッといようですが、『NICHE』は、皆様の会費で発行されています。建築学科・同窓会誌として、他大学でも類を見ないほど、カッコ良くて情報満載の『NICHE』も、会費を支払われない会員の方のお手元に届けられないのは、もう時間の問題になりました。この緊急の事態を考慮されて、ぜひ会費をお納め下さい。ヨロシク！！

■□■

「校友会総会」では、通常の議事進行の後、講演会が持たれました。講師は前文部大臣の有馬朗人氏。演題は「日本の科学技術と教育」です。

有馬氏は、日本の工学教育の歴史から繙かれました。そして、中堅技術者の養成を旨とした設立された工手学校、即ちわが工学院大学の理念を高く評価されたのです。

さらに、この中堅技術者のレベルの低下が、昨今の事故——ロケット打上げ失敗、トンネル破損、医療ミス、核燃料漏れなど全てにつながっていると喝破されました。

「これ、全て教育の問題です。工学院大学も、建学の理念を活かして産業界に優秀な人材を送って下さい」。華奢な身体から発せられる言葉は、あくまで力強く若々しいものでした。聴く者が元気になる講演会でした。

続いて「懇親会」が開かれ、笑顔と情報が盛んに交換されました。

今年度も頑張っていこうぜ！

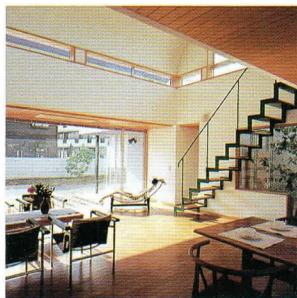
(レポート：類洲 環)



2000年10月
住宅建築別冊・51

現代住宅の設計

望月大介の仕事



望月大介先生の『作品集』刊行

われらが望月大介先生の、建築家としての30年の歩みが一冊になった。——『現代住宅の設計・望月大介の仕事』(住宅建築別冊51／2000年10月／建築資料研究社)である。

紹介された24題の作品は、いずれも穏やかな佇まい。“吉村順三調”のその住宅群は、“癒しの時代”といわれる今こそ求められる空間のように思える。

同誌には、大介先生の設計姿勢を示す「現代住宅設計の手法」も載せられている。

なお、冒頭には木村誠之助、瀬川誠、渡邊定夫、谷口宗彦の各氏、また巻末には写真家の畠亮氏が、大介先生の“人柄”や“作風”について、一文を寄せられている。

大介先生、これからも教育に、そして創作に頑張って下さい。

(レポート：類洲 環)

「八王子キャンパス15号館」竣工 躍動感に溢れた良質な現代建築

設計●山本・堀アーキテクト
山本圭介／堀啓二
施工●大成建設
建築面積●1,821.91 m²
延床面積●4,074.72 m²
規模●地下1階・地上2階
構造●鉄筋コンクリート造・鉄骨造
竣工●2000年2月



「工学院大学・八王子キャンパス15号館」が竣工した。打放しコンクリートとガラスとガラスブロックがシャープな切れ味を見せ、躍動感に溢れた良質な現代建築である。

建設されたのは、南門を入って100mほど行った右側、「体育館」と「1号館」の間である。ケヤキやサクラなどが大きな枝を張り、メインストリートのイチョウ並木を挟んで西側に食堂棟や厚生棟を見る、本来、中庭的空間の場所である。

これが、計画の大きなテーマになったようである。設計者は言う。「15号館に与えられた敷地は、八王子キャンパスの中に唯一残された緑豊かな中庭空間であり、この場所の特性を活かすことが設計上の大テーマとなった」。

「15号館」は、コンピュータ教育のための情報処理演習室および20人から180人までの一般教室を含む教室棟と、自習室にも使われる

学生ラウンジ棟で構成されている。

その2棟は、L字型に配置された。これにより、敷地の中庭的領域性は、さらに強化された。

2棟、そして中庭には、L字の交点に開けられた“ゲート”よりアップロードされる。このゲートが、なかなかリッチで、カッコいい。思えば、ヨーロッパやアメリカの大学施設の入口には必ず大きな開口部が空いている。「15号館」のゲートも、「これから勉強するゾ」という期待感と緊張感をかきたてる。

内部のテーマの一つは「光と風のコントロール」という。先に記したように「15号館」は、AV機器やコンピュータを使用する教室を持つ。直射日光は大嫌いだ。

しかし、設計者は、教室に終日おりているブラインドを、果敢にも引き上げた。「外の景色が見え、自然の通風が十分に得られる方が、大人数を収容する部屋にはふさわ

しい」。

そのために、教室と教室の間に採光と通風のために設けた空間「パティオ」、トップサイド・ライト、アルミ・ルーバー天井……など、デザイン、技術、設備面で新しい工夫に取り組んでいる。

また、ラウンジ棟の中庭に面したギャラリーには、24m長さのテーブルが据えられ、学生たちのコミュニケーションの活性化を促している。



きょうび

それにしても、今日の学生は羨ましい。蛇足ながら、筆者は八王子キャンパスがオープンした年に入学した。当時は箱型の無表情な施設がキャンパスに点在していた。建築学科を持つ大学の“建築”がこんなにいいのだろうかと思ったものだ（すいません）。

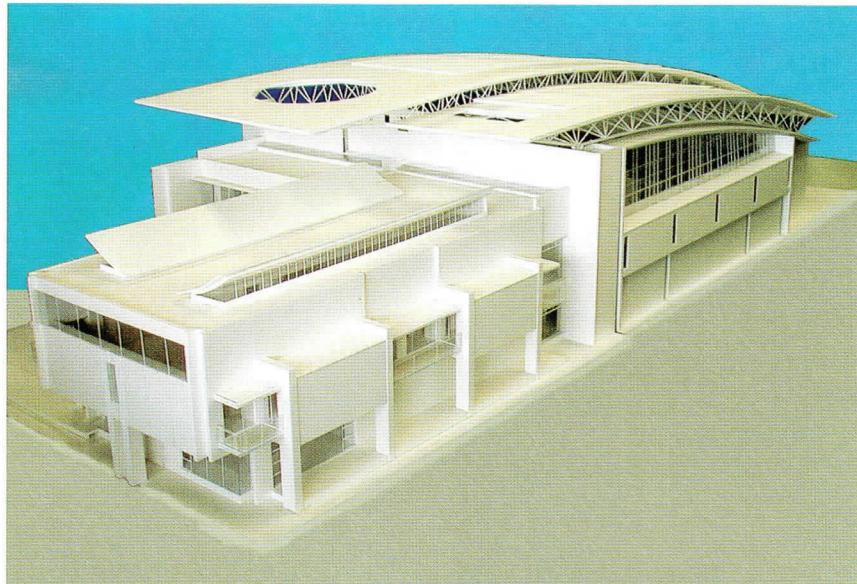
今は、まさに隔世の感がある。こんな素晴らしい施設で勉強できるのだ。みんな、頑張れよ。

(レポート:類洲環)

■参考文献:『建築技術』(2000年6月号 No.604)



「記念体育館」着工なる ——キールトラス梁の描く曲線屋根が美しい



工学院大学を卒業して20年近くが過ぎ、恩師である建築学科教授・望月洵先生も退職間近となり月日の経つのは早いものだと最近感じています。

今回、「工学院大学115周年記念体育館新築工事」の構造設計に携われたことは、本学卒業生として非常に名誉あると思うと同時に、「これは責任重大だな」という二つの思いがあり、非常に大きなプレッシャーを感じました。

そのような思いで行った本設計の過程と概要を、屋根構造を中心にお伝えさせていただきます。

①建物概要

この体育館は2層+1層構成で計画されて、下部がアスレチック部門、上部が武道場の2層構造と1層構造のアリーナが連続する構成になっています。構造形式は、下部をRC・SRC構造とし、屋根を鉄骨トラス構造としました。

本建物のデザインコンセプトで

一番大きな比重を占めるのが屋根形状です。八王子の山並みをモチーフにした、なだらかな曲線でスパン49mのアリーナ部分を覆い、さらに武道場側に18.5mと大きく跳ねだしたキャノピーを持ち、巨大な翼のような形状をしています。

構造設計で最も苦労したのが、やはり屋根構造です。アリーナ部分が半径151m、キャノピー部分が半径301mの円筒の一部を取り出した曲線で構成され、また、一部で段差がありこれをを利用してハイサイドライトとしています。

当初、屋根全てをシステムトラスによって構成する案も出されました。が、デザインコンセプト・コスト・点検・保守などの問題により不採用となりました。その後、三角形断面を持つキールトラス梁を用いて各キールを在来の工法で立体的に結び付けて一体化する方法を探用することにより、前記問題の解

決を図っています。

②構造システム

キール梁は2種類のサイズを用いました。屋根中央部分に架け渡され、キャノピーと連続するメインキールは高さ3.0mで、妻側に配置されるサブキールは高さ2.0mとしています。

屋根形状が通常のアーチ形式とはならないため、キール梁の支持点は同一水平面上になく、各キール梁は高低差約8.5mある2点で支持される一方向梁となっています。

いわゆる片流れ屋根形式となり、またライズが低いことにより「曲げ梁」要素が強く表れています。これにより、支持点の一方を長期鉛直荷重時にローラー支持として、スラストをキャンセルさせようとすると、ローラー部分の水平変位およびキール梁中間部分の鉛直変位が非常に大きくなり屋根形状を保てなくなります。

この変位を見込んで、鉄骨製作時にキール梁にムクリをつけることも考慮しましたが、弦材・トラス材の各接合点でムクリ量が異なることと、片持ち構造のキャノピー部分の形状確保も困難と判断されたため、最終的にピン支持とした。

このように方針が決定されるまでの間、モデルの精度を少しづつ上げながら立体解析を行い、最終的にはフルモデル化を行って検討しました。

この間、恩師の望月先生には、キール形状・支持条件などに関して

設計●LINK建築工房／田中栄作
構造●KAY構造設計室／柴田和敬
施工●大成建設
建築面積●3,020.84 m²
延床面積●3,971.98 m²

竣工は2001年2月……乞う、ご期待

貴重な御意見と励ましをいっただきました。

また、屋根支持条件をピンとしたことにより、各支持柱に対して長期荷重時に非常に大きな水平力が生じます。

この水平力によって、下部構造体が過大な変形をして屋根構造に有害な影響を与えないように、柱・梁構造を余裕ある断面とし、さらにSRC構造として充分な耐力を確保しています。

③使用材料

屋根構造に関しては、キール梁・トラス材は鋼管構造とし、各部材は応力解析の結果に基づき、管の肉厚を変えています。その他の部材は一般のH型鋼を用いました。

以下にキール梁に用いた鋼材を示します。

◆メインキール

上弦材：φ - 267.4 × 9.3 ~ 13.0
(STKN400)

下弦材：φ - 318.5 × 10.3 ~ 14.0

(STKN400)

トラス材：φ - 139.8 × 4.5 ~ 9.5

(STKN400)

◆サブキール

上弦材：φ - 267.4 × 9.3 ~ 13.0

(STKN400)

下弦材：φ - 267.4 × 9.3 ~ 13.0

(STKN400)

トラス材：φ - 139.8 × 4.5 ~ 9.5

(STKN400)

④荷重条件

風圧力に関しては、建設地の特性を熟知されているデザイン系の先生方より、十分な耐力を確保することを指導されました。

特に台風時でなくとも、強風を考慮し設計するようにとの強い要請がありました。このため、風圧力計算は建築基準法に拠りましたが、風力係数・設計応力倍率を割増すことで、安全性の向上を図りました。

なお、荷重は以下の4ケースについて検討を行っています。

1：長期鉛直荷重／2：風圧力

3：積雪荷重／4：地震荷重

⑤現況

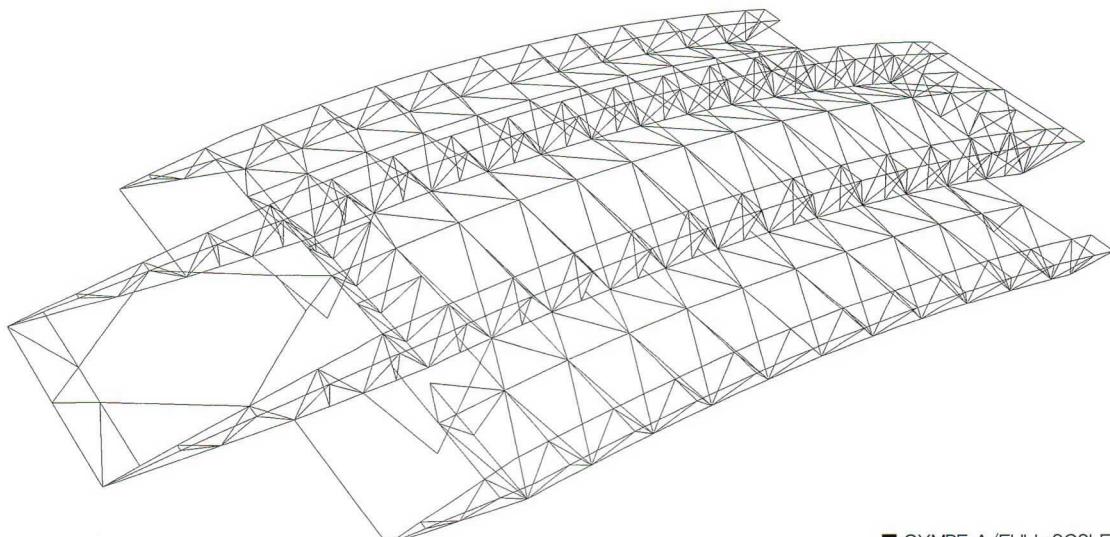
平成12年8月現在、基礎工事の後、下部構造の鉄骨建て方が終了しつつあります。本年10月頃より屋根鉄骨の建て方が開始される予定ですが、楽しみな反面、無事、工事が終了することを祈るばかりで、気が休まらないというのが本音です。

肌寒くなる頃、是非一度、現場を覗いていただきたいものです。

最後になりましたが、この記念事業に設計という形で参加させていただいたことに、誠に感謝しています。また、設計段階でさまざまご意見・助言をいただいた先生方に御礼申しあげます。

本体育館工事が無事完了し、多くの卒業生・在学生のシンボルとなり、末永く利用されることを願って、謝辞といたします。

(レポート：柴田和敬／KAY構造設計室／1981年卒業)



■ GYMRF-A/FULL-SCSLE モデル図

学外のコンペに 大学院生たちが大活躍

おめでとうございます

昨年から今年にかけて、学外の設計競技に、大学院生たちが入賞を総ナメにしている。

■第1回日本街路灯デザインコンペティション「21世紀のストリートアメニティー」
佳作:齋藤陽久・横田彩子

■第13回すまいづくり設計コンペ「子供の成長と心の安らぎに重点をおいた住まい」
佳作:佐藤弘規

■第13回建築環境デザインコンペティション「新世代の美術館」
学生賞:藤本良寛・小林信策・古宮秀昭

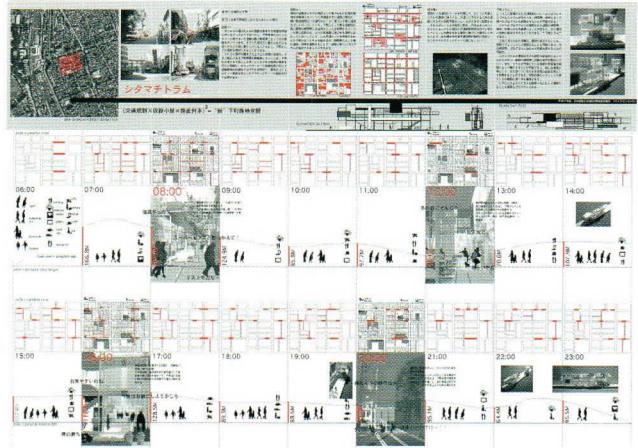
■日本建築士会連合会懸賞設計競技「マイタウンカルテ／私の街の処方箋」
金賞:浦俊弥・平野太基・協力

SINCO(右応募案)

■J-SaPa(道路サービス機構)施設デザインコンペティション
優秀賞:浦俊弥/佳作:地田正和

■日本建築学会九州支部・日本建築学会支部共通事業設計競技「住み続けられるまちの再生」
入選:織田島慶・金城正紀

■第35回東京建築士会建築設計競技「地域に開かれた多世代交流センター」
佳作:吉川幸夫・鯉坂誠之・



槇原哲生



同窓会のOB・OGの皆さん、後輩たちに負けずに頑張って下さい。

(レポート:類洲環)

「住宅性能評価センター」設立 —社長に田野邊幸裕さん



このたび、木造の軸組および2×4工法を対象とする新築住宅の性能評価機関「株式会社住宅性能評価センター」が設立され、初代社長に田野邊幸裕さん(1969年／建築学科卒業)が就任した。

同センターは、本年4月に施行された「住宅の品質確保の促進等に関する法律(品確法)」に基づく民間の住宅性能評価機関として、すでに数社の設立が予定されているなか、初の木造住宅系として、本年6月2日に設立された。建設大臣の指定する民間会社「指定住宅性能評価機

関」の認可も得る。

事業の特色としては、全国展開に対応するため、IT関連企業、プレカットメーカー、参画住宅メーカーの持つノウハウを結集して、評価・申請手続きを含め、生産プロセスに対するトータルなプログラムとITシステムを構築、それらを中小の工務店にも手軽に利用できるようにオープン化する。

これにより、木造住宅の均質化推進と顧客の信頼性向上に寄与すると同時に、レベルの高い正確な評価と、申請手続きや生産工程に

おける作業時間合理化の実現を目指している。

当面は「住宅の品質確保の促進等に関する法律に基づく住宅性能評価業務」、「建築基準法による建築確認審査および検査に関する事業」、「住宅金融公庫等公的金融機関の設計審査および検査等に関する業務代行」——の3点に重点を置いて事業展開を進めていく。

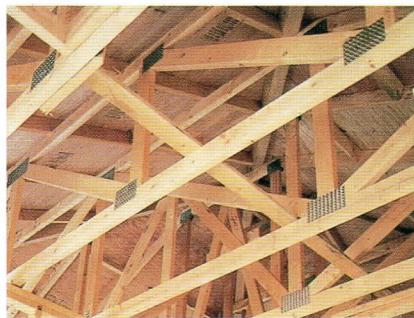
田野邊さん、「住宅性能評価センター」が軌道に乗り、大きく前進することを祈っています。

(レポート:類洲環)

同窓生を訪ねて

北米型2×4工法の普及に取り組む

高橋憲一郎



刺激的な4年間——“若獅子”の勢いの教授陣

高橋憲一郎さんは、本校に入学する前に、2年、“浪人”をしている。高校時代の友達の多くは「電機」の道に進んでいた。高橋さんは「自分も、友達の後を追うのだろう」と漠然と思っていた。浪人生活を送るなかで、高橋さんは小説などにも親しみ、“文系”にも魅力を感じるようになっていた。

2年が経った。進路を決めなければならない。理系であり文系である学問はないのか。「あった」。——建築であった。

高橋さんの入学した当時——即ち、1965年(昭和35年)の工学院大学建築学科の計画系の教授陣は、まさに“若獅子”的勢いがあった。波多江健郎先生が、ハーバード大学の大学院を修めて、ホセ・ルイ・セルトなどの薰陶を得ながら10年間のアメリカでの修業を終えて本校の教授に迎えられたのが1965年であった。そして助教授には、武藤章先生がアルヴァ・アアルトの事務所から、また山下司先生がポール・ルドルフの事務所から戻ってきたばかりであった。

改めて言うまでもないが、セルトもアアルトもルドルフも、20世紀の建築界の重鎮である。その現代建築の先人たちから学んできたばかりで、教授たちも熱く燃えていた。「いやー、実に刺激的な大学生活でした」と、高橋さんは遠くを見るような眼で言った。

余談だが、筆者は高橋さんより一年前の入学である。確かに、山下先生の“ル・コルビュゼ”という発音は新鮮だったし、“力・カタ・カタチ論”的展開には鮮やかな手品を見せられているような驚きがあった。そして、武藤先生の無表情・寡黙さの奥には、秘めたる闘志のようなものが漲っていた。それは「大分県医師会館」や「大分県立中央図書館」で建築デザイン界に衝撃的なデビューを飾っていた、東大での同級生・磯崎新へのライバル心だったのかもしれない。

閑話休題——学部を卒業し、高橋さんは「太平住宅」に就職する。本社が、新宿校舎の東側ブロックにあるゼネコンである。実は、恩師の武藤先生から推薦を受けた就職先があった。しかし、その時には太平住宅に決まっていた。この先生の推薦を断ったことが、ずっと心の隅にわだかまっていた。「申し訳なかった」という想いと、「先生の紹介先だから、創作的な設計ができたのかもしれない」。その自責と後悔の想いは、錯綜し、募るばかりであった。

「今の仕事が、つまらないというのではない。でも、もっと自分を表現したい」。そういう想いにかられた時、人はどうするだろう。そう、旅に出る。それも、遠い場所に……。高橋さんは、友人のいるカナダへ旅立った。しかし、それは単なる“癒しの旅”では終わらなかった。

「Webb Zerafa Menkes Housden」という設計事務所を知るのだ。「自分を試すチャンスだ」。高橋さんは、ためらわなかった。事務所のドアを叩く。

そこから、自分でも予測もしなかった人生が展開していくことになる。

——1973年9月であった。



■高橋憲一郎(たかはし・けんいちろう)

1944年●東京生まれ

1969年●工学院大学建築学科卒業

(武藤研究室)

太平住宅入社

1973年●Webb Zerafa Menkes Housden
(カナダ・トロント)入所

1976年●COFI(Council of Forest Industries of Canada)(東京)入所

1988年●蔵建築設計事務所設立

著書●『ツーバイフォー輸入住宅建材施工マニュアル』(井上書院/1997年)
『北米型木造枠組壁工法——基礎・駆体工事編/外部仕上工事編』(理工学社/1998年・1999年)

住宅観の相違——カナダでは9割が建て売り

Webb Zerafa Menkes Housdenは、ウェブ・ゼラファとメンケス・ハウスデンをパートナーに、トロントを本拠地とする設計事務所である。所員は150名ほどいて、それこそ世界中から集まっていた。ちなみに、日本人のスタッフは高橋さんの前に一人いたそうである。

高橋さんは、この設計事務所で超高層のコンドミニアム(分譲マンション)、アパート、オフィスビルなどを手掛ける。

初めての異国での生活で、まさにカルチャー・ショックはいろいろあった。「カナダの住宅は、9割が建て売りなんですね」——まず最も驚いたことを、高橋さんは思い出す。

住宅観が、カナダ人と日本人では全く違うのだ。カナダ人は、4~5年で住むサイクルおよびスタイルを変えていく。スターターからエンプティーネスターまで、つまり新婚時代→夫婦+幼児時代→夫婦+成長期の子ども時代→老夫婦時代……その都度、住宅を変えていくのだ。“終の住処”が人間のステータスと奉られている日本と、何という違いなのか。

これはまさに価値観の問題だから、どちらが良い・悪いとはいえないけれども、高橋さんの話を聞きながら思った。カナダ人の何という人生の楽しみ方、そして日本人の何という人生の堅苦しい送り方……。

住人が4~5年で変遷するということだから、カナダでは中古の建て売りでも充分に資産価値があり、デザインはその後の問題なのだ。

そのデザインである。カナダでは必ず町並みの調和を考えて、住宅の設計をするそうだ。景観を乱すようなデザインはしない。ここでも思った。突出する形を置くことで、環境を刺激し覚醒させ、“対峙も調和”と声高に叫んで憚らない日本人建築家と違って、カナダ人建築家の何と奥ゆかしく、上品なことか。

休日は、どんな過ごし方をしていたのだろう?

夏は白夜で、22時ぐらいまで明るいので夕食を取ってから釣りに出かけ、冬はもっぱらスキーであった。巨大事務所だから、もちろん残業や休日出勤も結構あったそうだ。

日本で最初の輸入住宅団地——「バンクーバー・ビレッジ」

3年が、それこそアップという間に経った。3年後には帰る——父親との約束であった。1976年9月、高橋さんはカナダでの修業を終えて、帰国する。

さて、何をしようか。日本に何の根回しもしていなかった。コネがあるわけでもなかった。設計事務所を持ちたいが、名もなき“帰国男子”に、仕事が舞い込むはずがなかった。

そんな折、COFI(Council of Forest Industries of Canada／カナダ・ブリティッシュコロンビア州林産業審議会)から声がかかった。カナダ式の2×4工法住宅の



■カナダ・トロントのWZMH建築設計事務所



■カナダ時代の若き日の高橋さん



■「神戸バンクーバー・ビレッジ」

プロモーションをしてくれないかという依頼であった。「カナダで育ててもらった自分である。カナダの住宅を日本に橋渡しするのは恩返しでもある」。折しも1974年に、日本では 2×4 工法がオープン化されていた。でも、日本の 2×4 工法は、“日本化”故に、デザイン、施工、コストでカナダのそれとは、ずんぶんと違っていた。「その落差を埋めたい」。高橋さんは、COFIに勤めることを決めた。

仕事を進めていくなかで、高橋さんは、住宅金融公庫と知り合う。この金融公庫の出会いも、高橋さんの人生に大きな奥行きと幅を持たせた。公庫との連携で、北米型 2×4 工法型の普及に加えて、町場の工務店の近代化に取り組んでいくことになるのである。

いざれは自分の設計事務所を開くつもりであったので、5年の予定が、結局、COFIで11年を過ごしてしまった。それだけCOFIが高橋さんに期待していた大きさを物語るものであるが、意を決して、辞職し、自分の事務所「蔵建築設計事務所」を開設する。——1988年である。

独立してすぐに、巨大プロジェクトに遭遇する。「シアトル・ビレッジ／バンクーバー・ビレッジ」である。神戸市住宅供給公社が、西神ニュータウンの一角に開発する、わが国で初めての輸入住宅団地である。高橋さんは「バンクーバー・ビレッジ」の13戸を担当する。

13戸がクラスター状に配置された景観は、さながら“外国”である。全戸、形態は違うが、町並みとして整っている。外面的な印象からいえば、素材と色が調和しているからであろう。また、前面道路と敷地境界にフェンスや塀がないことが、印象の風通しを良くしていることも否めない。

“神戸”と聞いて、3年前を思い出すだに怖ろしいが、こういう開放的な町並みのなかでは絶対に“事件”は起こらない。余計なお世話かもしれないが、昨今の頻発する少年・少女の凶悪な事件の現場は、全て閉ざされた住宅であり、閉ざされた町並みのなかである。健全な環境をつくるのも、建築家に課せられた重要な役割の一つである。

「バンクーバー・ビレッジ」が開村してから、すでに11年を数えている。町並みは、未だに若々しく爽やかである。

高気密・高断熱・ペアガラス——省エネルギー住宅

「R—2000」を、ご存知だろうか。20ほど前に、カナダのエネルギー資源鉱山省が発表した「2000年には住宅の冷暖房費を $2/3$ カットしよう」という計画である。要するに「省エネルギー住宅」である。高橋さんは、この計画のプロモーションにも関わっている。

省エネルギー住宅について、①通気工法、②防風防露層、③断熱材の取付け、④防湿層、⑤外断熱、⑥換気……を説く。自分の作品も「R—2000」に基づいて、全て“高気密・高断熱・ペアガラス”的省エネルギー建築である。

一方で、ライフワークである「北米型 2×4 工法」の普及にも余念がない。



■「T邸」(つくば市)

同窓生を訪ねて

函館、帯広、宮崎、大分、大阪……年10回ほど、日本中を歩いている。一般ユーザーも含めた講演会あり、設計事務所や工務店の人たちを対象とした2日がかりのセミナーもある。

高橋さんは、まず 2×4 工法の歴史を語る。生い立ちから成長、そして世界への伝播を追い、当然、日本での歴史も伝える。「札幌時計台」(1878年／明治11年)が 2×4 工法だったとは知らなかつたし、もっと驚いたのは、あのフランク・ロイド・ライトの「自由学園」(1922年／大正11年)も 2×4 工法による建築の由、勉強不足かもしれないが、筆者には新しい発見であった。

そして、講演は「輸入住宅のプランニングの特徴」「日本での在来軸組工法をベースに普及が計られた背景」「工法自体の気密性の高さを保つ仕組み」などに触れる。考え方から具体的な技術まで、実に判り易い内容である。

その一コマを紹介しよう。

—— 2×4 工法は工法上、床、壁と部位ごとに構造躯体を造り、また床版の上に壁を載せていく方法を探るため、在来軸組工法のように床下から天井まで空気が連続的に繋がることはありません。これは、工法自体に初めから気密性の高さを保つような仕組みが備わっているということです。つまり、冬に全く暖房をしない同じ規模の在来工法と 2×4 工法の住宅で、室内的温度測定をしてみると明らかに 2×4 工法の建物のほうが室温が高いのはそのためです。耐久性については、在来工法といえども、防火上などの理由で昔ながらの真壁はほとんどなのが実情です。ここに木材を乾燥状態に保つようなディテールを取り込めば、 2×4 工法で100年は持つ住宅を造るのはさほど難しいことではないのです。

■□■

高橋さんは、控えめな人である。余り多くを語ろうとしない。これだけの波瀾に富んだ人生なのに、筆者の軽佻浮薄を見抜いたのか、大仰なサクセス・ストーリーに仕上げることを拒まれた。

でも、高橋さんは最後に、こう語ってくれた。「バブル崩壊で、建築界が不景気になったことは不幸だが、今こそ、性能、デザイン、コストが良いバランスを持った建築と取り組む絶好のチャンスなのではないでしょうか」。

——確かに、学習するのは、今をもってない。

高橋さんは、本校の建築学科で学んでいる間に描いた“人生設計図”とは予想だにしなかった世界を歩むことになった。それは、運命に流されたのでは、決してない。自分で、自分の道を切り拓いていったのだ。

また、高橋さんは、ハッキリいってマスコミを賑わせている建築家ではない。しかし、ユーザーのために、そして地球のために配慮した建築をつくるという想いで、精力的に活動している人が同窓生にいるというのは、われわれの大いなる誇りだし、勇気づけられる。同窓生の皆さん、高橋さんみたいな人もいるということを、どうぞお忘れなく。この不況に、大いに学んで、それを仕事に活かしていって下さい。

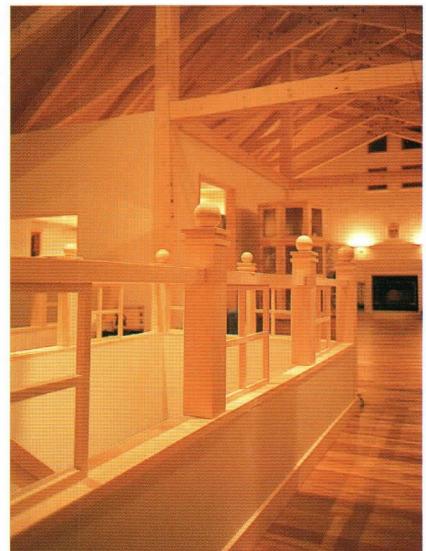
(レポート:類洲 環)



■「木造オフィスビル」(宇都宮市)



■「展伸庵」(北海道)



■「某医院」(新潟県)

輝かしき先輩たち………②

日本のアールヌーヴォー誕生にその名を残す

久保田小三郎 [くぼた・しょうさぶろう]

「北九州の戸畠に松本健次郎邸という日本で一番オシャレな洋館が建ってる」と絶賛したのは、アカデミズムの建築探偵・藤森照信であった。その「松本健次郎邸」にズームインし、さらに屋根裏に潜って棟札を確認する。「設者:辰野金吾・片岡安、監督:久保田小三郎」とある。

戸畠に建つ国的重要文化財を監督した久保田小三郎こそは、本校建築学科の第3回卒業生にして、輝かしき先輩たちの一人であった。実は、「洋館」に隣接して「日本館」が建っているのだが、こちらの棟札には「設計者:久保田小三郎」とある。重要文化財の指定は、当時のまま現存する全国唯一の遺構としての重要さ故であり、もちろん「洋館」と「日本館」を併せての評価である。

1 建築人生の師・辰野金吾との出会い

久保田小三郎——1868年(明治元年)5月27日、伊豆半島北部の田方郡韋山村原本に生まれる。農家の三男であった。

韋山といえば、ある貴重な歴史的建造物が思い浮かぶ。「韋山反射炉」である。時の伊豆韋山代官・江川太郎左衛門英龍(坦庵)が建造したもので、社会史的には“日本で最初の本格的な反射炉”として、建築史的には“日本で最初の耐火煉瓦建造物”として重要な遺構である。1857年(安政4年)の完成というから、小三郎が生まれた時にはすでに11年が経っていたことになる。小三郎は幼年時代、いま見ても充分に“モダニズム”な建造物に親しんでいたのは間違いない……といったら、次のフレーズにドラマチックに繋げるためだけの筆者の“ご都合主義”すぎるだろうか。

そんな非難を気にせずに、敢えて書く……その原風景として刻まれた斬新な造形が後押しして、小三郎は1888年(明治21年)、工手学校建築学科に入学する。「就学期間は夜間のみの15ヶ月間と短く、基礎技術の学習が精一杯であったため、昼間はしかるべき技師に付いて実務を行いながら……」と資料は伝えるが、“しかるべき技師”がどこの誰かは詳らかにしていない。

1890年(明治23年)に卒業する。工手学校建築学科・第3回の卒業である。そして、翌年の明治24年、日本銀行本店建築所に入所する。ここで何を担当したのかも詳らかにしないが、「日本銀行本店」が竣工して退職する明治28年12月までの約5年間、設計者の辰野金吾の元で働いたことは間違いない。そして、その時から辰野が、小三郎の建築人生の“師”になるのである。

1896年(明治29年)、小三郎は「明治生命保険大阪支店」の現場監督主任に招かれる。設計は野口孫市、工事監督は山口半六である。野口は辰野の愛弟子であり、辰野自身が設計校閲をしていることから、小三郎の大坂行きは当然、辰野の指示であった。

1898年(明治31年)には、「百三十銀行」の現場監督に就任する。設計は、前の工事で小三郎の上司であった山口半六である。山口は、1879年(明治12年)にパリ工業中央専門学校を卒業後、三菱会社(郵船汽船)に入り、後に文部省に入省する。この時代の代表作が「熊本大学法學部本館」(旧・第五高等学校本館)／



1889年)である。

「熊本大学」から「明治生命保険大阪支店」には7年の歳月が流れているが、明治建築界のドンであるコテコテのイギリス派の辰野から、フランス派の先駆者として疎まれていたはずの半六が、なぜ同じプロジェクトに関わっていたのかは謎である。

それはさておき、長谷川堯の未完の小説『雨の夜、シャルトル』の主人公にふさわしく、半六は病弱であった。「百三十銀行」の工事途中の明治33年、逝去する。小三郎は、施工ばかりでなく、設計も含めた監理に精励する。その功績が認められ、明治34年の竣工に際しては、月俸60円の他に、褒賞金1,000円が支給された。ちなみに、10年前の日銀時代の日給は2円15銭であった。また、当時の大工の一日の賃金は70銭、米一升10銭であった。

2 建築人生の華・アールヌーヴォーとの出会い

1900年(明治33年)、住友家から大阪市に寄贈される「大阪図書館」の工事が始まった。小三郎は、この工事の主任技師となる。住友家の顧問である辰野の要請であった。設計は、住友臨時建築部の野口孫市と日高胖。

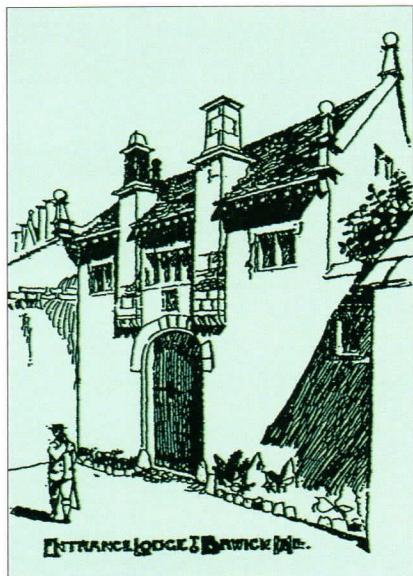
「大阪図書館」は、「大阪府立中之島図書館」として現在も使用されており、しかも国指定の重要文化財である。本来なら、ここで「図書館」の勇姿をアーリスティックに伝えるのが筋であるが、何しろ『NICHE』の編集はボランティアである。大阪まで取材に行く金がない。で、他人の言葉を代用する。関西の近代建築を語らせたら、この人の右に出るのがいないという気鋲の学者である。筆者などより、よほど信頼がおける。

——そのデザインは、円堂を内包する立方体の四方に三角破風を戴く直方体を配置するもので、正面だけポーチコとして開放されているが、大きく見ると幾何学形態を前後左右ともに対称に組み合わせることで出来上がっている。いわば、数学的な秩序が支配する構成である。しかも、その様式は古代ローマの神殿そのままの古典様式に従う。そこでは恣意性や即興性は徹底的に排除されているのだ。(石田潤一郎)

それよりも、読者の皆さまは覚えておられるだろうか。この「輝かしき先輩たち」の前回で紹介した、工手学校建築学科・第1回卒業生の山本鑑之進も、辰野金吾の招聘で住友臨時建築部にいたことを……。そう、わが輝かしき先輩の二人が、同じ会社で机を並べていたのだった。会社が退けて、この二人が道頓堀あたりの縄暖簾で「辰野先生は偉大な建築家だ」とホメたたえていたのか、はたまた「金コウの奴、人使いが荒いよナ」とコキおろしていたのか、歴史はロマンでありミステリーである。



ここに“近代オタク”なら随喜の涙を流すであろう逸品がある。「神本理髪店」という。設計は日高胖。野口孫市の設計による「住友銀行川口支店」とともに、日本最初のアールヌーヴォー建築である。この「神谷理髪店」を工事監



■「神本理髪店」

日本のアールヌーヴォー誕生にその名を残す 久保田 小三郎

督をしたのが小三郎である。

「本誌第二百十號に於て滋賀重列君は住友銀行川口支店を以てヌーボー式の例とせられたけれども、この神本理髪店こそは本邦におけるヌーボー式の好標本と稱すべきか、實に顯時に於ける理髪店としては帝國第一と稱するも不可なからん」と、『建築雑誌・第214号』(明治37年)は最大級の賛辞を贈っている。

小三郎は、この小品から——小品だからこそ、アールヌーヴォーの造形を徹底して学び、身体で覚えた。この時のアールヌーヴォーとの出会いが、小三郎を設計者としても日本の近代建築史上に惨然と輝かせることになる。

「神本理髪店」を、二人の男が観ていた。——鴻池忠治郎と鴻池忠三郎。鴻池組の創業者と、初代社長である。鴻池組は、設計者と施工者という関係で、住友臨時建築部とは密接な関係にあった。そして、忠治郎・忠三郎親子は、自社が施工した「日本鋳鋼所・島尾工場」における小三郎の工事監理の技量を高く評価していた。

それは、敷地面積=4万4,461m²、延床面積=1万6,526m²、建屋=24棟という巨大な工場であった。鉄骨をアメリカに発注したのだが、サンフランシスコ大火災により納入が遅延。重ねて日露戦争後で建築資材は払拭……でもメゲずに小三郎は立ち向かい、わずか半年の遅れをもって、明治40年、見事に竣工させる。

「神本理髪店」を眺めながら、二人は「島尾工場」の波乱万丈を思い出していた。折しも、忠治郎と忠三郎は、鴻池組の発祥の地である大阪は此花区伝法に、本社屋と本宅の建設を計画していた。「アールヌーヴォーでやりたい」。二人の脳裡を過る人間の姿は共通していた。「工事監理は決まっているようなものだが、さて設計者だ。これだけのアールヌーヴォーを身につけたのだ、間違いはなかろう。設計も彼に任せよう」。——というわけで小三郎、鴻池組の新社屋、即ち「旧・鴻池本店」と「本宅」を設計・施工することになるのであった。

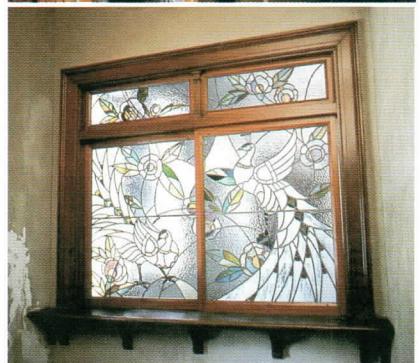
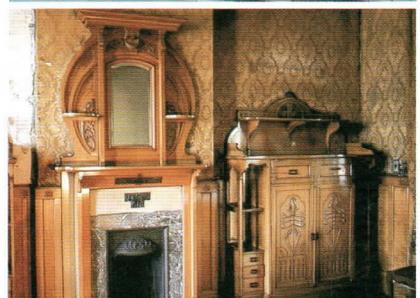
ただし、歴史は錯綜している。「本店」「本宅」とともに明治42年に上棟しているのだが、忠三郎の意向で3年後に改築され、その時に今のアーヌーヴォーになったのだという。しかも、改築は相原雲楽が手掛けたという。

相原雲楽とは、高村光雲の高弟の彫刻家で、住友臨時建築部に彫り師として在籍していた。いわば小三郎の同僚である。だから、話は余計にヤヤこしくなるのだが、ここに強力な援護射撃になる一発がある。

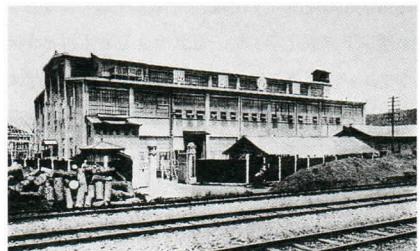
「さて結論だが、この建物を研究した神戸大の足立裕司さんは、設計者として久保田の方を探っておられるので僕もそれに従いたい」(藤森照信)。

3 建築人生の山・「旧松本家住宅」との出会い

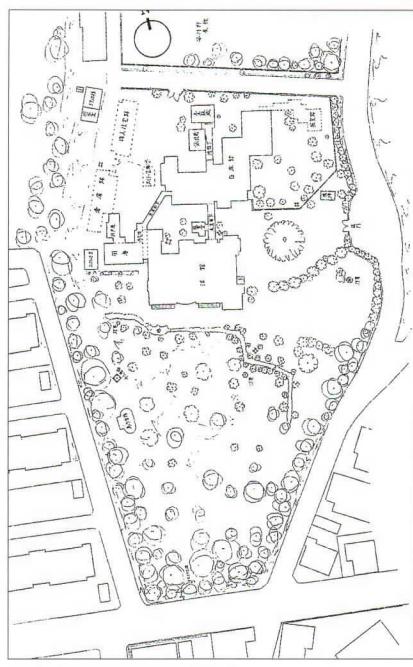
1908年(明治41年)が明けて早々、小三郎は、北九州戸畠の「明治専門学校」の工事監理に招かれ、当時の雇用通例に習い、安川松本臨時建築部の建築主任として就職する。石炭で一大の財を築いた安川敬一郎と松本健次郎の親子は、戸畠に“ユートピア”を計画、その一步として工業大学と小学校を創設す



■「旧鴻池本店」



■「安川電機製作所・本館工場」



■「旧松本家住宅」配置図



■「旧松本家住宅」俯瞰

る。工業大学が「明治専門学校」である。

そのユートピアの迎賓館として建設されたのが、冒頭の「松本健次郎宅」即ち「旧松本家住宅」であった。まずは「日本館」が建てられ、これは小三郎の設計である。続いて「洋館」が計画される。どうやら、アールヌーヴォーを採用するらしい。結局、設計は“いいトコ取り”的御大将・辰野金吾に委ねられた。「辰野先生にヌーボー式は似合わない。ヌーボー式なら私に任せろ」とは言わなかつたろうが、すでにアールヌーヴォーを自家薬籠中の形としていた小三郎、内心に期するものがあったに違いない。もとより、そんな“野心”はお首に出さずに、アールヌーヴォーの施工に打ち込む小三郎であった。

ここに、工事監理者・久保田小三郎の人となりを偲ばせるエピソードが残っている。

「……久保田というやかましい親父がおったんだ。あばたのある……ねえ、それが主監督でだな……その直営をその久保田がいまいうように非常に厳重なやかましやで、材料その他から、自分で選択するというようなことで……材料はたしか人吉あたりへ自分で乗り出して、木を切らせたりなどしたんじゃないかな。瓦だがね……瓦は戸畠のどこかの瓦屋に焼かせたんだよ、あれは。僕は、(瓦の)検査に行くのに、どういうわけだったか、久保田についていったことがあるんだ。それはもうやかましい親父でねえ。どんどん気に入らぬものははねるというわけで、まあ、材料屋泣かせだったかも知れぬ」——安川第五郎の言葉である。



■「旧松本家住宅／洋館」全景

日本のアールヌーヴォー誕生にその名を残す 久保田 小三郎

安川第五郎は、敬一郎の五男で、後に安川電機製作所を興す。この創業時の「安川電機製作所・本館工場」の工事を総監督したのも小三郎であった(1919年／大正8年)。ここでも、“鬼の監督”を如何なく発揮、松杭の半数近くをハネ物にし、キレた納入商店の人間が、安川電機製作所の担当者の自宅まで怒鳴り込んだという逸話が残っている。

いやいや、小三郎の“材料屋泣かせ”的厳しさは相当なものだったらしい。

■□■

「旧・鴻池本店」は「旧・松本健二郎邸」とともに“アールヌーヴォーの姉妹館”といえる——と、歴史は語る。“兄弟館”ではなく“姉妹館”というところに、アールヌーヴォーの造形の真骨頂が表現されている。

その後、小三郎は自らの会社を興したり、木子七郎の設計事務所に勤めたり、建設会社に移ったり、日本のアールヌーヴォーを草創した業績の割には“不遇”であった。その一徹さ故であったかどうかは判らない。しかし、下請に厳しいのが、良い・悪いはともかく、大手の組織にいてこそ有効なのであって、フリーになってもなおその姿勢でいたら、孤立してしまうというところはあるだろう。

——そして、1934年(昭和9年)に逝去する。享年66歳であった。

「大阪図書館」「旧松本邸」「旧鴻池本店」は現存する。しかも前の二作品は国の重要文化財である。わが工学院大学の先輩の、まさに輝かしき業績である。

(レポート：類洲環)

■引用文献・参考文献

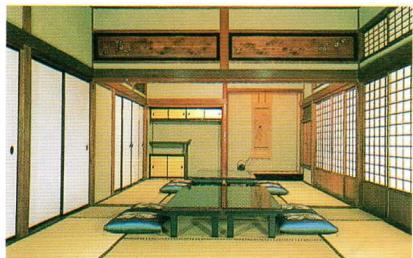
- ①『アール・ヌーヴォーの館旧松本健次郎邸』(増田彰久・藤森照信・小泉和子／三省堂／1986年)
- ②『建築探偵東奔西走』(藤森照信・増田彰久／朝日新聞社／1988年)
- ③『建築探偵の謎』(藤森照信・増田彰久／王國社／1997年)
- ④『関西の近代建築：ウォートルスから村野藤吾まで』(石田潤一郎／中央公論美術出版／1996年)
- ⑤『建築人物群像』(土崎紀子・沢良子／住まいの図書館出版局・星雲社／1995年)
- ⑥『総覧：日本建築5東海』(新建築社／1986年)
- ⑦『日本の様式建築』(『新建築』1976年6月臨時増刊／新建築社／1976年)
- ⑧『新版・新全国歴史散歩シリーズ40福岡県の歴史散歩』(山川出版社／1989年)
- ⑨『建築雑誌』(第214号／1904年)
- ⑩『旧松本家住宅修理工事報告書』(西日本工業俱楽部／1982年)
- ⑪『Engineering Topics』(第8号・10号・11号・32号・33号・37号・38号／鴻池組)
- ⑫『安川電機75年史』(安川電機製作所／1990年)



■「旧松本家住宅／洋館」1階大ホール



■「旧松本家住宅／日本館」全景



■「旧松本家住宅／日本館」中央書院

横須賀のまちづくりと建築行政



安藤眞巳

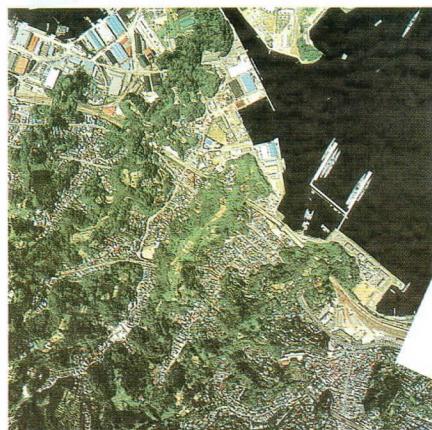
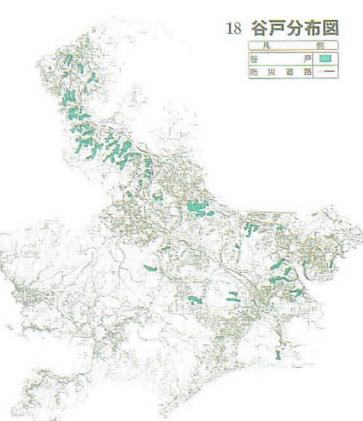
1966年●建築学科卒業

現在●横須賀市庁舎都市部部長

横須賀のまちづくりに建築行政がどのように係りをもち、どのような役割を担っているかを述べ、今後、まちづくりを展開していく上で、建築を志す同志の参加がいかに重要かに触れたいと思います。

①私の住む横須賀

1966年(昭和41年)3月、荻原研究室を卒業し、生まれ育った横須賀へ、東京から南へ50kmの三浦半島のほぼ70%(市域面積100.58km²)を占め、三方を東京湾と相模



湾に面した気候温暖、海と緑の豊かな人口43万人の開国之地・横須賀、そんな横須賀へ職を求めて早34年、たいへん住み良い都市であります。

しかしながら、別図の地形図をご覧いただければお分かりだと思いますが、低い丘陵、台地が入り組んだ地形。これを「谷戸」といいますが、この谷戸が非常に多く、全国一といわれているトンネル数も120カ所、さらには米軍基地、防衛施設が市域の6.2%を占めるなど、まちづくりに携わる者にとって、これほど難儀で楽しく仕事ができる都市は、他にないのではないかと、近頃は自嘲気味の今日この頃であります。

②そんな横須賀のまちづくりへの取組み

今、横須賀は、基本目標に都市像として「国際海の手文化都市」を掲げ、国際性豊かな感性溢れる文化都市を目指し、わがまちでこれだけは誇れるという、従来の横並び思考から、「差異化」「差別化」をキーワードに、さまざまな施策を進めているところです。

アメリカのシリコンバレーにも匹敵するといわれている移動通信開発研究施設の集積基地「YRP」(ヨコスカ・リサーチ・パーク)(素晴らしい所です、必見!)、電子市役所の実践、ISO14001の取得、契約制度にインターネット導入、中核市への移行、都市的部と自然とが共存する環境の保存と創造(昨年、緑の都市賞内閣総理大臣賞受賞)、豊富な近代建造物の保全と活用、さらには職員による横須賀型耐震補強システムの確立と特許出願などなど、これら全てのプロジェクトに係りをもつ70名弱の建築職員の活動に負うところが大である。

③今、建築行政は期待されている

このように本市のまちづくりへの取組みは、ハード・ソフト両面に渡っており、その情報の受発信がポイントとなっている。

そのような取組みの中で、建築行政が求められる役割は、必然的にたいへん複雑多岐で、またその対応も質的に高くスピーディーな行政対応を当然とする住民ニーズに応えていかなければならない状況である。ここ10年ほど前までは、建築基準法に基づき「違反建築の防止と建築確認」でのまちづくりとともに「道路位置指定」「2項道路問題」「総合設計制度の活用指導」「建築協定」「地区計画制度の活用」など、個別事案対応できた感がする。

同窓生からの便り

しかしながら、近年の建築行政需要は、さまざまなプロジェクトに企画の段階から参入、そして仕上げの段階での係り、さらに右表(建築確認調整表)に示すように、役所と建築主とのパイプ役となっている。

例えば、本市では全て建築確認申請の前段で景観推進事業の具体的誘導として、外壁などの色彩相談、指導を受けることをお願いするなど、建築行政と景観行政との連携により市民の理解を得な

がら推進している。これらは、建築行政サイドからの情報発信と誘導がなくてはできない施策である。まさに、まちづくりの総合コーディネイター的役割へと大きくその係りも変貌を遂げてきている。

一方、行財政改革に取組む本市としては、建築職の削減か現状維持など、そのマンパワー確保は、必ずしも十分ではない状況にある。

最近「21世紀の生活を支える住宅・宅地政策」が示されたが、ますますスピーディーな対応が求められてくるであろう。

そのため、従来にも増して、官民協働型によるまちづくりが必要不可欠であり、その成否を握っているといつ

部	階	課名	課長印	各課	部	階	課名	課長印	見欄
都市部	分—4	都市計画課			土木部	本2—5	幹線道路推進課		
	分—4	まちづくり課				本2—4	道路建設課		
	分—4	景観推進課				本2—4	道路維持課		
	分—4	開発指導課			下水道部	本2—3	下水管理課		
	分—4	建築指導課	(建築相談担当)			本2—3	下水・河川維持課		
	分—3	住宅課	(建築指導担当)			本2—2	施設建設課		
経済部	分—5	産業政策課			教育委員会	本1—6	総務課		
	分—5	商工・消費生活課				本1—6	学校管理課		
	分—5	農林水産課				本1—6	生涯学習課		
健康福祉部	分—2	健康福祉総務課				本1—6	学校教育課		
環境部	本1—4	環境管理課			総務部	本1—5	総務課		
	本1—4	環境指導課				本1—5	財産管理課		
緑政部	本2—6	公園管理課			企画調整部	本1—4	企画調整課		
	本2—6	傾斜地保全課				本1—4	文化振興課		
港湾部	本2—5	港湾総務課				本1—4	基地対策課		
	本2—6	海辺ニュータウン課			市民部	本1—4	青少年課		
土木部	本2—5	交通対策課							
	本2—5	道路管理課							
	本2—4	用地課			備考				

ても過言ではない。

そのような意味からも、パイプ役の建築行政が今後、期待される所以である。

④そんな横須賀に建築の同志よ目を向けてください

横須賀のまちづくりについて縷々申し上げてきましたが、私の所管する都市部9課120名のまちづくり集団は、ない知恵を絞り、あらゆる工夫をし、日夜、努力をしております。

こんな市もあることをお見知りいただくことと、まちづくりにはこんな方法もあるよと、同志からの知恵の提供にご協力いただくことを期待し、併せ、皆様方のますますのご活躍を祈念して投稿させていただきました。



■ YRP——総面積=約60ha。〈研究開発〉〈グランドセンター〉〈居住〉〈リフレッシュ〉の4つのゾーンから構成される一大テレコム研究都市



建築技術家懇談会の紹介とその活動について



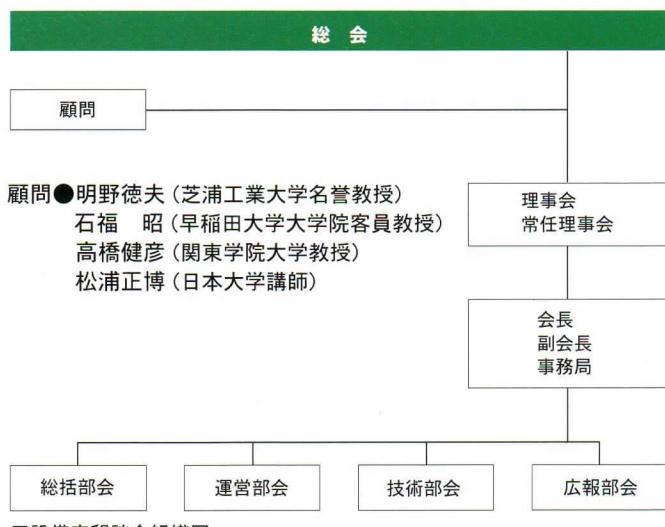
日和佐 章

1971年●建築学科設備工学コース卒業
現在●石本建築事務所・環境設備計画室次長

建築設備家懇談会は設立13年目を迎えるところとなり、会の運営も地に足のついた活動が進められています。本会の目指す理念は「建築設備家のるべき姿を探り、その社会的位置付けを明確にする」ところにあります。建築学科同窓会誌『NICHE』の紙面を借りて、本会をご紹介したいと思います。

①設立と組織について

建築設備家懇談会は平成元年に東京在籍の総合設計事務所22社(INA新建築研究所、梓設計、RIA、RB都市建築設計、石本建築事務所、伊藤喜三郎建築研究所、岡設計、教育施設研究所、楠山設計、久米設計、黒川紀章建築設計事務所、交建設設計、佐藤総合計画、大建設設計、東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田、三菱地所一級建築事務所、安井建築設計事務所、山下設計、横河建築設計事務所)を中心とした基本的には個人参加の団体であり、その組織と会員構成は下記の通りです。



◆会員構成と所属会社

正会員	本会の認める会社に所属する建築設備の設計監理業務を専業としている者で、原則として経験3年以上の者とする。	154名
交流会員	建築設備の設計監理業務を専業としている者で、原則として経験3年以上の者とする。	20名
法人会員	正会員所属会社(法人)とする。	14社
交流法人会員	交流会員所属会社(法人)とする。	17社
賛助会員	この会の目的・事業に賛同し、支援、賛助する公益法人とする。	8社

賛助会員として東京電力、東北電力、東京ガス、東邦ガス、大阪ガス、北海道ガス、西部ガス、東日本電信電話の8社にエネルギー関連の公益法人として参加していただいているが、メーカー、業者などの寄付、援助は一切受けていない団体です。

運営資金は会費および見学会・講演会などの事業収入のみで、ほとんどが会員各位の手弁当による活動で運営されています。

②設立主旨と事業内容

設立主旨は「建築設備に携わる技術者として、今日の情報化、国際化が進む中で社会の変動やあらゆる要求に対して、設計業界として対応するために企業内に留まることなく、広く横断的つながりを持ち、情報の交換、発信等を行うとともに、会員の相互の親睦、技術の研鑽を計り、21世紀に向けて大いなる飛躍を目指す」というものであり、今までになかった設計事務所同志の横のつながりをベースに、各種データベースの共有化、各社の事例報告会や各種講演会を通じての若手設計技術者の育成ならびに下記の諸団体への参加協力が主たる事業内容です。

[諸団体への参加協力]

★(社)建築・設備維持保全推進協会 (BELCA)

- ①建築物の「維持保全計画」を策定
- ②講習会用テキストの作成
- ③講師の派遣について協力

★日本建築センター

防災評定の簡素化について協力

★(財)日本ガス機器検査協会

「ガス機器設置技能資格制度の普及に運営委員会の一員として参加

★(財)建築コスト管理システム研究所

市場単価導入による公共建築工事の「新積算体系の構築」について第三者機関の一員として参加

★日本吹出口工業会

会報への原稿投稿ならびに講演会への講師に派遣協力

★地球環境時代の建築と設備

早稲田大学理工学部総合研究センター・プロジェクト研究室の構成員の一員としてLCA手法の研究に参加

[機関紙等の発行]

★技術報 TEAM (Technical, Electrical, Architectural & Mechanical) の発行

★広報誌 BES (Building Equipment Engineers Society) の発行

③建築設備家懇談会を通しての私見

建築設備家として、建築設備を考える時に「設備を設計しているのではなく、建築を造っているという視点を持つこと」や「創造的空間、あるいは環境衛生的空间に対して踏み込んでいく技術的資質を高めること」が重要であり、建築設備家は、地球環境時代に最初に相談を受ける技術者であり、「環境統合技術者」の意志をしっかりと持って、建築家に対して対等に意見を述べる必要があります。

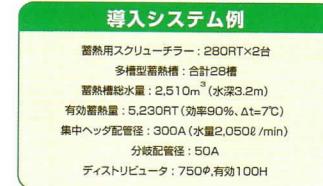
また、建築設備家は、ライフスタイルという建築の生涯に対する評価、あるいは今後大きな市場である既設建物のリニューアル工事に対してもその存在が評価されるであろうし、プロジェクトマネージャーの適任者であることも自ら認識する必要があり、統合力、提案力などを若い時から訓練することが重要であると痛切に感じています。

④設計事例の紹介

私は建築設備設計の実務を通して追求しているもの一つに「蓄熱空調システム」がありますが、最近の設計事例を次に紹介します。

[多槽型温度成層式蓄熱システムの開発・導入]

「志木駅東口第一種市街地再開発事業施設建物」に、地球環境負荷低減に結びつく高効率「多槽型温度成層式蓄熱システム」を開発、導入し、その性能を検証し、この成果を9月27日～29日に岩手県立大学で行われた空気調和・衛生工学会学術講演会に、(株)ダイダンと共同で



発表しました。

今まで建物の地下二重スラブ空間を蓄熱槽として利用する場合は、連通管による混合式の蓄熱槽として利用していましたが、蓄熱効率は50%～60%と低く、また運用時の取扱いが難しいものでした。そのため、必要な蓄熱容量を確保できずに蓄熱空調そのものを断念するケースもありました。

混合式に比べ、温度成層式蓄熱槽は90%以上という蓄熱効率が可能ですが、専用の蓄熱槽（主に単槽）が必要となり、建築コストを大きく押し上げるものとなっていました。

以上のような問題を解決したのが、“多槽型温度成層式蓄熱システム”です。分割されたスラブ空間をそれぞれ温度成層式蓄熱槽として機能させ、この多数（合計28槽）の水槽をあたかも単一の温度成層式蓄熱槽のように扱えるようになりました。そのため、蓄熱槽としての建築コストを抑えながら、高効率、大容量の蓄熱槽を実現できました。

開発の背景として、導入対象の建物は地下2階の規模で支持地盤が概ねGL-14mと浅く、必然的に4.5mと一般より高さのある地中梁を持つ二重スラブができたことがあります。そのスペースを有効活用する観点から“多槽型温度成層式蓄熱システム”が発想されました。また、この蓄熱槽は市街化再開発事業における地域防災用水あるいは大震災時の非常用水（コミュニティタンク構想）の役目を担う社会的背景もあります。

詳細については「平成12年度 空気調和衛生工学会学術講演会論文集」を参照されれば幸いです。



■「志木駅東口第一種市街地再開発事業施設」

25年間のあれこれ —高速道路との関わり



塩坂雅史

1974年●建築学科建築学コース卒業
現在●日本道路公団
東京第一管理局保全部施設制御室長

皆さん、はじまして。そして大変ご無沙汰しております。

大学を卒業して、早25年が経過しました。一見「建築」とは縁の薄い日本道路公団に就職し、現在は東京第一管理局保全部施設制御室という部署に勤務しています。

日本道路公団（JH）は「日本道路公団法」制定により、1956年（昭和31年）4月15日、特殊法人として設立されました。主な事業は、有料道路（高速道路、一般有料道路）の建設と管理で、高速道路の予定路線 11,520 km の内、2000年4月現在で 6,615 km が供用しています。ちなみに小生が入社した1975年（昭和50年）4月時点での供用延長は、1,518 km でした。首都高速、阪神高速、本州四国連絡橋は、公団でも全く異なった組織です、念のため……。

組織は、1996年（平成8年）から経営改善委員会の提言により統廃合を実施し、現在は[右]の組織図のようになっています。職員数は約8,800人で、そのうち建築職はわずか150人弱です。詳細を知りたい方はホームページ(<http://www.japan-highway.go.jp/>)を見て下さい。

建築に関する主な業務は休憩施設、料金所、管理局、管

理事事務所、工事事務所、トンネル換気塔、職員宿舎などの計画・設計・工事・管理を行うことです。

JH 生活 25年間での勤務地は、関東に約14年、他に盛岡、柏崎、広島、仙台と本州のみですが13箇所（本社、東京第一管理局は2回）で、転勤移動距離は4,000 km を超えました。その間に2年4ヶ月間、東京湾横断道路株に出向、4年3ヶ月の単身生活も経験しました。その中から、思い出深い東京湾横断道路株に出向した時のことを紹介します。

出向した1991年（平成3年）7月は、シールドトンネル工事の為の発進基地で後にトンネル換気塔として利用する鋼殻ケーソン・川崎人工島の建設、橋脚の設置、トンネル工事用の海底電力ケーブル・給水管布設工事を準備している時期で、並行して休憩施設、換気塔、受配電・自家発電設備、トンネル換気設備、トンネル非常用設備、照明設備、情報板設備、遠方監視制御設備などなどの基本設計を実施する時期でもあり、幅広く携わることができました。会社は建設省・自治省、出資した各自治体・各企業そしてJHからの出向者で構成され、当時建築担当者は一人でした。最初に担当した展示館（マリンロードプラザ）は、残念ながら開通時に解体されてしまいました。

「海ほたる」は、トンネルから橋への接続に必要な木更津人工島を有効活用するように計画された施設です。土木構造物の上で、環境アセスメントの範囲内という制約の中で建設可能な規模算定から始め、駐車場、営業施設、トイレなどを計画し、設備では排水を極力減らすべく、洗浄水は中水を利用することにしました。デザインは、



■「マリンロードプラザ」



海ほたる



■左:海ほたる／右:風の塔

以前から「船のイメージ」でオーソライズされていましたのでそれに従い、海の上という特殊な立地条件でもあり、「非日常的な空間作り」をコンセプトに計画しました。狭いスペースでのランプの配置、Uターン可能な構造、採算を考慮した営業施設などに苦慮しました。

トンネルの道路下を救急車、作業車が走れるのを知っていますか。非常時は車道下へ避難でき、また下から消防隊員等が車道にあがれるようにもなっています。車道下に煙が行かない様、換気を制御しています。川崎人工島には4t車用のエレベーターが設置されており、緊急時は負傷者を乗せたまま地上に出て、ヘリコプターで搬送することもできるようになっています。

2000年(平成12年)2月から勤務している東京第一管理局は、東名高速道路の東京～三ヶ日間と神奈川県・静岡県の一般有料道路を管理している機関です。保全部は舗装の改良、構造物の補強・改良、休憩施設の改良、照明・情報提供施設など諸設備の改良および事故復旧清掃等の保全、点検等を担当しています。その中で施設制御室は、受配電・自家発電設備、照明設備、情報提供設備、トンネル内設備、気象観測設備、防災用衛星通信設備など諸設備の稼動状況の監視・制御、大雨・地震・霧など気象状況の監視およびトンネル内のカメラによる監視と火災事故などの非常時対応を24時間(2交代制)行うために1998年(平成10年)3月に設置された部署です。併せて効率的・経済的管理をするための各種データの統計、解析も行っています。現地設備から光通信ケーブルにより伝送されたデータは中央処理装置で処理され、管理運用しています。昨年末話題になったコンピューター2000年問題も

事前の対策により、体制はとったものの問題は起きました。JHに入社し、バラエティに富んだ業務を担当し、苦労もありますが楽しい日々を過ごしています。東名高速道路の入口、東京料金所の後ろの建物にありますので、お立ち寄りください。

PR:来春からETC(ノンストップ自動料金収受システム)が全国で開始する予定です。

車載器を購入し、料金所での渋滞解消にご協力を。

東京都、神奈川県、静岡県内で高速道路情報を携帯電話の短縮 '# 8162' で聞くことができます。通話料金はかかりますが、ご利用下さい。

■□■

◆鋼殻ケーション:幅64m、奥行44m、高さ27.6m／壁厚3mの蓋の無い鋼製の立方体

◆川崎人工島:外径104m、壁厚2.8m、壁深119mの連続壁の内側に内径90m壁厚4m、高さ75mの円筒形の構造物／鋼製護岸(ジャケット)を含めた外形は、195m、海底掘削深度は45m／道路は地下5階にあたる

◆シールドトンネル:直径14.14m、重量3,200tのシールドマシン/8基で掘進。地中で接合。海底下土被り約15m

◆木更津人工島:幅100m、長さ650mの人工島／鋼矢板140枚をつないだ直径22mの円筒形(鋼矢板セル)を連結して護岸を形成



■施設制御室

アジア・アフリカでの設備設計を通して、今、感じること



肥田 淳

1979年●建築学科卒業
現在●タイ鹿島建設
M&Eセクション・マネージャー

前書き:私は1979年に工学院を卒業以来、ずっと工事畠を歩み続けてきたものですから、『アジア・アフリカでの工事管理を通して、今、感じること』が正しいかも知れません。また『アジア・アフリカ』と言ってもピンと来ないと思いますが、具体的には1992年の8月以来、タイ、ミャンマー、スリランカ、ジンバブエ、ガーナ、レバノン、ヨルダンといった国で仕事をする機会に恵まれました。学術的な読み物としてではなく、一設備担当者の体験記程度に思って読んで貰うと気が楽であります。

①タイ

1992年8月から1995年10月までと今年の5月以降をタイで過ごしております。昔は東洋のベニスとも言われた国で、バンコク近郊は海拔が低く場所によっては満潮時道路が冠水してしまう所があります。ある工業団地などでは地盤沈下がこの8年で40cmを越えており、表玄関の階段を一段増やしたにも拘らずもう一段増やすないと間に合わないといった会社が実際にあります。

散水栓用にポリエチレン管を地中埋設していた物が竣工後2年経たない内に何十箇所で漏水事故が起き、約1,000mに渡って建築の側溝の中に露出でやり直した現場も実際にあります。つまり、タイでは埋設配管は可能な限り止めた方が良いようです。空調機の屋外機などもできれば杭をしっかりと打ち基礎を作らないと、基礎が30cmも落ちて冷媒管の銅管がすっぽ抜けるような事故も実際に起きてています。

タイは6月から11月は雨季であります。ところが日本の梅雨のように一日中シトシト降るような雨ではなく、ドカッと降ってカラッと晴れるイメージであり、瞬間的な雨の量は物凄いです。また、前述のごとく海拔が低い上にインフラが未だ整っていないため、バンコク市内の



■タイ・バンコクの有名な寺院の一つである“暁の寺院”こと「ワットアルン」

同窓生からの便り

至る所ですぐ雨水がはけきれなくなり、結果、洪水となることがよくありました。あるマンションでは道路(公道)の水が滝の様に地下の駐車場に流れ込み何十台という車が水没しとなりました。タイでは可能な限り地下には構造物を作らない方が良さそう(土木工事自体物凄く大変)ですし、万一地下がある場合、雨水のことを十二分に考慮しないと大きな問題となります。現在、バンコクに日本の資本も参加して地下鉄を建設中ですが、公道が洪水となった場合の雨水流れ込み防止をどのように考えているのか非常に興味深いのですが、残念ながら調べる機会が未だありません。

タイにも消防法なるものはあるようなのですが、管理する機関がありません。よって消火設備は保険会社の規定によることがほとんどであります。良く聞く規定にNFPAがありますが、消火ポンプの大きさは最低で毎分250ガロン=約1,000ℓ(日本は最大で毎分300ℓ)であり、かつ建て屋が別だと合算しなくてはいけないようになっており、毎分750ガロンなんて馬鹿でかい消火ポンプになってしまふこともあります。

また、初期消火時間が最低30分(日本は20分)である上、日本と比べると消防署に対する信頼が薄いせいか、1時間以上の消火水量を要求するお客様がほとんどであり、結果、物凄く大きな消火水槽を作らなくてはならなくなってしまいます。日系のお客さんであれば日本の保険会社と契約することを勧め、イニシャルコストを節約するよう話をすることが良いと私は思います。

冷却塔の容量は皆さんご存知のように圧縮型冷凍機の場合、1冷却トン当たり冷却水量は13ℓであり、熱量は3,900kcalとなります。これはあくまで日本の場合でありまして、コンプレッサーの負荷分を考慮した大変親切な容量設定となっているわけです。例えば1,000tのチラーがあれば1,000tの冷却塔を選定すればよいわけです。

ところが、冷却塔をローカル(タイ)で手配する時に手っ取り早く1,000tのものを選定すると容量が足りなくなってしまいます。コンプレッサーの負荷なんて考慮していませんから、カタログをちゃんと確認することが大切なわけですが、私の経験では2割アップした容量のものを選定すれば問題ないようです。

タイにも冬があります。12月から2月の3ヶ月です。ただし、寒いと言っても朝晩冷える(15℃前後)程度で、日中はやはり30℃を越えます。つまり、年中暑いわけでエアコンは冷房専用しか売っていません。タイに来たことのある方なら分かると思いますが、ホテルのロビーにしてもレストランにても良く冷えている所は多いのですが、残念ながらレヒーターがあって湿度を制御しているような所はまだ少ないようです。せっかく見晴らしを良くするためにホテルのロビーに大きいガラスがあるので、結露でガラスが曇ってしまっているなんても良く目にします。今後はもっと質の高い空調をお客さんに勧めていかなくてはと思っています。

②ミャンマー

1995年、かのウンサン・スー・チー女史が自宅軟禁状態から開放され各国のミャンマー詣でが盛んとなった折、私も2年半ほど仕事で首都ヤンゴンにおりました。

ほとんどの資機材をタイやシンガポールや日本から輸入した中で、鉄管や塩ビ管は何とか現地調達できたのですが、一番困ったのが継ぎ手でした。継ぎ手の種類が全然、揃いません。また場所柄、タイ製、シンガポール製、中国製があるので、それぞれ規格が違うため、互換性がなく困りました。中国製の場合、品質もひどく、水圧テストをしたら継ぎ手の所ではなく鉄管のシームの所から漏れたりもありびっくりしました。

タイと陸続きなので国境貿易の可能性もいろいろと模索しましたが、ミャンマーは多民族国家で反政府軍が国境周辺に多く国境貿易はリスクが多い上、主要な橋は軍事的な理由で夜間通行禁止であったり、チェックが非常に厳しい上、法外な袖の下を橋毎に要求されたりとメリットがないので諦めました。

工業団地にてもシンガポールやマレーシアや日本などの資本が入って、一時は建設ラッシュでしたが、工業団地なのに井戸を掘らなければならなかったり、電話は引き込みに時間がかかり過ぎるので、とりあえず無線電話で対応したり、停電はほとんどないと聞いていたのが頻繁に停電であったりとインフラが極端に貧弱でした。現在はほとんどの外国人は引き揚げ、新しい物件の話は一切ないと聞いています。一時期を過ごした人間としては寂しい限りです。

③ ジンバブエ

1999年3月から2000年3月の工期の現場で、半分の6ヶ月をジンバブエで過ごしました。ジンバブエは南アフリカ共和国のすぐ北で、東にモザンビーク、西にボツワナやザンビアと接しており、一切海に面していない国であります。世界で日本の海外青年協力隊の数が一番多いという話を聞きましたが、実際とても治安の良い国でした。元英國領だったせいでみんな英語は達者で、町並みも綺麗で日本の商社の方で定年後をジンバブエに土地を買って過ごしている方もいらっしゃいました。内陸の国であるせいで気候も乾燥しており、夏でも暑さをあまり感じることはませんでした。また日本と同様、春夏秋冬の趣があり(言っても南半球なので日本と逆ですが)日本人にとってはなかなか過ごし易い国でした。

この国で困ったのも、塩ビ管の継ぎ手でした。まずびっくりしたのがカタログに表記されていた数字が配管の外径であったことです。つまり $50 \times 40T$ と書かれてあるのは、日本で言う 40×32 のチーズと言うことでした。そして困ったのが、カタログに表記されているのに実際に売っていないことでした。日本で言う65Aや80Aは需要がないと言うことで売っていないといいうい訳でした。地中埋設配管で図面上65Aや80Aと書かれた配管は、輸入する時間的な余裕もなくしょうがないので、サイズをアップして100Aのものを仕方なく使いました。

また、湿度制御をする部屋があったのでエアコンメーカーを呼んで打ち合わせたのですが、再熱ということも



■世界三大瀑布の一つといわれるジンバブエの「ビクトリアフォール」

知らず、ヒーターの段数制御やレヒーターを使うにあたってのファンとのインターロックや高温カット用のサーモスイッチなど、すべてをいちいち教えなくてはならず疲れました。

④ レバノン&ヨルダン

上記ジンバブエの現場を担当している折、現場が忙しくなって応援に行きました。レバノンもヨルダンもおよそ2ヶ月の応援でした。両国ともいわゆる中近東に位置する国なのですが、レバノンには砂漠ではなく非常に温暖な気候でありながらスキーを楽しめる山がありましたし、ヨルダン滞在中には30cmの雪が降ったりと、中近東=砂漠の国=物凄く暑いと言う既成概念はもうくも崩れ去りました。

この2カ国でも困ったのは、塩ビ管の継ぎ手でした。エアコンを日本から輸入していたのですが、ドレンホースにうまく合うサイズの塩ビ管がローカルで見つからず困りました。ヨルダンでは衛生陶器も日本製であったため、備品の管理に気を使っていたにも拘らず、やはり物がなくなり日本から随分工アカーゴを飛ばしました。アフリカ・中近東の場合勢い何でも日本製というような現場が多いように思うのですが、現場管理も大変なのですが竣工後のメンテナンスも考慮して、できるだけローカル調達とするようにするべきだと思います。

長くなりましたが、この辺で筆を置かせていただきます。読み返して見ますと大したことが書かれていず、恥ずかしい限りです。逆にここまで読んで下さった皆さんへの優しさに感謝致します。ありがとうございました。



■レバノンが世界に誇る巨石遺跡の一つ「バールベック」

“造る”に接して



久保田康弘

1982年●建築学科建築学コース卒業
現在●大成建設・建築営業本部

私は、東京の山手線の中の材木屋の番頭の子どもとして生まれました。

木材と一緒に暮らしていたため、木の香りを嗅ぎ、製材の音を聞き、材木を担ぎ刻む人を見たりしながら育ちました。物心ついたころより、材料があり人がいて物ができることがごく自然に私の周辺にありました。“造る”という環境の中にいたためだと思います。不思議なもので、住環境が変わって約20年になりますが、今でも視覚の記憶だけではなく、その時の音や香りの記憶も目をつぶると思い出することができます。

大学時代も“造る”を好み、入学当初からずっと施工と材料の講義を選択しました。私の中での建築は、デザインを創るとか、空間を創る(作る)とかではなく、その当時から建物を造るだけに魅力を感じていたのだと思います。

吉田研究室にて工業化構法の卒論の作成をする際、当時の最先端の技術の現場でデーター入手の調査をさせていただきました。このことは毎日“造る”に接する現場監督を身近に感じる最高の機会だったと思います。調査中に竹中工務店の監督からは辛い仕事だから就職希望としてゼネコンの現場担当は選択すべきではないとのアドバイスを受けたのですが、厳しさのないところで短時間に接しただけのためか、目で見て肌で感じる雰囲気がなんとも言えず心地良かったと記憶しています。

この卒論作成の現場調査の経験が大きなきっかけとなり、ゼネコンの施工者となり大きなもの、いろいろなもの、最新のものを数多く“造りたい”という具体的な夢が自分の中で確立しました。夢かない、第二次オイルショックの就職難の時代に運良く憧れのゼネコンの現場監督になれたのも、建築を造りたいの一念があったから



■初めての現場「富士喜ビル」(東京・池袋／1982年)

だと思います。

1982年4月1日、大成建設の現場監督一年生、“造る”に大きな希望をもった私がいました。材料(物)を形にすることのみが造ることであると純粋に感じる私がいました。輝く瞳にヘルメットに安全帯、好きなことを仕事にできる大変幸福な私がいました。

入社以来、約9年間、さまざまな工事の現場監督としてたくさんの“造る”に接しました。

東京支店で事務所ビル、デパート、個人医院、飲食店舗ビル、大学校舎。名古屋支店で冷凍倉庫、食品工場(愛知県)、自動車部品工場(長野県)、水力発電所の外壁補強(岐阜県)、LSI工場、庁舎、公民館、多目的ホール(三重県)、ホテル宴会場リニューアル(愛知県)。東京支店に戻り、高級中層個人住宅、銀行社宅、高層事務所ビル……。

いろいろな経験をしました。会社に大変感謝しています。物に接し、厳しい自然条件に接し自分が力を出せば出すほどそれに比例して成果も増大しました。台風上陸時の管理、長野県西部地震時の工事遂行、事故対応など振り返れば厳しく辛い時間のほうが、楽しく嬉しい時間よりもはるかに多かったと思います。しかし、ゼネコンの



■監督最後の現場「ニューオータニ・ガーデンコート」
(東京・紀尾井町)

監督には建築を自らの手で直接造れるという何にも変えがたい責任感、満足感、充実感があります。良いものを作るには、人と物と自然あるいは意匠と構造と設備を自力で交わわせることだと体得しました。

社会人10年生の春、突然に営業部への配属の命を受けました。物を造るから得意先を造る、受注を造るへの大きな変換です。複雑な心境でした。大きな不安と小さな不満と新しい“造る”への期待を持ちながら、私にとっては未知の世界への再出発でした。

明確な目標のある仕事から、何もないところに目標を立てることから始める仕事になりました。同業他社との競争あり、施主との交渉あり、身内の他部門との葛藤あり、組織全体で汗を流してもマイナスしか残らない仕事も少なくありません。“造る”中身が変わり複雑な気持ち

を抱いた時期もありました。

しかし、時が経つにつれ、さまざまな“造る”に接するにつれ、以前より充実感を持つようになりました。“信用を造る”、どこかで情報を得られないか“発想を造る”、発注者と受注者の“共存を造る”など魅力的な“造る”が無限に存在するのです。

厳しい時代ゆえ明るく元気に行動しています。自分の人間性を武器にして人に、物事に接しています。自分と交わった人が動いたとき、目に見えない何かが必ず造られる信じ、その連続が顧客に満足を与える良い建築の完成になると信じています。

■□■

これからもさまざまな人や物事に接し、日々変化するさまざまな“造る”に接したいと思います。



■営業担当での最新作「トーア・三協ビル」
(東京・神田駿河台／1990年+1999年)

ベルラーへから



橋本しのぶ

1992年●建築学科卒業
現在●オランダ The Berlage Institute Post Graduate Laboratory 留学生

私がオランダ・アムステルダムに来てから1年が過ぎた。今年で31歳になるが、かつてこんなに充実した1年間を過ごしたことはない。ここThe Berlage Institute(ベルラーへ建築研究所)での刺激あり過ぎる学生生活を振り返ってみる。

①渡蘭

大学を卒業したのは9年前。

バブル崩壊の年に準大手ゼネコン設計部に就職し、実務経験を積んだ。自分が担当したPJで現実に竣工した建物は6年間で6棟。同期の中では仕事運に恵まれた方だった。一級建築士資格も挑戦2回目にして取得し、特別な役職も与えられ、男運以外(?)は順風満帆に見られていた28歳の私だったが、建築を創造することで、気持ちが高揚するような学生時代の貪欲さは失われていった。

建築の初心に戻るため、ゼネコンを退職。建築界を賑わしていたオランダにあるThe Berlage Institute Post Graduate Laboratoryに入学願書を送り、1年前に渡蘭したのだった。

②ベルラーへ

ベルラーへは少人数制の学校で、1・2年生合わせて40人程度。多国籍Tutor(講師)に多国籍学生で構成されているので、授業は英語で行われている。多くはイタリアやスペインなどの西欧人が占めるが、東欧のポーランドやユーゴスラビアなどに加え、日本人を含むアジア勢も少なくない。

Tutorもヘルツベルハーピー筆頭のオランダ人は元より、アメリカやイタリア、横浜客船ターミナルコンペの勝者ザエラ・ポロ(スペイン)など世界中から建築家がやってきて、学期毎に課題を与える。課題は現実に進行中のPJを、地元の団体と議論しながら現実の施主に対し、新たなプロポーザルを行うものであり、都市計画レベルから建築レベルまで、そのスケールは多岐にわたる。また、週に一度行われるEvening Lectureにはレム・コールハースやザハ・ハディドなどの有名建築家が最新作について講演してくれる。小さな学校のホールで行われ、誰でも無料で参加でき、講演会の終わりにはビールを飲みながらその日の講演会や建築について仲間と盛り上がる。

③授業 First Term

何から今まで日本とは違うので、初めは何が起こっているのか分からなかった。まず、教室というものがなく、作業スペースは個人が自らのスペースを確保して造る。

様子を伺っている間に西欧人が良い場所も机もしっかりと確保していた。授業も、“教える”先生と“学ぶ”生徒という図式は存在せず、意見あるものがいつでも誰でも主張する。

Tutorに意義があれば、話の途中であっても、学生がそれを遮り意見を言う。人の話は最後まで聞きなさい！的な発想は全く通用しない。学生が、椅子に深々を座りタバコを吸いながら自分の意見を言い、Tutorもそれに対して怒ることはなく、真剣に議論するのである。意見しない者は、そこに居ないのと同じで、誰一人「あなたはどう思う？」などと聞いてはこない。

西欧人の議論をテニスの試合を見るように、ただ追いかけるだけの日々が続く。ある意味ずっと優等生だった私を、ここでは誰も特別扱いせず、私自身と正直に向かい合い、自分のアイデンティティについて考えなければならなかつた。

④ Second Term

日本人なのに、西欧になろうとしていた自分に気がついたのは、2学期の後半だった。簡単で当然の事実ではあるが、いわゆる外人に対する日本人のコンプレックスを克服することと言葉の壁を乗り越えるのは容易なことではなかった。その学期も、都市計画レベルの大きくて抽象的なPJだったが、日本人の私が私らしく提案で



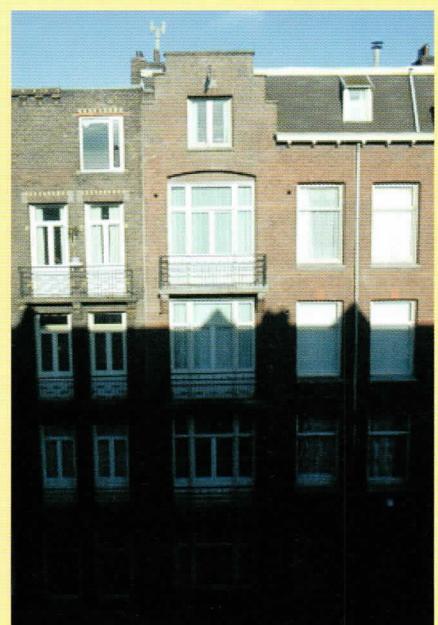
■居住区の界隈



■アムスの街



■電信柱ごと上がるアムス運河に掛かる橋



■学校

同窓生から の 便り

きる小さなトピックを見つけ、オランダ人Tutorからオランダ独自の設計手法Research & Datascapesを、議論を重ねながらそれを自分のものにすることできた。結果は上々。クリティック全員から「FantasticProject！」の言葉をもらう。アムスに来て、自分自身のこと、日本のこと、日本人のこと、TOKYOという街について客観的に考える機会をもつたことは、大きな収穫である。私は危うく、日本の良さに気付かぬまま、自分の中の日本を排除してしまうところだった。

⑤ Third Term

生活も学校も漸く慣れてきたが、3学期になっても驚きも刺激も絶え間なく続く。MasterClassという1週間のワークショップがあり、ほぼ1週間学校に泊まりきりで数人の仲間と一つのPJを作り上げる特別課題である。

今学期はGuestProfessorとしてAndreaBranzi(DomusAcademyの創設者)を迎える。Weak Modernizationというテーマが与えられ、コンセプトからドローイング、模型造りCGまでをproduceし発表した。

この課題で得たことは、ベルラーへではTutorからはもちろん学ぶが、グループ作業の中での議論より友達から学ぶことが一番の収穫である。ベルラーへならではの多国籍という特別環境の中で、それぞれが異なったバックグラウンドをもちながらお互いをより高め合う事にあ

る。そしてこの私も、東京という街で育ち、工学院で学び、ゼネコンでの実務経験を活かした私だけの意見を友達にぶつけることができたのだった。

⑥ 女は30歳から……

ベルラーへでは2年間かけて論文のテーマをResearch & Developし、最終的に修士論文として発表し、それがMasterの称号となるが、私のテーマはまさにその西洋思想と東洋思想の違いを軸にしている。私にはこれまでに自分にとっての建築の意味を考えたことはなかったが、ベルラーへに来て自分にとっての建築を真剣に考えることで、今後の自分の展望も徐々に明らかになりつつある。

一度社会に出て、自分の力を試し、言わば知識を社会に還元した。今はもう一度学生をやることで、新たな知識の吸収時期であり、またいつか社会に還元するそのための知識とパワーを充電する毎日である。

女は30歳から！をモットーにアムスの街を自転車で今日も走る。

■□■

質問、ご意見ある方はこちらまで。Ufu@xs4all.nl(日本語OKです)

TheBerlageInstituteについてはこちらまで。

Website:<http://www.berlage-institute.nl>



■ Master Class で Andrea Branzi にプレゼンをしているところ



■ 仲間(メキシコ人とタイ人)との
課題のプレゼンテーション

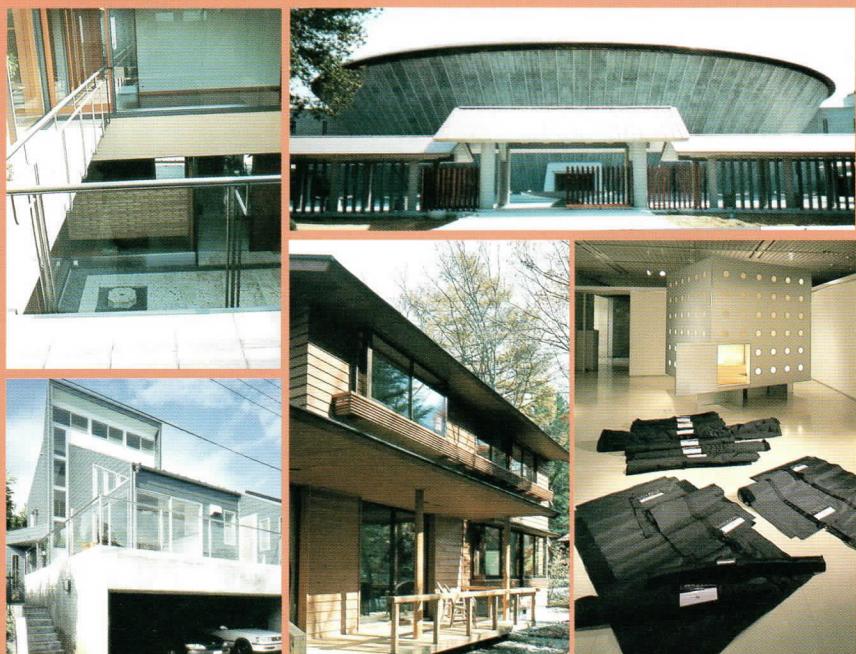


■ 多国籍の仲間
人、ドイツ人
(レバノン)
韓国人



■ 論文の中間発表
(クリティック:Wiel Arrets、Elia Zenghelis、Caroline Bos、Bart Lootsma)

NICHE GALLERY



このコーナーは、同窓会会員による“誌上作品展”です

「NICHE GALLERY」を見たマスコミが、あなたのところに取材にいくかもしれません

「NICHE GALLERY」を見た団体が、あなたの作品に賞を授けるかもしれません

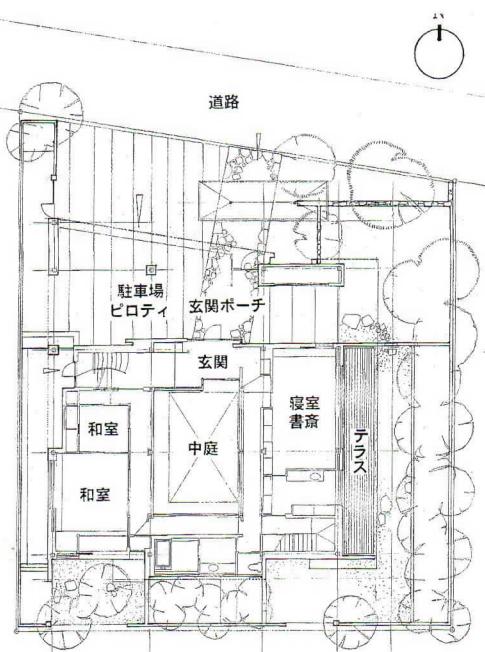
「NICHE GALLERY」を見た施主が、あなたのところに設計を頼みにいくかもしれません

……そうなるように、編集スタッフも頑張ります

「NICHE GALLERY」に、奮って投稿くださることを、お願い申しあげます

鴻巣の家

設計：濱田昭夫



■外構図 縮尺 1 / 500



■正面玄関ポーチ

JR高崎線の急行で大宮から二つ目の鴻巣駅、上野駅からは30分ほどで着く。この、“こうのす”、七五三の人形で知られる古い街でもある。まだ、駅への通りにはその面影がちらほら見られるのが嬉しい。街を抜け、国道17号線と上越新幹線の高架が交差する辺りをさらに北へ進んだ、駅からは20分ほどの所に、この建物はある。

この地域は、隣の足袋の街・行田市と接し、花の栽培の方が今日ではよく知られている。都心よりこの辺りまで来ると、さすがに田園風景となって刈り取った田畑、花のビニールハウスの眺めが広がり、その向こうに霞んで青い山並みが雲となって見える。何か遠くへ来たような気持ちにさせられる。

通りは、彩の国埼玉古墳のある公園に近く、この本道より一本入った裏通りに接し、周りは畑と空地のなって敷地の半分がまだ調整区域となっている。

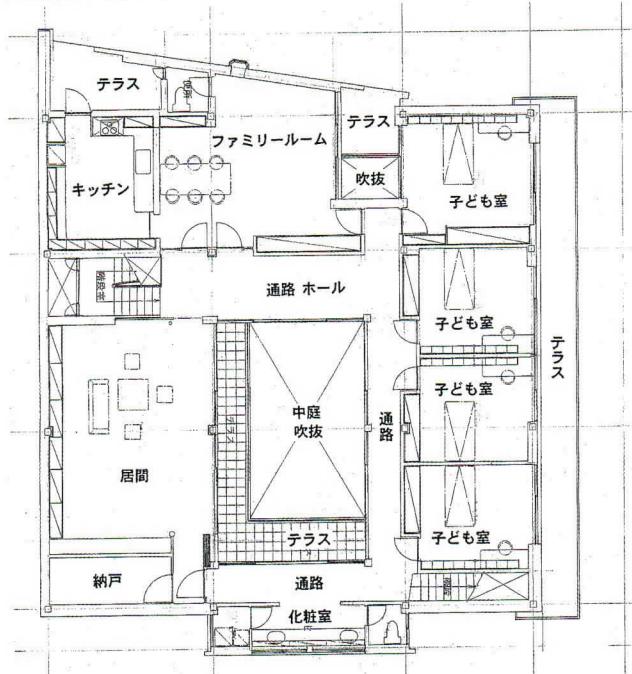


■上:玄関／右:2階テラスと中庭を見る

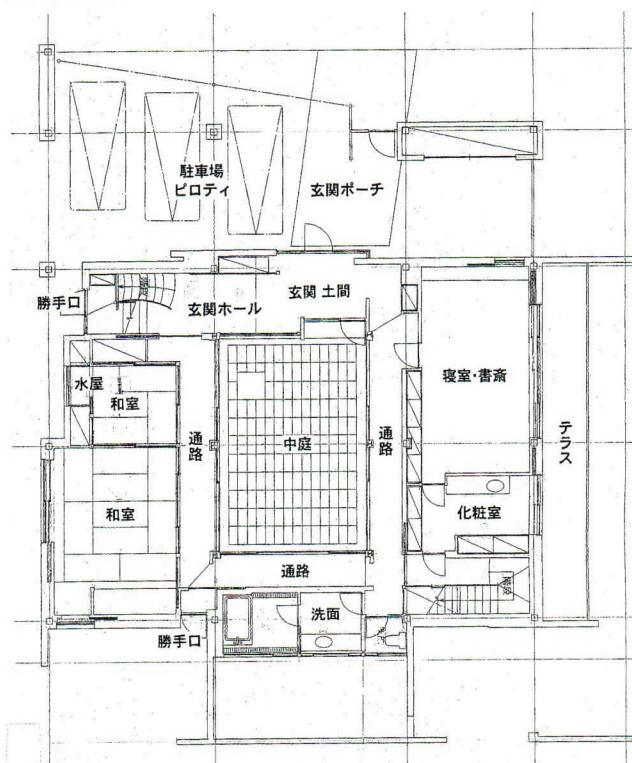




■断面図 縮尺 1 / 250



■ 2階平面図



■ 1階平面図 縮尺 1 / 250

◆ 1階

東の通りに接した正面は、道路よりストレートにアプローチさせるためのオープンな玄関とポーチ・駐車場を一体に、導入部分をピロティとしている。ポーチを進む玄関から、植栽を持たない中庭を建物の中央に取り、この中庭がこの建物のテーマになっている。大谷石を敷き詰めた庭を廊下と土間で囲み、北側に茶のための和室10帖と水屋を通気の間として、頻繁に行われる茶会に備えている。

南は竹林の庭に広めのテラス(スノコ敷き)を持つ化粧室と書斎を兼ねた寝室としている。東西は玄関土間とで中庭を通じるような動線で、西へ抜けられるようにしている。西側には庭のある浴室を配し、勝手・階段室を含めたプランとなっている。ピロティより進み、玄関・中庭・階段ホールが外と内との透明性と見え隠れを展開し、楽しめるようなことを期待した。



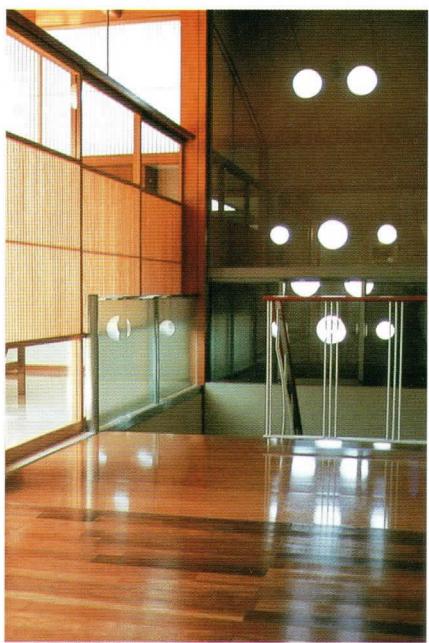
■ 1階中庭玄関よりの眺め

◆2階

1階が静かな場であるのに対し、2階は陽的な明るい場としたかった。吹抜けの中庭に面しテラスを持った居間は、一段高めの小屋掛けで開放感の出るような光と風（北側の高窓は自動開閉可能）の場を考えた。キッチン・食堂、特にファミリールームを設け、外と接するバルニーやトップライトを含め、外には閉鎖的でありながらも自然光と風を取り入れるよう心掛けている。

南に面した長手のテラスと子ども室には、特に4人の子どもを大切にする建て主に応えたプランとなっている。中庭廊下の四方対角線上に2カ所の階段を取り、主階段は特に広めに透明性のある明るいものとし、玄関からも寝室からもアプローチでき、プライベートとパブリックを使い分けられるような動線となっている。

エネルギー効率の高い建てる主は、生活の中に自然で飽きのこない少しばかりの遊び心を取り入れることを求められ、これに応えるような住まいづくりを心掛けた。



■2階階段室ホール



■2階——階段室より居間を眺める

所在地●埼玉県行田市

設計●TAC 濱田建築設計事務所

濱田昭夫

施工●大野建設

敷地面積●497.84 m²

建築面積●228.10 m²

延床面積●448.50 m²

1階●222.35 m²

2階●226.15 m²

構造●鉄骨造

竣工●1999年12月

■濱田昭夫



1942年●福岡県生まれ

1972年●工学院大学建築学科卒業

工学院大学波多江研究室入社

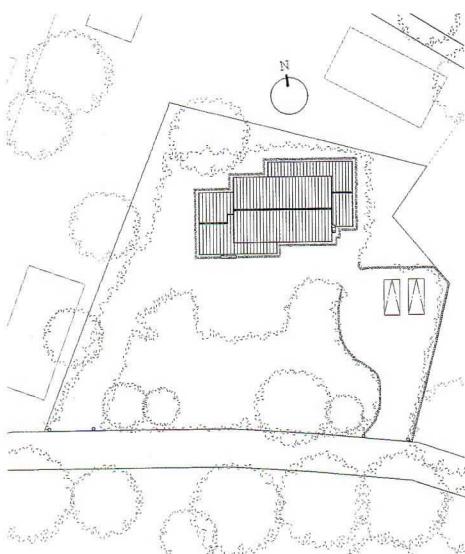
1984年●TAC 濱田建築設計事務所開設

1992年～1997年●工学院大学建築学科

外来講師

T山荘

設計：安岡清則



■配置図 縮尺 1/1,000

◆敷地

別荘地として古くから開発された旧軽井沢。この敷地は旧軽井沢テニスコートに隣接し、万平ホテルへの道すがらに位置する約500坪余りの敷地。回りを落葉樹に囲まれた軽井沢の中でも屈指の場所にある。

◆建物

この山荘は、施主の個人的な別荘と、社員の厚生施設の二つの機能を満たすために計画された。

施主の要望は、敷地内の樹木は極力残す。軽井沢らしいたずまいの外装。居間ができるだけ広くとりたい。

——以上3点だった。

敷地内の樹木を最大限に残すため、以前の建物とほとんど同じ場所に配置し、数本の樹木を移植することとした。

軽井沢らしい外装は、カラマツ南京下見板張りを採用することで施主の諒解を得た。

南向きの広い居間に食堂をつなげ、1、2階に三つのゲストルーム。2階北西の角に主寝室を設け、西側の窓からは、遠くに浅間山の勇姿がかすかに臨める。

冬期の利用も可能にするため、床暖房とクリーンヒーターを併用し、外壁は通気工法にて断熱その他、軽井沢仕様と呼ばれる寒冷地仕様を施工者と協議しながら、シンプルなプランと素朴な外装を心がけながら計画をまとめた。



最近はなかなか木造の仕事にめぐりあう機会が少なくなったが、この仕事を通じて改めて木造建築の手づくりの楽しさを実感した。

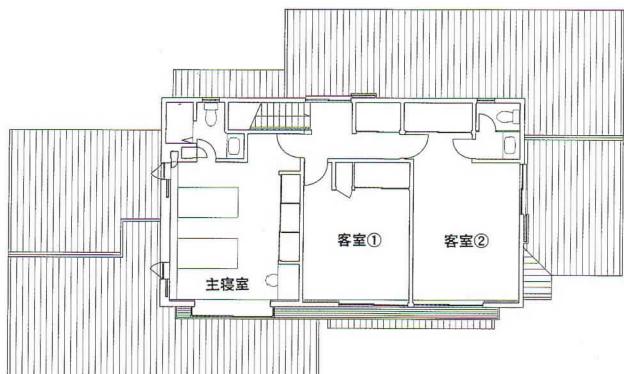


■上：南側外観の夜景／右：南側テラス回り。このテラスを経て玄関に入る

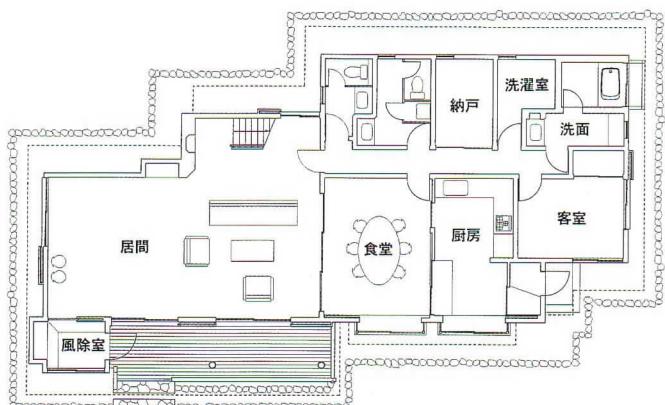




■断面図 縮尺 1／250



■2階平面図



■1階平面図 縮尺 1／250



■居間・階段回り／手摺:スチール角パイプ 40×16 mm



■2階・主寝室:天井の傾斜は屋根の勾配に合わせている



[写真:N.P.A.(新写真工房)]

■居間より食堂を見る／居間の天井高は2,530mm

所在地●長野県北佐久郡軽井沢町

設計●末松安岡設計

末松政孝・安岡清則

施工●第一建設

敷地面積●1,731.73m²

建築面積●152.05m²

延床面積●220.60m²

1階●140.16m²

2階●80.44m²

構造●木造

竣工●1998年10月

■安岡清則



1950年●高知市に生まれる

1971年●工学院大学建築学科に入学。

フィンランドの建築家アルヴァ・アアルトの事務所で修業された武藤章教授の一連の住宅設計に魅せられ、同研究室で建

築の素晴らしさを学ぶ。

1975年●同大学卒業後、幾つかの事務所をアルバイトで経験した後、TRIAD建築設計事務所に入社。低層集合住宅の設計では卓越した技術をもっておられた清田育男氏の下で設計の楽しさを学ぶ。

1980年●武藤章教授から、古くからの友人である所長・末松政孝を紹介していただき、縁あって末松設計事務所に入社。以後、病院、有料老人ホーム、オフィスビルなど、さまざまな設計を担当し、現在に至る。

1998年●末松安岡設計に名称変更

逆円錐形 シェル構造

設計：小野里憲一



■[写真-2]「多磨靈園納骨堂」の建て方



■[写真-1]「多磨靈園納骨堂」

〔写真-1・2〕は、1993年に東京都多磨靈園に建設された納骨堂です。「多磨靈園納骨堂」は、私が今の構造設計事務所に入社して担当した第一号目の作品です。

■□■

事務所は、松井源吾先生が亡くなられた1996年まで通称を“松井源吾+O.R.S.事務所”（現・O.R.S.事務所）といい、菊竹清訓建築設計事務所、内井昭蔵建築設計事務所、坂倉建築研究所などの意匠事務所の作品を手掛けてき

ています。

■□■

「多磨靈園納骨堂」のデザインは、内井昭蔵建築設計事務所によるもので、後に同設計事務所による「群馬県立自然史博物館」（〔写真-3〕／竣工：1996年）および「群馬県北橘村役場庁舎」（〔写真-4〕／竣工：2000年）を、郷土の作品ということもあり、私が担当させていただきました。

「納骨堂」は、東京都が都民の墓地需要に対して建設した立体集合墓地で、

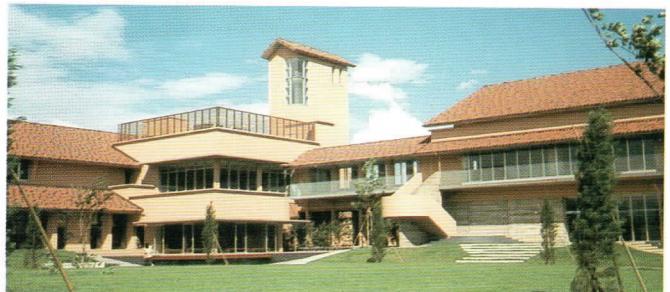
約21,000体の遺骨を収納することができます。建物の形態を特徴づける“逆円錐形”的シェル構造物が納骨を行なう靈堂です。靈堂はプレキャスト・プレストレストコンクリート構造で施工しています（〔写真-2〕）。

■□■

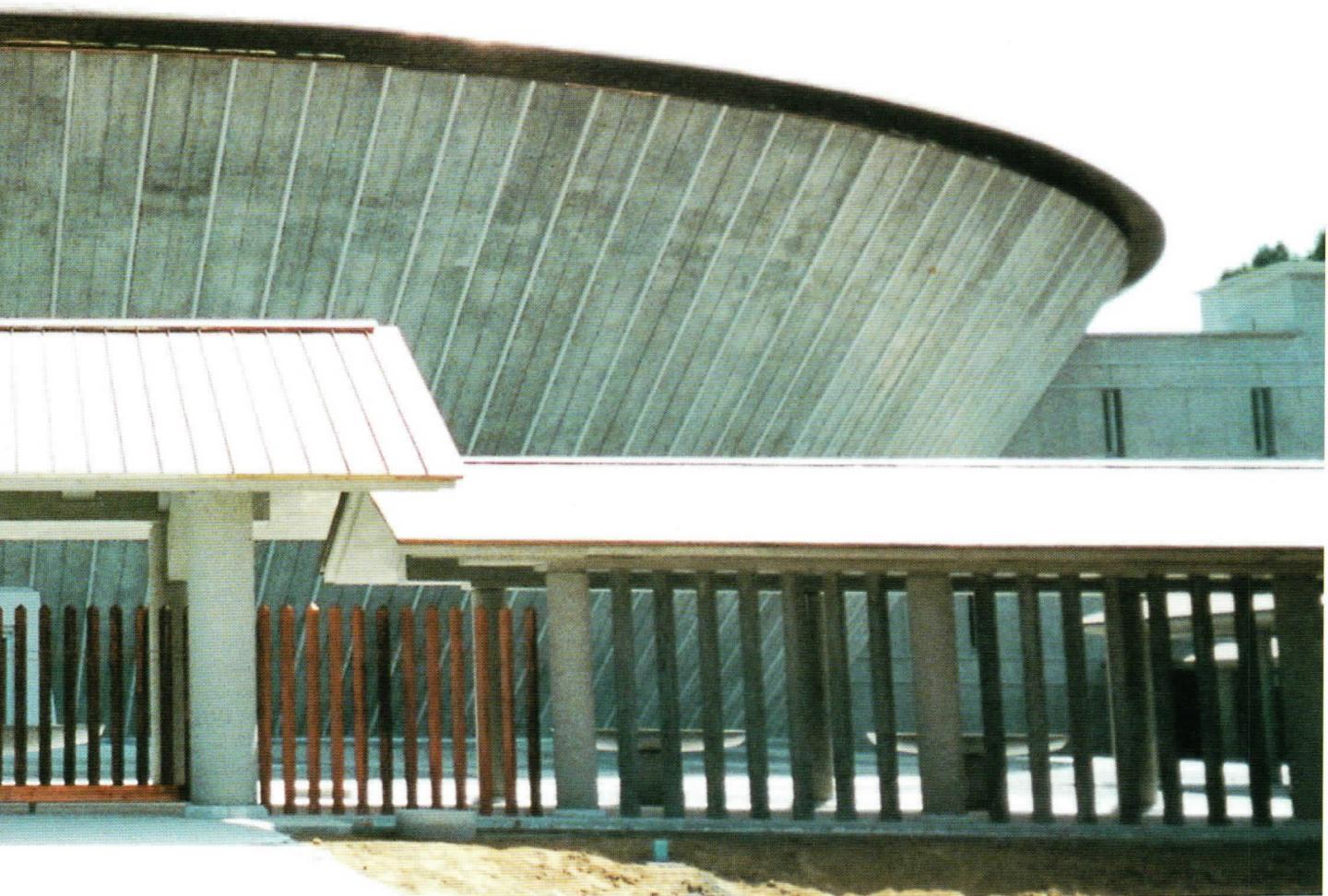
シェル構造は円周方向に144等分割した細長い部材を工場製作し、これらを現場でリング状に連立させ、円周方向にプレストレスを導入して一体化しています。シェルの厚さは50cmで、



■[写真-3]「群馬県立自然史博物館」



■[写真-4]「群馬県北橘村役場庁舎」



逆円錐形の頂部の直径は約60mになります。

一本のプレキャスト部材は長さ20mで重量が約32t・mもあるため、40トントレーラーに1台一本ずつ工場から現場に運ばれました。シェル構造にプレキャスト工法を使用することで、現場打ち工法で想定される膨大な仮設を削減でき、経済性と施工性に効果を発揮しています。

■□■

靈堂の内部には上下の移動を行う設

備がなく、靈堂の左右に配置された地下2階・地上4階建ての2棟の建物内で上下の移動を行います。両棟の各階から靈堂内部に入るため、シェルには幾つもの開口部を設けています。

これらの開口は必要最低限とし、地震に対して有利になるように千鳥に配置しています。

また、シェル構造は面外方向の局部応力に弱いため、各棟は接触しないようエキスパンションジョイントにより分離しています。

■小野里憲一



1965年●群馬県生まれ

1987年●工学院大学卒業

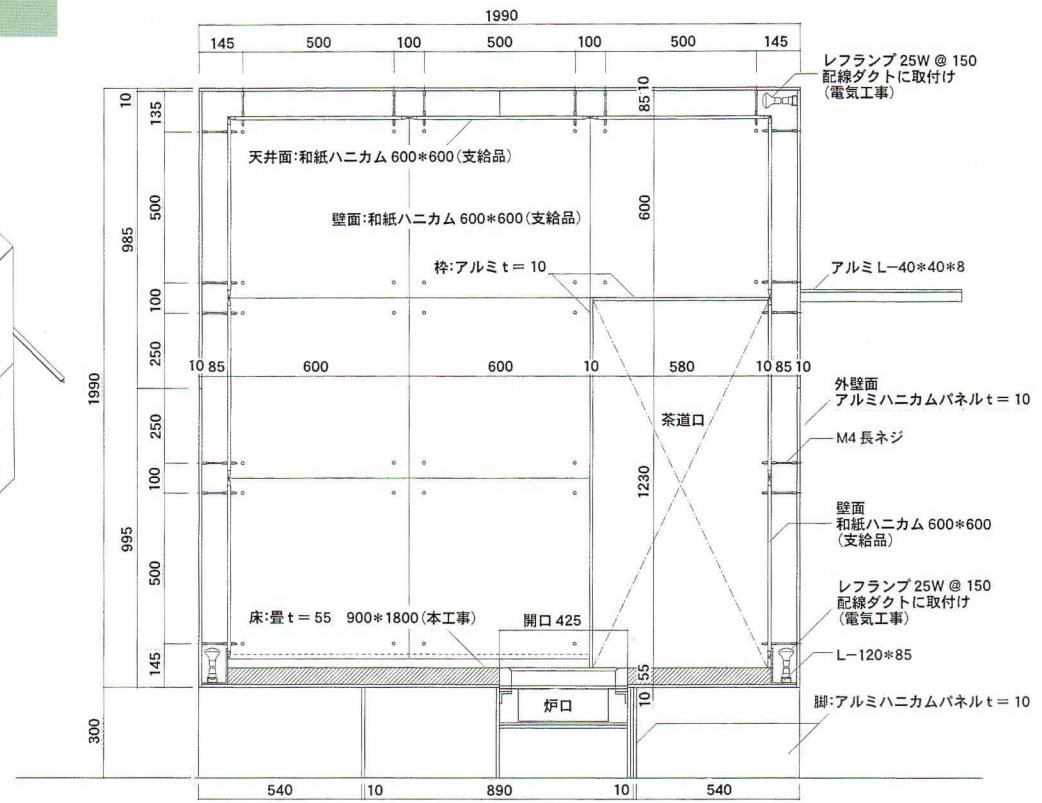
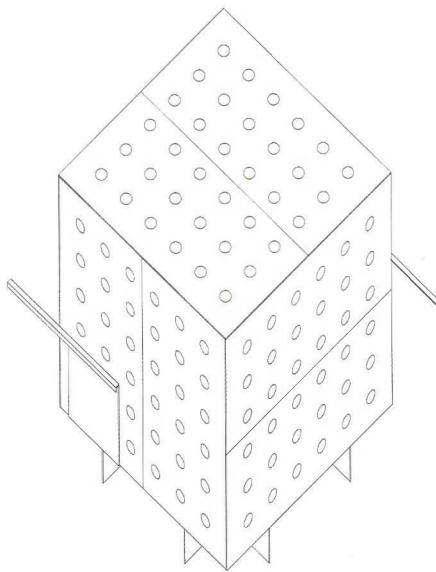
1989年●同大学大学院修了

同大学望月沢研究室を経て

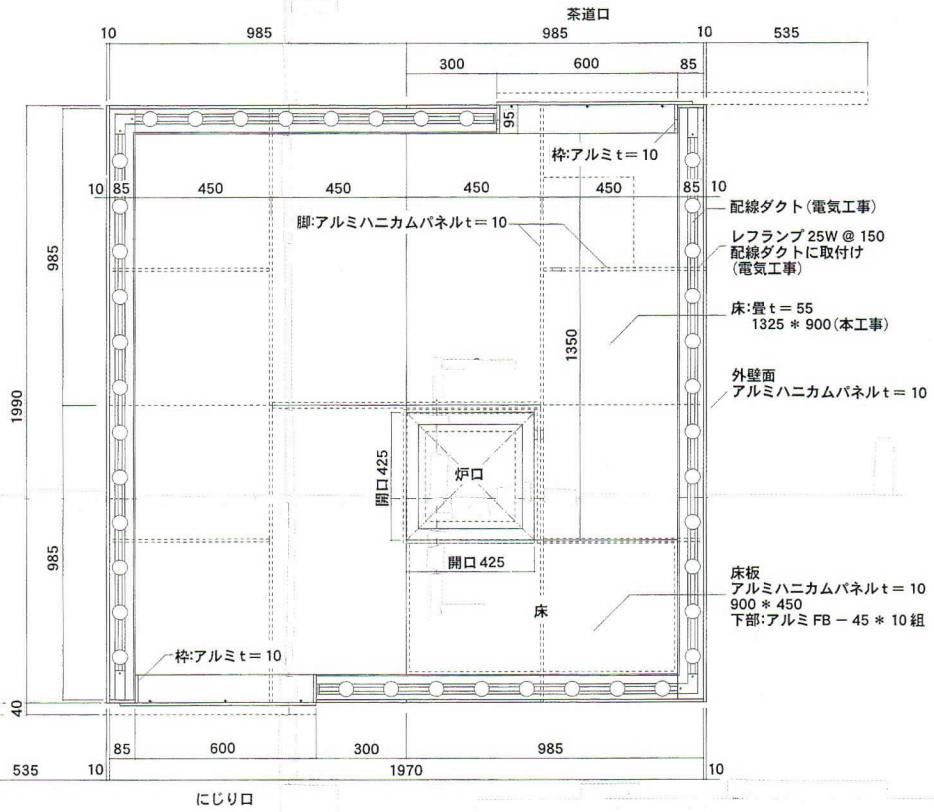
1991年●O.R.S.事務所入社

素庵

設計：鈴木敏彦



■断面図 縮尺 1 / 25



■平面図 縮尺 1 / 25

所在地 ● 新宿リビングデザインギャラリー

2000年5月11日～23日

設計 ● 鈴木敏彦 (a.com design)

設計協力 ● 新井真幸

照明設計 ● 円来人

施工 ● アルミハニカム:モリシン工業

手漉き和紙ハニカム:東秩父村和紙の里

炉縁:金子透

構造・工法 ● アルミハニカムパネル構法

手漉き和紙ハニカム点支持構法

規模 ● 天井高: 1,830 mm

床面積: 3.24 m² (1坪)



◆アルミの茶室

軽量で分解・組立が簡単で、自在に移動可能なモバイル茶室。そんな茶室をつくりたいと以前から考えていた。

歴史的に見ても、茶室というビルディングタイプは、持ち主が変わるたびに移築されてきた経緯もあり、アルミハニカム^[※1]という軽量素材によってどこにでも持ち運べる茶室という概念を構築することは可能である。

しかし、アルミの持つ無機質で現代的な質感が、伝統的な茶道具や畳、あるいは茶の湯という儀式にふさわしいかどうかが問題となっていた。このような状況の中で開発された素材が、手漉き和紙とハニカムコアを複合させた「和紙ハニカム」^[※2]。

埼玉県東秩父村の紙漉き職人たちの手によって、自然素材(楮纖維)と工業化製品であるアルミハニカムとの融合を試みたものである。柔らかな光りの透過性と構造的面剛性を空気のような軽さの中に兼ね備えたそれは、新しい表情を醸し出す素材となった。

また、和紙纖維の緊張感も、内包されたアルミ素材との食い付きによってさらに高められている。パルプ紙の起源が18世紀フランス人物理学者レオミュールによって蜂の巣の素材から発見されたように、自然生態をヒントに、ハニカムつまり蜂の巣の人工製作となったわけである。

「これで茶室の内部空間を包み込むようにすれば茶の湯の空間を作り上げ

ることができる！」。こんな絶叫とともに、アルミの茶室の構想は具体化された。

アルミの茶室は組み立てられるとその精神を京都今日庵^[※3]に学ぶ2畳の茶室となる。外観は2m×2m×2mのアルミのキューブが床より30cm浮いている。キューブの1面は1m×2mの穴あきハニカム^[※4]2枚で構成され、それを6面組み合わせることにより完成する。

内部は壁、天井が和紙ハニカム、床が縁無しの琉球表畳みで構成された1.8m×1.8m×1.8mの入れ子のキューブとなる。内壁、天井面の1面を60cm×60cmの和紙ハニカムが9枚、それぞれ四隅を外壁のアルミハニカムパネルからドットポイント支持され、この内壁と外壁の間にプログラム制御調光照明が仕組まれる。すべての材料は基本的にM4のキャップボルト接合によって組み立てられ、また専用のキャリーバックに収納されるため、分解、移動、組立が容易となる。

設置場所としては主に室内を想定しているが、天気の良い日は屋外にも設置可能。また雨天時には透明なビニールの専用カバーをまとう。昼間は外光が穴あきハニカムの穴を透過し和紙ハニカムに丸い光を写し出す。夜間は外壁と内壁の間に仕組まれた光によって内部は淡く発光する和紙のぼんぼりのような空間となり、その外観は、均等にあけられた穴から光がもれ、発光す

るアルミのキューブとなる。

大学院で伊藤ていじ先生の授業をとり、それがきっかけとなって茶道を習いはじめて18年が経過した。今年の春に表千家の最後のお許しをいただき、宗名は宗敏。秋にはこの茶室のお披露目の茶会を開きたい。

※1 ●ハニカムとはアルミニウム箔などの薄いシート状素材を六角柱の集合体である蜂の巣形状に接着成形したもの。その特徴の最も大きいものはサンドイッチ構造用コア材として使用することにより軽量かつ高強度、高剛性の構造体が得られることである。コアに面材を接着したアルミハニカムパネルは第二次世界大戦中に英国において初めて開発され、約50年前にアメリカで工業化された。主に航空機の構造材として用いられてきたが近年は船舶や新幹線などの輸送機関の車体や建築材料など、その用途は多岐にわたっている。

※2 ●アルミと光、それに自然素材を組み合わせること、また工業製品に職人の技を加えること、そのひとつの解答が光を透過する柔らかい質感の和紙とハニカムコアを複合した「和紙ハニカム」である。纖維の強い和紙はハニカムコアをサンドイッチすることにより、自立するのに十分な剛性と平たん性を獲得するのみならず、ハニカムコアの蜂の巣状のシリエットがにじみ出る独特な光の透過の効果と質感を生み出した。この素材は伝統的技術を基本としたプロセスによりひとつひとつ丹念に手作りされる。

※3 ●今日庵は裏千家伝来の宋旦の二畳敷きの茶室。一畳台目に向板を入れ、炉は向切り。

※4 ●直径50mmの円形の穴を100mmピッチに開けた表面板によってサンドイッチしたハニカムパネル。円形の穴の部分にはハニカムコアが露出し、透過性があるため半透明の光を演出する効果がある



■内観——仕組まれた光源がゆっくりと呼吸するように、あるいは気がつかないくらいの速度をもって明滅をくり返す。和紙ハニカムに写り込む外からの丸い光は、光源がだんだん明るくなるにつれてぼんやりとその輪郭を消していき、また暗くなるにつれて再び現れる。向板はアルミハニカムパネル、その上にすす竹の花入れ。炉縁は銅線の銀メッキ(作:金子透)　【写真:Nacasa & Partners inc】

■鈴木敏彦



1958年●東京都生まれ

1984年●工学院大学建築学科大学院(波多江研究室)修士課程修了

1984~90年●黒川紀章建築都市設計事務所

1985~86年●同事務所を休職し、フランス政府交換費留学生として、フランス、マルヌ・ラ・ヴァレー新都市開発公社

EPA marne研修生。帰国後はヨーロッパのプロジェクト・マネージャーとして、フランスを中心に、オランダ、ベルギー、ブルガリアのプロジェクトを担当

1990年●鈴木敏彦一級建築士事務所として独立

1992~93年●文化庁芸術家インターントとして京都伝統建築技術協会(中村昌生先生)に所属し、茶室と露地の空間構成に関する研究

1995~99年●早稲田大学建築学科博士課程(神山研究室、その後小松研究室)にて、軽量素材・軽量構造に関する研究。単位取得後、東北芸術工科大学生産デザイン学科助教授、現在に至る



二宮邸

設計: 山口明宏



■南側外観——正面とは全く違う雰囲気／外壁:カラーベストコロニアル葺き



◆子どもを天才にする家 ——家が子どもを育てる

私が生まれた家は、会津の築100年以上たつ民家です。大家族で生活し、襖1枚で隣の部屋とつながっている田の字プランの家でした。ある意味では、プライバシーなどどこにもなく、いつも家族と顔を合わせる生活でした。それが良かったかどうかは別にして、最近の住まいは核家族になった上に、プライバシーがすばらしく確保されています。

私も、学生の時は疑いもせず、パブリックな動線とプライベートな動線は分けなさいと教わってきました、我が工学院大学では……。

しかし、ここ数年の少年犯罪の家庭環境と間取りの関係性を調べたあるデータによると、数年前の横浜の金属バット殺人事件やコンクリート詰め殺人事件は、玄関を入ると、家族の誰とも合わずに自分の部屋に行ってしまう快適な子ども部屋がありました。

連続幼女殺害事件にいたっては、離れに住んでいました。必ずしも間取りが悪いから子どもが非行するとは限らないと思いますが、人間関係のあり方を左右することは間違いないと書いています。

■□■

そんなことを共働きのクライアントと話しているうちに、子どもも一人ですし、なんとか「子どもを非行させな

い天才にする家づくり？！」ができないだろうかということで始まった住まいづくりでした。

どこかのハウス・メーカーのコマーシャルでもやっていましたが、20世紀の天才といわれる人たちの住まいを調べたところ、みなさん天井の高い家に住んでおられたということです。

そこで一人息子を天才にしようとい



■正面外観——大きな吹抜けのリビング・ダイニングに設けられた逆L字形に並ぶ窓が外観デザイン上も効果的／サイディング風の外壁は屋根材

うことで、10m近くの吹抜けをつくりました。最初はクライアントも「こんなに天井が高いとは！」と言っていましたが、数ヶ月すると「山口さん、最近、友人の家に行くと、どうも圧迫感があるようで居心地が悪いんですよ！」と言い始めました。

半分冗談で言ったことが、無意識のうちに圧迫感を解放しながら生活する

ことで、人間の能力を伸ばしていく要素があるような気になりました。

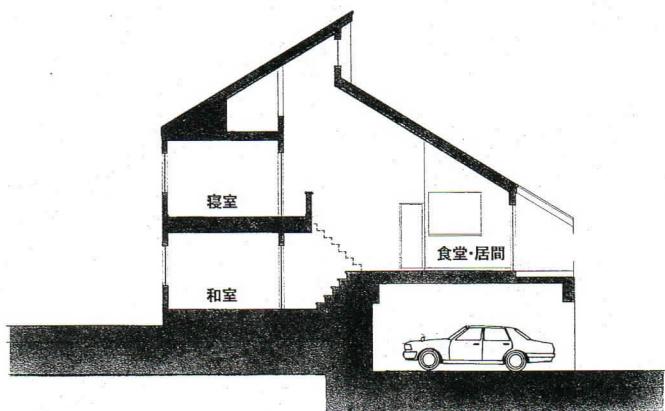
■□■

平面は現代の田の字プランでいくことにしました。玄関を入れると、必ず家族がいる空間を通り抜けて子ども部屋や主寝室に行くようにしました。家族が少なくなつてコミュニケーションがなくなれば、家族が家族で住まう意味

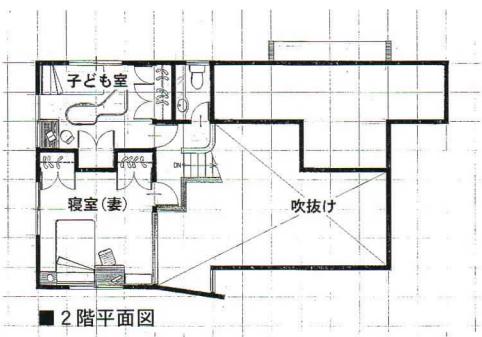
がなくなるような気がしたからです。

パブリックな空間にドア1枚で接するようにレイアウトすることで、全ての部屋が社会性を帯び、物理的にというより強引に人間関係をつくりあげることができると思ったからです。

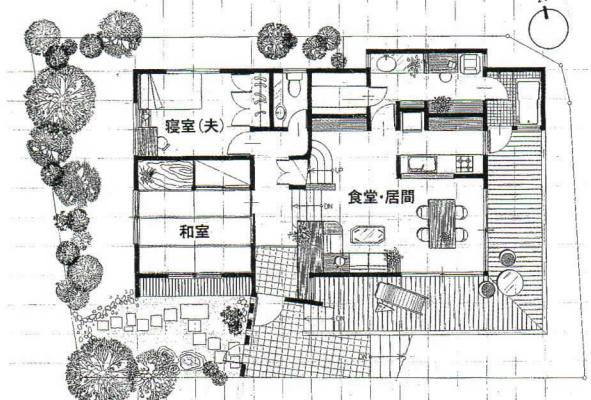
「家が子どもを育てる！」——そんな家づくりができたなら最高かな、と思う毎日です。



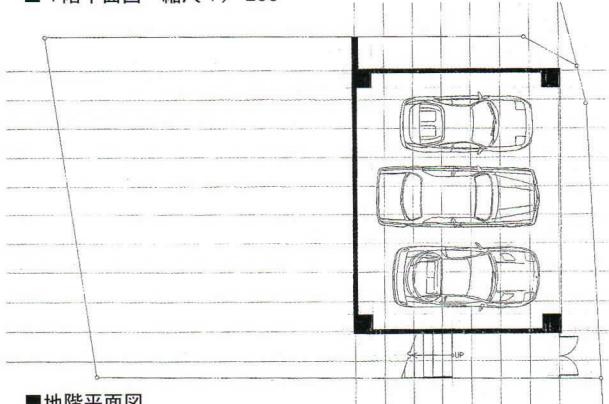
■断面図 縮尺 1 / 250



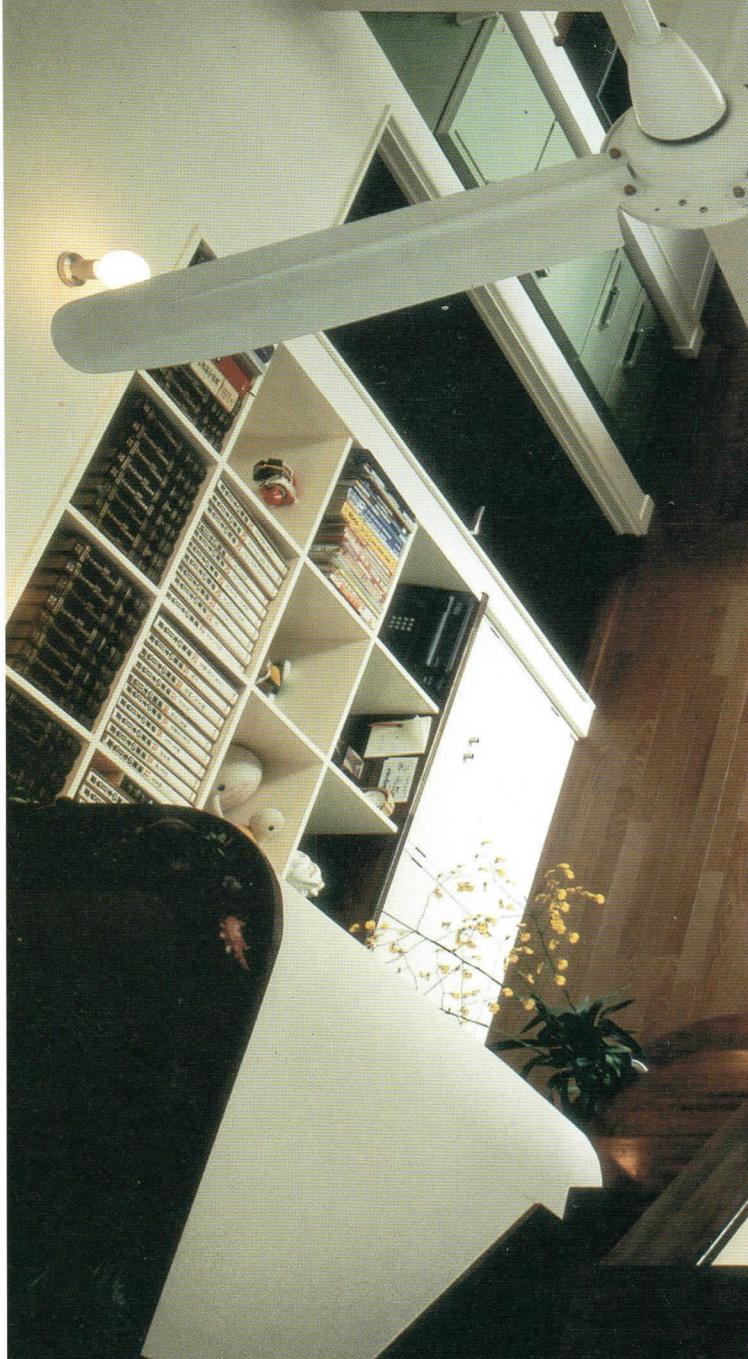
■ 2階平面図



■ 1階平面図 縮尺 1 / 250



■ 地階平面図



■ 1階・玄関脇の和室——色彩は和風だが、洋風感覚の造り／木の感触、木目の味わいが温かさを添える



所在地●神奈川県足柄上郡中井町
設計●アスザインアソシエイツ

山口明宏

施工●共栄建設

敷地面積● 171.92 m²

建築面積● 100.88 m²

延床面積● 162.30 m²

B階● 52.17 m²

1階● 140.16 m²

2階● 80.44 m²

構造●鉄筋コンクリート造+木造

竣工●1993年7月

■山口明宏



1953年●福島県会津生まれ
1977年●工学院大学卒業
1978年●一色建築設計事務所
1982年●アスザインアソシエイツ
創立
日本建築学会「親と子の都市と建築
講座」企画実行部会委員
神奈川県立産業技術短期大学校非常
勤講師
著書●『これからの環境学習——ま
ちはこどものワンダーランド』(共著
／風土社)

新しい風に聞く

いろいろなことに興味や疑問をもって取り組んで欲しい



阿部道彦
建築都市デザイン学科
生産研究室教授

①自分のこと

札幌生まれ。北海道立寒地建築(現寒地住宅都市)研究所に5年間勤務。寒冷地の材料、地盤、積雪の問題に取り組む。31歳で茨城県つくばの建設省建築研究所に来て、16年間を建築材料、特にコンクリートとともに過ごす。北国育ちのため東京の夏はとても苦手である。最近では趣味らしい趣味もなく、仕事が趣味になってしまった感じである。

②教授としての抱負

私が学生時代に受けた授業はコンクリート中心であり、今考えればやや片寄っていたと思う。現在、建築材料と内外装材料の授業を担当しているので、構造材料と仕上げ材料全般についてあまり片寄ることなく教えていきたい。

また、現代は仮想現実の世界。具体的なものやデータが軽視されがちであるが、実際の材料を見たり、触れることができるようできるだけ多くのビデオや見本を用意したいし、材料実験でもできるだけ多くの材料を扱って学生たちに実際の材料を知ってもらいたいと思っている。そして、スペースが許せば建築材料展示室(ギャラリー)のようなものを作りたい。

建築材料学は、材料の製造・性質・用途などに関する一般的な建築材料学のほか、材料科学、構造、施工、デザインなど多岐の領域と関連する。さまざまな要求に対応できるためには文献・資料などの整備が不可欠である。これもスペースが許せばの話しだが、建築材料資料(ライブラリー)を整備したい。特に、デザインとの関連で材料選

択に結びつく資料や手法の整備をどのようにしていくかが課題と考えている。

建築材料は多種多様である。なかなか本で読んでも身につかない。幸い本学の建物は優れた建築材料が各所に使用されている。主要な床・壁・天井の建築材料について材料名表示をできればと思っている。

③学生に望むこと

講義内容をうのみにするのではなく、いろいろなことに興味や疑問をもって取り組んで欲しいと思う。ただ、たとえば材料の場合には最初からいろいろな材料を対象にするのではなく、自分の好きな材料一種類について深く追求していくことを薦める。一つのものがわかつてくれば、おのずと他のものにも興味や疑問がわいてくるはずである。

新宿の場合は、付近に超高層建物をはじめとして多くの新しい材料を用いた建物があるし、タイルやガラスなどの建築材料のメーカーのショールームもたくさんある。ショールームは土曜や日曜もオープンしているところが多いので、ぜひひまを見つけて見学にいって欲しい。建築を勉強する立場からすると新宿は本当に恵まれていると思う。



■再生コンクリートの曝露試験(北海道・岩内)

■阿部道彦

1952年●北海道・札幌生まれ

1974年●北海道大学工学部建築工学科卒業

1979年●同大学院工学研究科博士後期課程退学

北海道立寒地建築研究所および建設省建築研究所を経て
本学へ

工学博士／一級建築士

著書●『環境調和型建築の設計と施工』(共著／技術書院)

新しい風に聞く

建築都市デザインは 21世紀が求めている



倉田直道

建築都市デザイン学科
特別専任教授

平成12年4月より建築都市デザイン学科に着任致しました。これまで、住宅などの建築物の設計に加えて、民間の都市デザイナーとして、国内外の都市づくり、まちづくりに携わってきました。また、非常勤ではありますが、10数年に渡り早稲田大学など複数の大学で都市デザインを教えてきました。

改めて振り返ってみると、私が都市や都市デザインに興味を持つ直接のきっかけとなりましたのは、今から約30年前に大学の卒論のテーマに景観をとりあげたこ

とであります。その後、大学院に進学し、都市景観の研究をさらに進めるとともに、都市における街路空間についての研究を行いました。私にとって都市デザインへの関心をさらに発展させる契機となったのが、米国カリフォルニア大学大学院アーバンデザイン・プログラムへの留学と実務経験を含む約5年に渡る米国での生活体験でした。私が米国に滞在していた1970年代後半は、米国において都市デザインの評価が大きく変化した時期であり、大学の内外で都市デザインを巡っての議論が激しく闘わされており、都市デザインという新しい分野の可能性を身をもって実感する機会となりました。

私自身の都市デザインに対する関心は、行政が提示した固定された将来の都市像に向けて都市づくりを進めていくことより、都市環境を構成する様々な要素間の関係や環境を生成するプロセスを大切にしながら、公共性という概念を拠り所にその場所に関わるさまざまな人々と一緒にになってトータルな生活環境づくりを行っていくことにあります。都市は建築だけで成り立つものではありません。都市環境を構成するさまざまな要素がバランス良く整備されて初めて都市空間や生活環境の質が向上するものと考えています。一方、環境との共生、高齢社会

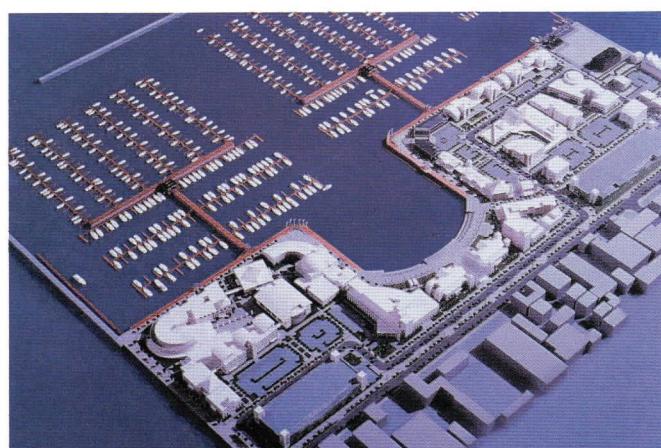


■静岡県島田市ふるさとの顔づくり事業：歩行者専用道路「おび通り」設計（第4回ふるさとの顔づくり設計競技／建設大臣賞受賞）

新しい風に聞く

への対応、情報社会の進展など、21世紀に向けて建築および都市が共通に取り組まなければならない課題はますます増えてきています。何れも従来の専門の枠の中だけで解決できる問題ではありません。都市デザインは、従来の建築、土木、造園といった既存の領域の枠を超えて、都市やまちづくりの課題に対してより総合的な視点から取り組むことを期待された領域であります。また近年では、まちづくりにおいて、行政、市民、民間企業の間でそれらの関係を調整したり、協働するプロセスを組織したりする役割も期待されています。

21世紀を迎えるこの時期に工学院大学において建築都市デザイン学科が新設されたことは、21世紀の社会が求める幅広い視野を持った新しい人材の教育と専門家の養成に応えるためであると理解しております。微力ではありますが、これまでの実務、調査研究などの経験を活かし、人と環境に優しい魅力ある都市環境の創造に向けて、学生諸君とともに学び、まちづくり・都市デザインの実践に取り組み、新しい人材を社会に送り出すお手伝いができればと考えています。よろしくお願ひいたします。



■横浜市横浜ベイサイドマリーナ:マスタープラン/公共空間設計(第1回
横浜・人・まち・デザイン賞まちなみ景観部門受賞)

■倉田直道

1947年●長野県諏訪市生まれ

早稲田大学建築学科卒業／同修士課程修了、カリフォルニア大学大学院アーバンデザイン・プログラム修了

現在●工学院大学に加えて、アーバンハウス都市建築研究所主宰著書●『近代都市計画の百年とその未来』(日本都市計画学会編／共著／彰国社)、『新しい交通まちづくりの思想』(共著／鹿島出版会)、『都市史図集』(共著／彰国社)など

ハイテクとローテク 三周遅れの先頭を行く



中山繁信
建築学科
特別専任教授

今、情報革命の時代だそうだ。猫も杓子もEメールだインターネットだと騒がしい。そういえば、設計事務所や研究室の様子も大きく変わった。机の上を見ればキーボードやディスプレイがすき間なく置かれ、学生たちが製図版に向かってもくもくと図面を描く姿はすでに見ることはできない。

ITは秒単位のスピードで進歩している。ハイテク機器は1ヶ月で中古品となり、3ヶ月経つと立派な骨董品になるといわれている。しかし、すべて新しいものが古いものより優れているとは限らない。すなわちローテクよりハイテクが、または、アナログよりデジタルの方が優れていると考えるのは短絡し過ぎているし、もしそうならば善し悪しの判別は子どもにもできてしまう。

しかし、そうは言うものの、私もハイテクの機器無しには過ごせなくなってしまった。いわば毒されてしまったのだが、そのハイテク機器が骨董的なたった一台のワープロに起因している。それを見て、多くの人々は私がハイテクに弱い人間と思い込んでいるらしい。それは大きな間違いである。おそらくそれは、私が私の優れた才能を吹聴しない謙虚な姿勢が誤解を招く原因になっているようである。それを解くためにここで少し釈明しておく必要がある。

これは自慢話ととられては困るのだが、以前ワープロが家に届いた時、いきなり指一本でキーボードを使いこなしてしまう自らの才能に驚いた。それ以来、右手でキーボード、左手にはグラス、という私独自の余裕のポーズができ上がった。最近、両手を使わないとキー

新しい風に聞く

ボードを扱えない初心者を多く見かけるが、何事も両手を使えば容易い。振り替えれば、子どものころ自転車のハンドルを両手で握らないと転んでしまうのは決まって初心者であった。片手で乗りこなすにはずいぶんと時間がかかったものである。またごく最近、料理番組において、コックが片手で卵を割る姿を見て、えらく感嘆してチャレンジしてみたが、いまだその域に達していない(途中妻が経済的に破綻するといって懇願されたため断念中である)。

図面を描くのも例外ではない。恥ずかしい話だが、キーボードは指一本で扱えるのに、いまだに両手を使わないと線一本引けないのである。三十有余年、一日たり



■最近作「菜庵」



スケッチ「ネパールの農村の休憩所」
BHAKTAPUR MANTAPA
ABOI NAKA

■スケッチ「ネパールの農村の休憩所」とも線を引かなかったことはなかったにもかかわらず、左手で定規を押え、右手の五本の指は鉛筆を握り(時には虚栄をはって小指を立てたりするが……)、それでやっと繩が引けるという未熟ぶりである。

こうして考えてみると私はハイテクの才能はあるが、ローテクに弱い人間らしい。人間は自分の弱点を補おうとする性向がある。これを補償作用という。したがって、私の場合、頂点を極め安しとふんだハイテクには興味が失せ、苦手とするローテクを極めようとしているため、私の周辺にはハイテク機器がないのである。

■中山繁信

1942年●栃木県生まれ

1966年●法政大学工学部建設工学科卒業

1971年●同大学院建設工学科修士課程修了

宮脇檀建築研究室、工学院大学助手を経て

1977年●TESS 計画研究所主宰

著書●『現代に生きる境内空間の再発見』(彰国社)、『日本人のすまい』(共著/彰国社)、『KATHMANDU』(共著/建築知識)など

また逢うま日まで

篠原一之先生



■ひとこと

1958年4月より助手として採用され、以来、早いもので42年が過ぎようとしている。思い起こせば、日本大学工学部建築学科実験室で卒論実験データ作成中、榎並教授より

「工学院大学で助手を公募しているが行ってみないか」と言われ、試験を受け採用された。

1965年4月より専任講師として教壇に立つ。建物の設計の基本は、安全な骨組みの設計にあると専念した。以降、周知のようにパソコンで構造設計ができるようになった。

しかし、便利になると人間、怠惰になる。間違いを起こさないようにと学生に伝えた。しかし、阪神の地震災害にみると、安全な建物の設計はいまだしの感がある。

最近の研究テーマは、地震動と建物架構の関係を深く追求している次第である。結果は後日、機会があれば何かの誌上で発表したい。

先生の教訓

照井康弘

(1978年卒業／照井工務店自営)

変わった先生。私が先生を知ったのは今から22年前であった。40代前半と思われる、その人柄から受けた印象は忘れられない。八王子校舎、新宿校舎内でニコリともせず、いえ、苦虫を噛み潰した顔で、我こそは学究の素であるかのように歩かれていたのを記憶している。

教育理念 その後、卒論、ゼミなどで、お会いするようになってから、独自の教育理念を持っていることを伺った。従って、それが顔に表れていたのではと思われる。その一端は、先生の教育理念にあるようだ。つまり、真面目にやれと常に心の中で叫んでいるのではなかろう

か。

大学教育とは、一人一人が卒業後に焦点を合わせ、各自、大学で学んだことを職業上で生かしていくことであると伺った。しかし、実態は単位取得に汲々としていることが多い。

私立大学のあり方 ある時、私立大学と国立大学の違いについて、お話を伺った。国立大学では国家権要な人材育成にあると。しかばん私立大学は自由で、人類文化に貢献できる人物の育成にあると言われた。

建築教育 ある時、現在、われわれは今、何をすべきかを問うと「建築といつても広く、深い。しかしそこでの専門性を生かし、誰も真似のできないものを掴め」と、言われた。

研究と教育 そこで、大学では、先生は研究と教育についてどのように考えているかと訊ねたことがあ

来春、篠原一之先生、中島康孝先生、望月洵先生が、定年で退職されます。
長い間、本校のために尽くされたことに感謝を捧げるとともに、
いつまでもお元気でいられるることを、お祈り申しあげます。
また、お逢いできる日を、楽しみにしています。



る。即座に、いずれに重点を置くかは個人の問題で、いずれも成果が問題とされる、と。

科学と創造 先生は特に科学に対して独特な見解を持っておられた。その証として、建物の安全を先端技術を持って守ることへ、創造的な関心を寄せられていた。

人間としてのありよう 従って、そこから出る人間性が独自な指導教育に表れていたと思う。特に、感じたものは学習指導上、その方法にあったもようである。

階級闘争と社会生活 いわゆる、大学を卒業すれば、豊かな未来が待っている時代は過ぎた。今後は学問を生かす努力で得られるもので、立身出世主義は論外であると。

不正のない社会 一人一人が、不正のない生活をしていても潔白な社会になるとは限らない。特に、建築界では近年、公共工事をめぐる不正事件後を絶たない。巻き込まれない保証はないが、それに立ち向かうことも大切であると。

人間の生き方 先生は、身をもって示してこられたようであるが、しかし、かくあるべきと指導することで悩んでいたようだ。終わりに、教育界に身を投じて40余年、学生の指導に専念し、また世に出した。しかし、研究成果は果たして、どのようなものであったのだろうか。

最近、お会いして伺ったところによると、「建物の安全を念じて設計しているが、永久に存在するよう願うがしかし、役に立たなくなると、簡単に取り壊してしまう。そこに無情を感じる」と。

■中島康孝先生



■ひとこと

1964年(昭和39年)、歌舞伎座、東電銀座支社、大船撮影所の空調設計を手掛け、井上宇市先生(当時、早大教授)設計のオリンピック代々木屋内体育館の基本計画を手伝った後、本学の専任講師として招かれ設備第2(空調設備)を担当し、設備コースの卒論生23名をも指導することになりました。

着任して最も驚いたことは、設備コースの学生約400人(1学年100人)に設備の専任は私一人であったことがあります。けれども井上宇市、木村建一、近藤先生など非常勤の著名な先生方が顔を連ねていたことと同時に、設備研究会なる学生の自主サークルが意欲的な活動をしていて、これから日本の建築設備をリードする多くの人材の輩出を予見するに十分であったと記憶しています。

現在、850人の「つのはづ会」のメンバーの多くが、現に設備業界を背負って立っていると言っても過言ではないと思います。

着任当初からの研究テーマ「蓄熱」に加えて、1979年頃からは「太陽エネルギー利用」と、現在も2テーマの

研究を続けています。建築学科「設備コース」は、1962年から10年間続き廃止された形となったが、他校に先駆けて環境設備に強いユニークで有能な建築家を養成する結果となりました。

計画系の宮城教授、東助教授そして環境設備系の大橋教授や関五郎講師(日建設計)などが第一線で活躍して居られ頗もしい限りです。

「設備コース」が消えた代りに、建築学科学生全員が環境設備系科目を広く選択でき、環境に強い卒業生を輩出できるようになったことが、今年度から発足した「環境コース」の芽生えとなったと言ってよいでしょう。

空調・蓄熱・つのはづ会

黒崎幸夫

(1972年卒業/三井建設技術研究所研究開発第5部部長/工学院大学建築学科非常勤講師)

諸般の事情により1968年4月、本学に入学し、空調調和設備をかじり始めたのは20歳の頃であった。以来30年、この分野を基盤技術として、蓄熱空調システム、太陽エネルギー利用システム、種々の省エネルギーシステム、空気清浄化技術、さらに最近では電磁波、磁気などの建築電磁環境関連技術などを手がけている。

思い返せば、この原点は、3年次の“ある実態調査”に参加した当時の先生との出会いであった。当時、先生のテーマである「暖冷房用蓄熱槽の研究」に関し、熱応答を有効容積



また逢う日まで

率（P値）、混合特性値（M値）などの実験は終了し、実際に使用されている蓄熱槽の利用実態を全国規模で調査する計画に参加した。

まず、霞ヶ関三井ビル、フジテレビ、京王デパート、および京王新宿駅などを調査した後、全国規模の調査をすることになり、西日本調査グループの3人グループ（中島先生、斎藤潤=現・大成建設）と東日本調査グループの森田洋助手（現・日本設計）と他2名（K君、N君）グループに分かれて調査した。

調査は、尾道→広島→博多→熊本→鹿児島→宮崎→大分→神戸→大阪→東京のルートであった。夜行列車で尾道駅に下りると、先生は「美術館（大原美術館）に行こう」と言ったので、われわれは予定に無いが、多分、蓄熱槽の調査だろうとついて行ったが、単なる美術鑑賞であった。今、思えば、美術館とは縁のなさそうなわれわれに対する教育の一環であり、先生の側面を垣間見た機会でもあった。当時、大阪で開催されていた大阪万国博覧会も見学でき、大変貴重な体験を得た調査であり、今でも鮮明に記憶している。

卒業後、5～6年間は先生のご自宅で開催される恒例の新年会に時々顔を出す程度であったが、建築会館でのセミナーで、先生とお会いして、空調設備基準委員会（空気調和・衛生工学会）のワーキングに参加して以来、委託研究などを通じての学生の指導、非常勤講師として教壇に立つことなど夢にも思わなかったことである。

先生は酒は嗜む程度であるが、付

き合いは良いほうである。ある時、毎年恒例の新年会に替わる会の設立を打ち明けられたことがあった。それまで単なるOB会としての活動を拡大する話であった。現在、会員数850名を有する「つのはづ会」である。1965年（昭和40年）卒業生を第一期として、現在の平成12年卒業生が第36期、定年を迎える平成13年卒業生が中島研究室第37期生となる。

この間、新宿校舎の地下にあった設備実験室で行った蓄熱槽模型実験から始まり、土壌蓄熱、太陽熱利用のトロンブ壁、碎石蓄熱、蓄熱槽の可視化、スーパーコンピューターによる動的解析などなど、先生の教えを受けた卒業生は全国に散らばってはいるが、「つのはづ会」を核に各業界においてネットワークを形成しつつある。中島先生の退職、21世紀のはじまりが期せずして、同時期であることも何かの因縁である。

思い出の設備研究会

黒井英夫

（1972年卒業／第一工業）

1964年（昭和39年）10月、学園祭における設備研究会の研究発表の準備を行っていた。すばらしい日本晴れのその日、甲州街道を“はだしのアベベ”が走っていた。「東京オリンピック」日本国中オリンピック景気に沸いていた。ホテル、公共施設などの拡張、建設が盛んとなり建築における“設備”的重要性が認識された時期でした。

その2年前、建築学科設備コース第一回生の有史の方々（私は第三回）が、学校の授業だけでは飽きたらず中島先生のご指導の基に“設備研究会”を発足させました。

毎年、学園祭での発表テーマを目標に試行錯誤の研究をしておりました。春・夏・冬期の休みには積極的に設備関係会社でのアルバイトを行い、実社会における業務・知識の吸収を図り、そこで得た事を話し合いました。

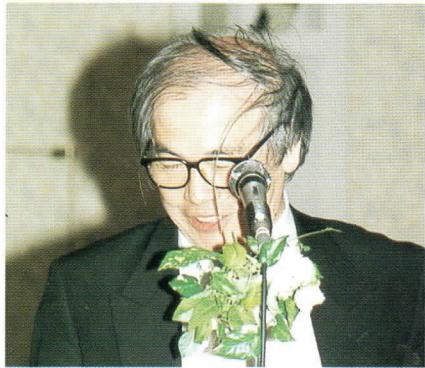
後輩の指導に八王子校舎まで行ったこともあります。その設備研究会も第10回生で消滅したと聞き寂しく思っておりますが、卒業後も先生を中心としたOB会へ出席するに至って会員であったことに感謝しております。

先生、いつまでもお健やかでお過ごしください。ありがとうございました。



いつまでも、お元気でいて下さい。

■望月 淳先生



本年度末をもって小生が馬齢67に達し、望月研究室は店閉まいです。店閉まいの辞を谷口さんからせかされ思い出したのが、建築特別講義のパンフレットに載せた次の文について、望月大介さんが退職の挨拶のようだといった評でした。転載します。手抜きで申し訳ありません。名調子だとは思っています。

■□■

1950年代のベストセラー「挽歌」で原田康子の描く建築家はナンデモ屋であった。私も構造が独立した分野であるとは知らなかった。映画「摩天楼」の中でゲーリー・クーパー演じる建築家が、クライアントの前でサラサラとエスキースをしてみせた。学生だった私はヤバイと思った。一方、シェルの力学や、当時、急速の進歩を見せた塑性力学は、門を叩くに十分な分野であり、これらを背景に創られたF.キャンデラ、P.L.ネルビ、E.トロッハラの作品は、構造もまた理性と感性の世界であることを示してくれた。また、工学の対象とはいえ、精密機械のような細かさが必要でなかった。オーバーにいえば建築は数cm、土木は数十cm

の誤差をも許すおおまかなものでよかった。なによりも地上に残るのがよかった。これが私が構造を選んだ平凡な理由である。

■□■

1960年代は本学デザイン教室の勃興期で、今はなき天野さん、武藤さん、古稀になんて少年のように澁刺な波多江さん、モンゴルからの留学生かと誤解されそうな山下さんらが活躍させていた。また南迫さん、望月(大)さん、夏場の蠍螂みたいに元気な谷口さんらが助手として、院生として支えていた。

■□■

構造エンジニアは、私も含めて比較的単細胞が多い。大スパン構造や高層ビルのようにでかいもの、自分にとって初めてのテーマのもの、さらにデザイナーが本腰を入れたものなどに関心が高く、これに関わるとき喜びを感じる。また、力の伝達が明解で、比例のよい躍動感のある構

造を創りあげたとき、型枠をはずして躯体が露わになったとき、雑誌に掲載されたとき、最後に報酬をもらったとき、ことのほかうれしい。

一方、誤りに気づいたときは、悪寒が全身に走った、映画を見ていても、三桁の掛算を暗算しながらチェックをしたりした。ときには、報酬はいらないから降ろしてもらいたくなるような気持ちになった。関わった作品がすべて構造の立場で好みしかったかといえば、必ずしもそうではない。九十九折のような、また迷路のような構造もあった。デザイナーの中には躯体は見えないと暴言をほく人もいた。このようとき最大限の抵抗を試みたが、元の悪いのはよくならなかった。

デザインのレベルが高かったせいか雑誌にはよく掲載され、パートナーとして名を連ねる栄に浴した。しかし、報酬は多くはなかった。3年ものの無利子の定期貯金みたいなこ





いつまでも、お元気でいて下さい。

とも多く、これには閉口頓首であった。昭和一桁前後の世代には契約の観念がなく、阿吽の関係でことを進め、お互いに甘えもあったからである。それでも、設計に参加できたことはうれしく、幸せであった。

■□■

以上、老教師、黙して語らずと考えましたが、駄辯を弄しました。まだ人生の1/3が残っているかと思うと、沸沸とまではいきませんが、沸……沸程度の元気が湧いてきます。最後ではありますが望月研究室を通り抜けて行った卒業生諸君諸嬢に感謝の意を表します。皆さんの協力で行った耐震壁に関する一連の研究は耐震構造学の貴重な栗石にはなったと思っています。また学生生活で言葉をかわした卒業生諸君諸嬢、楽しかったです。多謝!!

望月先生に学んで

宮澤健二

(建築学科教授)
(1967年卒業／1969年修士修了)

先生の授業は難しかったが、構造には整然とした見事な理論があるのではと感じた。トロハ、ネルビー、坪井善勝、横山不学などを知ったのもその時であった。無味乾燥な理論ではなく、素晴らしい構造美を説明する自然の法則であった。先生を始め構造に携わる人たちの一途な、そして地道は努力に感動した。

私は1966年(昭和41年)研究室に入り、勉強させていただいた。4年生の時、配筋検査に連れていくて

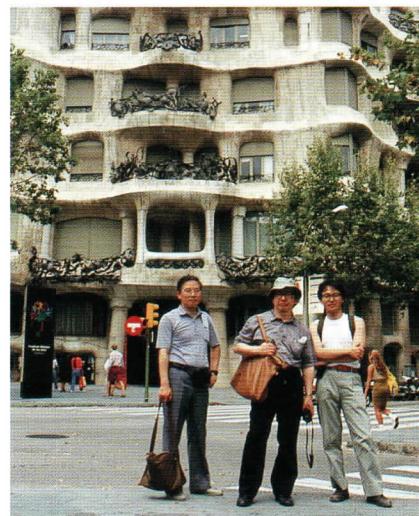
もらった。珍しさとともに張りつめた雰囲気を感じた。いろいろやり直しを命じ、明朝までに直しておくよう指示し、コンクリート打設前宮澤が確認に来るとおっしゃった。最後のだめ押しでしたが、設計とはなんと大きな責任を持たなければならぬのかと感じた。責任感が技術者を育てることを教わった。

先生の魅力は、学生を引きつける不思議な力である。学生に大きな影響を与えている。

二番目は教育、研究と構造設計者としての情熱である。三つを兼ね備えているのは先生だけである。構造デザインに関する著書は数多く、この分野の第一人者となられた。

先生の研究業績「1994年度プレストレストコンクリート技術協会論文賞」などや、設計活動の社会的評価を学内に周知すべき役割を、おそらく居ながら怠ってきたことを自戒しなければならない。

これからも卒業生の心のよりどころであって欲しい。



■バルセロナにて
(中央:望月先生／左:宮澤先生)

このページは、工学院大学建築学科&建築都市デザイン学科が『NICHE』誌上を借りて最近の学科の様子を、お伝えしています。

ご無沙汰しています—1

建築学科の近況



宇田川光弘
建築学科主任教授

①建築系学科の新体制

2000年問題で始まった今年も残り少なくなり、もうしばらくすると21世紀が始まりますが、工学院大学の建築系学科でも21世紀に向けて変革を図りつつあります。

昨年度は、これまでの建築学科から建築都市デザイン学科が生まれ、初めての新入生を迎えて、建築系学科との2学科体制が発足しました。学科の運営、学科事務体制は2学科1体としてやっていますので、2学科を一括する場合には「建築系」学科と呼んでいます。建築都市デザイン学科の発足については、すでに1991年から建築学科を建築学コースと都市建築デザインコースの2コースに分けてきましたが、昨年からは、都市建築デザインがコースから学科になり2学科体制となったわけです。このような2学科となった動きに加えて、今年度からは、「新しい」建築学科が建築コース、環境コースの2つのコースに別れることになりました。教員も、建築コース、環境コースの何れかの担当に別れ、学生も次年度からはコース別に入試を行います。従って、今年度からの建築系学科の体制は、建築学科建築コース、建築学科環境コース、建築都市デザイン学科の2コース・1学科体制となっています。

②建築コースと環境コースの誕生の背景

すでに同窓生の皆さんはご存知のことですが、工学院大学の建築学科は、1955年(昭和30年)に発足し、本年度で45周年を迎えます。この45年の間、日本は戦後の復興期を経、高度成長の時代を経て安定化の時代になりました。1970年代に認識されはじめた省エネルギー問題、1980年代に入ってからの環境問題は世界共通の課題として、建築界にも大きな影響を及ぼしています。地球環境や資源の保全の重要性は、すでに広く認識され

ています。一方、交通、情報・通信など技術の進歩も目覚しいものがあります。建築も、大量に建設し需要を満足させねばよい時代から、高品質化、長寿命化が重要される時代になってきました。すなわち、良好な社会資本となりうる建築、環境負荷が少なく安全性に優れた建築が要求されています。建築学科の教育も、このような時代の変化に対応する必要があり、環境というこれまでとは違った新しい観点から建築を捉える必要が生じてきました。建築学科を建築コースと環境コースに分けたのは、このような背景によるものです。

建築コースでは、計画、構造、生産、設備などの分類でカリキュラムが編成されています。環境コースでは、建築における環境と安全を軸にカリキュラムを編成しています。

このように、建築系学科では21世紀に向けて、建築都市デザイン学科の発足と建築学科の建築コースと環境コースとに分けることにより、建築教育内容の多様化に対応し新しい分野の知識を持った専門家を育てるこをを目指しています。

③教員の近況

専任教員の移動の近況を報告いたしますと、本年3月に建築材料がご専門の難波蓮太郎先生が定年退職されました。難波先生は、昭和33年に本学教員となって以来、42年にわたり研究、教育にご活躍になりました。なお、難波先生は、4月には名誉教授になられました。昇格については、環境設備系の大橋一正先生が、教授に昇格されました。

新任教員としては、建築都市デザイン学科に阿部道彦教授が就任されました。阿部教授の専門分野は建築材料です。また、特別専任教員として、建築学科に建築設計分野の中山繁信教授、建築都市デザイン学科には都市デザイン分野の倉田直道教授の2名が就任されています。

専任教員の受賞については、論文賞の受賞が2件ありました。自然エネルギー利用の研究でご活躍の大橋一正教授、中島康孝教授が、日本太陽エネルギー学会賞平成11年度論文賞を受賞されました。論文題目は「ソルエアヒートポンプシステムの基礎特性と長期運転特性(第1報、第2報)」です。また、日本の近代建築史の研究を中心にご活躍の初田亨教授は、これまでの一連の研究を対象として2000年日本建築学会賞(論文)を受賞されました。論文題目は「職人および都市住民からみた日本の近代建築史に関する一連の研究」です。ここに改めて、お祝いを述べさせていただくとともに、なお一層のご活躍をお願いする次第です。

学／科／だ／よ／り

校友会のホームページ・アドレス……<http://www.mesh.ne.jp/kkyoyukai/>

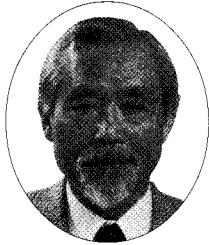
●本部役員宛てメール・アドレス………kkoyukai@mx5.mesh.ne.jp

●事務局宛てメール・アドレス………koyujimu@mx6.mesh.ne.jp

建築学科同窓会のホームページもありますので、皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

ご無沙汰しています—2

建築都市デザイン学科の近況



渡邊定夫
建築都市デザイン学科主任教授

①建築系学科の新しい構成

建築都市デザイン学科は今年も新入生80人を迎え、八王子キャンパスは2学年、賑やかになりました。デザインを勉強する学生も、少しではありますが、それらしい顔つきになりつつあります。建築学科も昨年から2つのコースに別れ発足していますが、いよいよ2001年度からコース別に学生を募集することになりました。近い将来、2つの学科としてそれぞれ独立し、建築気学科は、専門分野の異なる3学科を擁する大きな組織構成になる予定です。

このことは、建築に求められる社会の期待がますます高まり、そのうえ最終的利用者、消費者の求める満足の度合いが多様化してきたことの、いわば反映を意味しています。わが国の建築技術は時代とともに高度化し、その成果としての建築は品質を高めてきたところですが、どちらかといえば生産する側の理屈で品質向上を果たしてきたといえます。ところが、時代の要請は環境に優しく、省資源で、エネルギー消費の少ない建築のあり方を求めています。サステナブル建築、ライフサイクルコストの評価、そして変化する利用者の満足対応など、建築の価値が問いかれていました。

こうした時代の要請に応えるためには、建築教育も変わらなくてはなりません。教養としての建築の上に、専門性の高い特化した教育を行うことを、建築系学科は選択しました。幅広い建築の知識、技術を教育する学科、建築の環境技術に特色を持つ専門学科、そして人々の多様な満足に応えるデザイン教育の学科です。それぞれ、90人、70人、70人の一学年定員を予定しています。

②新しい問題

今日の大学教育を巡る大きな問題は、少子化による入

学人口の激減です。大学経営の基盤を搖るがす大きく深刻な問題です。幸いにして建築系学科は、現在のところ定員割れしておりません。建築の生産量が減少していくことを考えると、建築技術者の需要は減っていくことが容易に予想できるわけですから、従来と同じような建築技術者を養成していくのであれば、やがて定員割れすることになります。100年をこえる伝統ある建築学科を潰すわけには参りません。建築技術の業務サービスは、何も建築生産に関する事、設計や施工、維持管理に限られる必要はないわけですから、建築を中心に据えて新しい業務を広げることを予想しつつ、それに必要な人材教育を決意すること、建築教育の間口を広げることが、何より重要になります。建築の経営、街のマネジメント、建築資源流通管理などなど、社会の中の建築を広く捉えた教育プログラムを提供する必要があるわけです。

しかし、一方では建築技術者の資質向上が求められています。国際化の問題です。特に建築家、建築技術者の資格とその内容を国際的に比較してみると、わが国の建築教育の水準は国際的に取り分け高いものではありません。むしろ、教育年限の点からは低いと看做されています。また、設計実務に関する教育、職業倫理、業務内容の教育、英語を含むコミュニケーション教育、いわば専門職業教育に、甚だ不足する部分があることは否定できません。これから建築職業教育には、学部と大学院を繋いだ一貫教育が必須ということになるかも知れません。おそらく、教育年限は延ばすことになるでしょう。

■□■

いずれにしても、これから100年、新しい工学院の建築は大きく様変わりするだろうと思います。建築に根っこを持ちながら、建築教育は広がっていくこと思います。なぜなら、建築は人々の生活そのものの表現だからです。同窓生諸氏の意見、提案を歓迎します。

ご無沙汰しています—3

第2部の近況



初田 亨
建築学科第2部主任教授

2部建築学科の定員は110名であるが、入学試験は志願者のキャリアによって、一般入試、推薦入試、編入学試験のうちの一つを選ぶことができる。社会人推薦とは企業や官庁から推薦を受けた人を対象にしたものだが、推薦者たる勤務先に5年以上勤務している人は、勤務先の推薦は必要としない。編入学試験は、大学を卒業して学位を持っている人や高専、専門学校の卒業生などを対象にしたものである。

2000年度の入学者をみると、一般入試が35人おり、推薦入試は53人で、そのうち公募制が26人、社会人が17人、本学専門学校および高校が10人である。編入学は34人で、そのうち3年編入が6人、2年編入が28人

いる。一般入試と推薦入試が1年生に入学で、1年生の入学人数が定員より少ないが、2年および3年編入の学生がいるので、4年まで平均すると定員よりもやや多くなるのである。入学者の数からみても、一般入試の比率がかなり低くなっていることがわかるが、この傾向は数年前より明確になってきている。また、受験者全体の数も減ってきている。幸い建築学科については現在のところ受験者も多いが、学科によっては、大学の質を守るために定員より少ない合格者しか出さないところもある。

かつては、1部と同じ内容であることが工学院大学第2部の特色になっていたが、2部に在籍する学生そのものが変わってきており、1部とは異なる2部の独自性を打ち出していくことが社会からも要求されているといえよう。大学でも2部の改革を進めるべく、第2部改革推進会議からなる委員会をつくって、長嶋副学長を中心に来年度から実施していく改革案を検討している。具体的には、社会人に比重を移した大学のあり方などが検討されている。また、今年度から新しく実施されたものに、2部から大学院への推薦入学が始まった。2部学生にも意欲的な学生は多くおり、そのような学生に少しでも応えていこうというものである。

ご無沙汰しています—4

大学院建築学専攻運営委員



望月 淳
建築学科教授

大学という大学はどこでも大学院をもち、旧制帝大系は大学院大学といばり、また学部学生の20%以上が大学院に進学する状況は、本学の大学院に対して厳しいサバイバルを賭けた努力を強いています。

①組織と人事

現在、本学修士の定員は40名、実質55～60名で、博士は在籍者が数名です。この中には他大学からと社会人の学生があわせて10名前後含まれています。大学院に

は教授と一部の助教授が主要科目担当として、特専教授、残りの助教授、および外来講師の方々が選択科目担当として参加しています。

本年度から、阿部教授(生産)、野沢助教授(都市)、久田助教授(構造)が主要科目担当、後藤助教授(歴史)、東助教授(計画)、大塚助教授(構造)、および倉田特専教授(環境デザイン)、中山特専教授(建築設計)が選択科目担当として参加しています。

現在、二つのことが検討の俎上にあがっています。

一つは、建築デザイン専攻の設立です。来年度中には申請いたしたいと考えています。

二つめは、大学院教育・研究体制の再検討です。設立以来30年余経過し、院生の研究への貢献は著しく、彼らなくして研究活動が停滞するといつてもいいすぎではありません。しかし、一方では知的労働力として活用しているだけで、院生の基礎力、創造力のレベルアップにあまり寄与していないという反省もあります。いずれに

してもバランスの問題かと思います。これらは本学大学院全体の問題として、秋には議論され、来年度以降に反映されると思います。

②学位

昨年度、次の方々が学位を取得されました。

榎木 堯(建築研究所研究官) 課程博士

性能指向による建築外装仕上げの耐久性能評価手法に関する研究

岡田義治(小山北桜高校教頭) 課程博士

建築家・松ヶ崎萬長と明治初期におけるドイツの建築技術の導入に関する研究

坂上みつ子(日本電子専門学校講師) 課程博士

南太平洋の先住フィジー人における集落形態と住居形式に関する研究

本年度も数名の方々が学位論文を提出の予定です。

③入試

本年度から「0点でなければ」とする屈辱的な判定基準は除かれ、また下限値 ≥ 100 点も除かれました。自律的な判定をしたいと考えてのことです。

ここ数年、他大学の大学院を希望するまたは進学した学生が増加しています。東大、芸大、東工大、都立大、名工大、京都工芸大、埼玉大、早大、芝浦工大、などです。

知的欲求の高揚か、ネームロングダーリングか、経済原則に基づくものか、はっきりわかりません。いずれにしろ混血はいいことです。

④就職

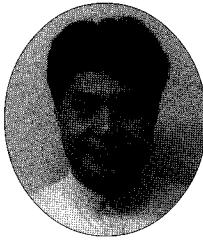
別欄で記しましたように、昨年度と本年度の就職はまったくというほどよくありませんでした。院生個々人のレベルアップは当然のこととして、われわれ教員を含めた大学全体のレベルアップを地道に行なうことが大切と考えています。

⑤嘆き

片持ち梁の曲げモーメント図が描けない構造専攻の学生がいました。「デザイン専攻の学生で建築設計をとらないのがいる」とは望月大介さんの嘆きです。つくづく定年57歳は、よい選択だったと思うようになりました。

ご無沙汰しています—5

学科の新しい構成について



近藤龍哉
建築学科講師／学科幹事

①建築系学科の新構成について

建築系学科は建築教育の組織・機関として充実・発展しております。教員一同、そうあるべく努力しております。現在はその過渡期にあたり、多少学科構成が複雑になっております。98年度入学生以前(3年生以上)は、建築学科建築学コースと建築学科都市デザインコースの1学科2コース制をとっております。99年度入学生は建築学科と建築都市デザイン学科の2学科制です。そして、2000年度入学生からは建築学科をさらに2コースに分け、建築学科建築コース(120名)と建築学科環境コース(70名)そして建築都市デザイン学科(70名)の2学科3系列制を発足しました。

2000年度に発足した2つのコース紹介をいたします。建築コースは工学技術を基礎に総合的に建築に携われる建築技術者を養成するプログラムに力点を置いたコースです。「特定な技術に特化しないことに特化したコース」です。環境コースは社会基盤も含めた設備と防災に特化した教育プログラムに力点を置いたコースです。「環境にやさしい建物を作る技術に特化したコース」です。両コースは、1, 2年次は共通の科目を置き、3, 4年次でそれぞれ特徴的な科目が置かれています。

社会の変化と学生の要望・希望・就職動向に合わせて、特定分野に特化した教育を少人数で行なうために、学科構成を再構築しています。現在は企画・計画段階ですが、建築系学科の一部と情報学科の一部が合併した新学部(工学部ではないものを立ち上げる構想を練っています)。

②教員構成について

それぞれに所属する教員は、「建築コース」では計画担当:山下、南迫、宮城、木村、初田、構造担当:望月(洵)、篠原、大塚、近藤、生産担当:嵩、吉田、環境設備担当:

足立の12名です。

「環境コース」は環境設備担当:中島、大橋、宇田川、遠藤、都市防災担当:広沢、久田、計画担当:東の7名です。

なお、望月(洵)先生、中島先生、篠原先生は今年度をもって定年退職されます。これにより、次年度は教員構成が多少変わる予定です。

③大学施設について

八王子校舎に15号館が完成しました。校地の南側にRC造3階建ての教室棟が建ちました。大教室(300名教室)2室、コンピュータ室(PC+EWS 61台)4室、英語教室、学生ラウンジなどがある教育棟です。詳しくは『建築技術6月号』を見てください。

教育および事務棟が3棟、研究棟12棟、その他に図書館、食堂、厚生棟、部室棟、セミナー棟などがあります。また、年度末の完成を目指して、新しい体育館の建設も行っている最中です。30年前、得体の知れない山の中に1号館のみがポツンと有り、西八王子駅から徒歩で45分かけて通学した経験を持つOB諸氏にとっては、「これが母校か」と見違えるほどキャンパスは変貌しております。

八王子校舎を主たる勤務地としている私としては、一度八王子校舎でOB会を開催したいです。小人数ですがセミナー棟に宿泊できます。また、八王子駅前には京王

プラザホテルをはじめ幾つものホテルがあります。

④就職状況について

なかなか苦戦です。学生課の資料では、99年度建築系学科卒業生の就職率は40%を下回ってしまいました。学生課へ進路先を届け出でていない学生や、進学した学生を加えても3割以上の学生は進路を決定できないまま卒業していました。私の卒業年度も含め、過去に何回か景気の波に影響されて就職率の低い時期がありました。しかし、最近2、3年は異常です。

工学院大学で建築教育を受け、ちょっと芽吹いた才能を育てるためにも、より良い職場に就職してほしいと願っております。是非ともOB諸氏のご協力を期待しております。

⑤その他

大学では産業界との共同研究に積極的です。特に建築学科では新たにそのための施設の建設を準備しております。私の周りのことで恐縮ですが、広沢先生を中心に私も加わり、RC造建物の耐震診断と補強に関する仕事をしております。

宮澤先生が中心となり木造住宅の耐震技術開発の仕事をしています。建築基準法が変わり、要求資料が従前と異なりました。技術開発や資料作成に関して、相談事に対応させていただきたいと考えております。

ご無沙汰しています—6

建築都市デザイン学科・ 都市建築デザインコースの 教育・研究の現状



後藤 治
建築都市デザイン学科助教授／学科幹事

①建築都市デザイン学科の教育

今年度の入学者は81名で、新しくできた建築都市デザイン学科も無事2年目を迎えることができました。昨

年度は定員よりやや多い入学者数となったため、本年度はやや心配な点もありましたが、結果的には適正な人数となりました。昨年度入学した学生たちも、一部を除けば順調に単位を取得し、元気に新たな年度を迎えています。ただし、2年生になって授業への出席率が落ちている傾向がみられるのは、よくありがちなこととはいえ、少し心配です。本学科は、昨年度スタートしたとはいえ、新たなカリキュラムによる教育の本格的な開始は、学生にとって専門科目の数が増える本年度からということになります。このため各教員とも、少しでもその成果を出すことができるよう、試行錯誤をしながら努力を積み重ねているところです。

ここでは、すでに取り組みが始まった新たな教育の一つとして、2年生前期の「建築設計Ⅰ」を紹介したいと思います。この科目では、前身の都市建築デザイン

学／科／だ／よ／り

このページは、工学院大学建築学科&建築都市デザイン学科が『NICHE』誌上を借りて最近の学科の様子を、お伝えしています。

コースでは別の単位となっていた「設計」と「設計演習」とを合わせた形にして、より密度が高い設計教育(コマ数で4コマ分)を目指した授業が実施されています。「設計」と「演習」を組み合わせて授業を進める試みは、都市建築デザインコースにおいても実質上は行われていましたが、新学科の下で一つの単位となったことにより、学生たちがより強い目的意識をもって「演習」の課題に取り組めるようになったものと思われます。

下に掲げてあるのは、その結果、学生達によって作成・提出されたもののうちの優秀作品です。作品の出来映えから、新しい教育による成果を感じていただけるでしょうか。この「設計」「演習」を一体化させた設計教育は、後期の「建築設計Ⅱ」でも引き続き行うことにしています。

この他に、現在教員の間では、1年生が3年生に進学した際に各専門分野ごとにどのように指導を行っていくのか、3年次設計の課題にデザイン学科としての特性をもたらせるにはどのようにすればよいのかなどについての検討が、昨年度に引き続き進められています。同時に、夏期休暇時に学生が学外で研修することによって単位が認定されるインターンシップ制度を実施するための具体的な準備作業等についての話し合いももたれています。さらに、個性的で能力をもった学生に入学してもらうために、高校時代の設計競技応募の実績をもとに合否の判断をする入試方法の導入などにつても検討を行っています。

②都市建築デザインコースの教育

4年生の研究室入室状況は、都市デザイン36名、建

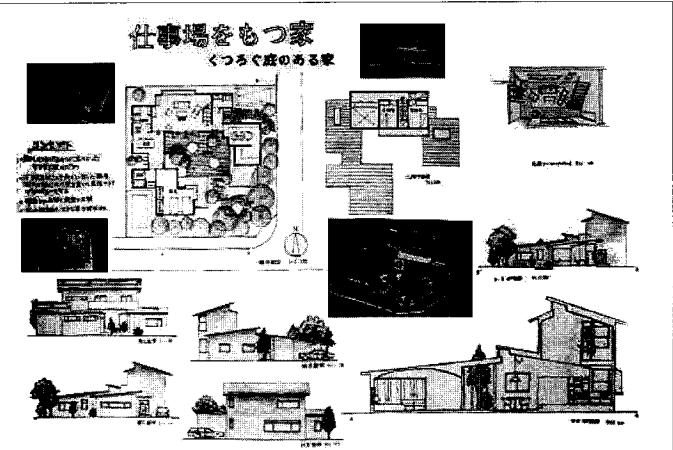
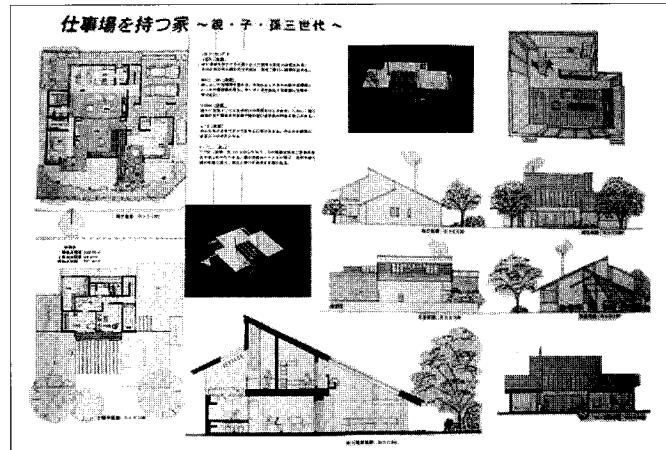
築デザイン25名、計画35名です。昨年度と比較して大きな変化はありませんが、問題点としては卒業設計で不合格になった者の数が多かったことがあげられます。このことから、本年度は卒業設計の中間提出の時期を変更し、全体的なレベルをできる限り上げができるよう心がける予定です。新学科では、このような事態とならないよう、設計製図への対応能力や適正を学生に対して早期に指導し、よりふさわしい専門分野に進むことができる方法があるかどうかを検討しています。

また、新学科ができたことにともなうカリキュラム変更によって、建築学科都市建築デザインコースで入学し、1・2年生の必修科目の単位を落とした学生にとっては、履修すべき科目がないなどの苦勞や戸惑いがあるようです。このため、各教員の協力を得て、再履修のための授業を開講するなどの対応策を講じています。

このような問題が生じている一方、学科のカリキュラム以外の設計競技に率先して応募する4年生が目立つようになるなど明るいニュースもあります。また、近年、卒業設計や学科の設計課題にCADを使用して提出する学生が増加してきているように、新学科への移行を先取りしたような動きもみられます。

③おわりに

長期間にわたる不況の影響もあって、就職の状況は依然よくありません。このため、優秀な学生であっても、就職がなかなか決まらず大学での勉学・研究に支障をきたしている様子をしばしば見受けます。学生たちが安心して勉学・研究に取り組めるよう、O.B・O.Gの皆様にさらにいっそうのご協力をいただければ幸いです。



ご無沙汰しています—7

2000年度・大学入試について



望月大介
建築都市デザイン学科教授
建築系学科入試委員

昨年度の広沢先生から引き継いで、最近の本学建築系学科の入試状況について報告いたします。

皆様にはすでにご承知の通り、受験生の減少傾向は年々続き、どの大学も入試対策の中で最重要課題になっています。本学も同様の状況下にあり、入試委員会もその対応策に苦慮し、入試日程の他校との調整、入試科目の変更、センター入試の積極的参加など種々の対策を進めておりますが、決め手がないのが本音です。

1部入試全体の総受験者は98年度:1万6,258名、2000年度:1万3,033名で、3年間の減少率は約20%であり、きわめて厳しい状況です。建築系学科を例としますと98年度:建築=2,868名、デザイン=2,017名、計4,885名に対して2000年度:建築=2,543名、デザイン=1,533名、計4,076名となり約17%も減少しています。

この問題は各科共通であり、コース、学科の新設などで新鮮なイメージを打ち出していますが、強力な解決策はないようです。情報化社会と呼ばれる昨今、インターネットの積極的活用と大学PRの対策をどのように発展すべきか、大学法人も専従者を置いて、その対策に動き

はじめていますが、今後大きな課題です。

建築系学科の入試状況からは2001年度、現在の建築学科は建築と環境の2コース制に独立し、入試も分けて実施予定であり、デザイン学科を合わせると3回の受験が可能となります。このことにより、これまでの大学科の多人数教育のイメージの解消と建築の専門別分野の教育方針の明確化が進み、受験生への理解も深まるのではないかと思います。また、将来は3学科体制も視野に入れた布石でもあります。

本年度の学科の受験傾向としては、受験者数の減少はあるものの一般入試の受験倍率(別図参照)は他学科に比べ高く、建築学科:4.5倍(1,156名/合格者257名:定員190名)、デザイン学科:9.0倍(792名/合格者88名:定員70名)です。女子学生は建築:57名、デザイン:29名の合格者がおり、その比率は建築:22%、デザイン:33%で年々増加傾向です。社会のソフト化現象は建築関連産業にも反映し始めているといえます。

このような状況から今後どのように質の高い学生を確保するかの問題と、もう一方、推薦入学者の対象範囲の拡大など様々な課題を抱えています。

2部入試についても1部同様に受験者減少の傾向にあり、2000年度の全学科受験者328名、合格者202名、倍率1.6倍であり、建築学科:1.8倍(105名/合格者59名)で、低調な入試状況です。今後は学士編入学を主軸とする教育環境の整備が急がれるところです。

卒業生諸兄におかれましては、このような入試状況をご理解いただき、よりよい学生を本学に推薦下さいますようお願ひいたします。

学科	入学定員	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	倍率[受/合(倍)]	合格最低点
機械工学科	175	70	892(19)	848(19)	276(10)	3.1	157
			218(12)	209(12)	103(8)	2.0	145
機械システム工学科	105	45	598(25)	574(24)	195(10)	2.9	165
応用化学科	150	60	57(104)	551(100)	281(53)	2.0	143
環境化学工学科	96	40	323(44)	303(43)	177(29)	1.7	130
電気工学科	130	50	500(14)	471(14)	228(11)	2.1	148
電子工学科	100	40	599(22)	567(22)	195(8)	2.9	162
情報工学科	120	50	1,323(103)	1,257(99)	192(18)	6.5	187
建築学科	190	80	1,234(221)	1,156(210)	257(57)	4.5	172
建築都市デザイン学科	70	30	82(204)	792(195)	88(29)	9.0	204
合計	1,136	465	7,079(768)	6,728(738)	1,992(233)	3.4	300点満点

■ 200年度・一般入試結果 [第1部] A日程・サテライト入試——※()内は女子内数／サテライト入試志願者:829名、受験者数:803名

ご無沙汰しています—8

就職状況



望月 淳
建築学科教授／就職委員

本年度の就職状況は、昨年度と全く変わらないといつてもいいすぎではあります。

①不況

朝鮮戦争特需の神武景気後やってきた昭和33年初めての鍋底不況、オリンピック景気後の証券不況、列島改造景気後のオイルショック不況、バブル景気後の平成不況と、不況はほぼ10年の周期でやってきていますが、平成不況がもっと長く、かつ深刻です。

この波をもろに受けて、ここ4～5年来、特に本年の就職状況は学生の希望を打ち碎くほどのものです。

②学部

第1部220人、第2部85人のうち、大学院予定50人を除く、250人ほどが潜在的就職希望者数です。7月末で内定者数は1部で80人、2部で15人です。施工、設計、住宅とあらゆる職域で求人を控え、例年活況の設備の分野でさえ、あまりよくありません。特に、女子は男女均等雇用法も背に腹はかえられずで、全くというほどです。法の手前、表向きは受験拒否できないため、かなりの女子学生は無駄玉をうっているのが現状です。

③大学院

向学の志し止み難くの院生もかなりいますが、2年後には景気がもどるかもとの微かな希望を持って進学した院生も多々います。彼らにとって、あてのはずれた思いかと。院生の学力不足もひしひしと感じられ、これも就職状況悪化の一因ですが、社会の大学院に対する評価が急激に様変わりしたことが主因といえます。

7月末で在籍者50人のうち内定者は15人で、特に女子は15人中1～2人だけが内定です。リクルーターの話によれば、不況と再編で院生を受け入れる職場や部門が少なくなってきたことが表向きの理由ですが、定かで

はありません。かなりの数の企業が院生採用に拒絶反応を示していることは事実です。

④様変わり

今まで、就職情報の大半は就職課に届く求人票で、そのほかに教員経由、公務員関連の公的な情報でした。求人票は昨年度で350枚、本年度270枚と減少に歯止めがかかっていません。多くは不況のためですが、企業は情報公開にインターネットを利用し、広く人材を求めるようになり、その中には求人票を送ってこない企業も多々あります。

極論すると、求人の仲介者として大学を利用しない流れに変わりつつあります。学生の就職に対する考え方も様変わりしています。皮相的な観察ですが、卒業即就職、または卒業即建築の考えをもたない学生がこのところ漸増しています。大学に対する認識や期待が変わってきていることは事実です。

⑤対応

お手上げの感なきにしも非ずというのが率直なところです。早晚、大学の就職斡旋業務はなくなるかもしれません。

就職開拓に精を出すより、学生の学力、知力、活力……などの平均水準をあげるのが一番の対応と考えています。もっともこれは一朝一夕にできない難事ですが……。

⑥お願い

本誌が発行される頃、未就職の学生が4割はいることと思います。玉がいるかもしれません。卒業生にはよい話がありましたらお知らせください。

■2000.07.21

新宿校地問題について

2000年7月21日、学校法人工学院大学評議員会が開催されました。常務理事からの説明に対し、当日、校友選出評議員(20名)の新宿校地問題に対する見解を発表した。これは、この問題についての評議員会のみならず、理事会、監事、理事長の責任を明確にし、この問題の区切りをつけ、次のステップに移行するための重要な転換点です。

以下に、その内容を報告いたします。

①現状の理解

生保(日本生命および第一生命)は、学校法人工学院大学が所有する広場下土地のみならず街区全体の「土地についての権利」を有することを主張している。その結果、工学院大学の基本財産である新宿校地の権利が侵害されており、将来の大学経営の継続に対して重大な障害が生まれることが危惧される。

■□■

[生保が権利を申し立てる根拠]

- 基本協定第17条第1項(1986年11月)
- 覚書(1991年5月)による建物所有持ち分の変更
- 生保の地下建築物の保存登記を大学が認めている

□■□

※今後の理解のために

今後、評議員会は、大学寄付行為第28条の責任のもとに、基本財産の保全のための「新宿校地問題」を今後とも正確に把握する。そのためには、少なくとも「白書」(議論あるところは両論併記されている)を前提にスタートし、白書に加え、これまでの資料(基本協定書、覚書、部分賃貸賃貸契約書、登記書類等)、新しく発生する資料、議論や考え方を付加し、評議員の誰でもが、いつでも閲覧することができるようとする。

■□■

[寄付行為第28条]

1. この法人に評議員会を置き、第39条各号に規定する事項につき議決し、及び第40条各号に規定する事項につき理事会の諮問に答える。
2. 評議員会は、この法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行状況について役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に答え、又は役員から報告

を徴することができる。

□■□

[寄付行為第39条]

次に掲げる事項については、評議員会の議決を経なければならない。

(1) 第23条の規定による業務決定の特例

(予算の決定、決算の承認、資金の借入、運用財産の不動産の処分、不動産の買い受け、剰余金の処分等)

(2) 第43条の規定による財産処分の制限に対する特例

■□■

[寄付行為第43条]

基本財産は、これを処分してはならない。

ただし、この法人の事業遂行上やむを得ない理由ある時は、理事総数の3分の2以上の議決及び評議員会の議決を経て、その一部に限り、これを処分することができる。)

②評議員会の責任の総括

「基本財産が侵害される可能性」という重大な問題を生じさせた原因を明らかにし、評議員会の責任について明確にした後に、評議員会全体で財産保全に向けてスタートする。

◆評議員会の責任と反省

① 125回評議員会(1989年11月8日)において、「街区全体に1棟の区分所有建物を建てる」という大きな財産処分の方針が出されたが、評議員会の議決を得た承認になっていない。これは、評議員会の第43条の責務を果たしておらず、その結果、現在の権利関係の複雑さを生じさせたことを反省する。

② 132回評議員会(1992年5月31日)において、当日評議員会の前に締結された「覚書」の報告を受けたとされている。その際に、評議員会は、「覚書」の締結が寄付行為第39条及び43条の議決を伴う行為であることを明らかにして、締結の前に議決すべきであった。これは、明らかに評議員会の責務の放棄または怠慢であり、その結果現在の校地問題を生じさせた重大な責任を負わねばならない。

③ 1994年9月28日に第3期工事の契約なされた同

日、668回理事会が開催されている。しかるにこの契約が重大な財産処分であるにもかかわらず、2ヶ月後の11月30日の第146回評議員会で報告のみされた。これは、明らかに契約前に議決を経るべき案件であり、これを要請しなかった評議員会の責任は大きい。

③監事および理事会への要望

①監事への要望

監事の職務は寄付行為26条に示されている。先の評議員会の責任と反省において示した事柄については、26条第3項の規定がもし十分に果たされていれば、評議員会において十分な議論が行えたかもしれない。無論26条第5項も重要であるが、今後は第3項及び第4項による評議員会への報告にも十分な配慮をお願いしたい。



[寄付行為第26条]

監事は、次の職務を行う。

- (1)この法人の財産の状況を監査すること。
- (2)理事の業務執行の状況を監査すること。
- (3)この法人の財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査した結果、不整の点があることを発見したとき、これを管轄庁又は評議員会に報告すること。
- (4)前号の報告をするために必要があるときは、理事長に対して評議員会の召集を請求すること。
- (5)この法人の財産の状況又は理事の業務執行の状況について、理事に意見をのべること。



②理事会への要望

財産保全は、本学の経営において最も重要なことである。その最も重要なことが、現在、生保側におかされる危険が生じたことに対して、理事会においても真摯に議論し、本学の正当な権利の回復のため最大限の努力をしていただきたい。特に、理事会では、評議員会の議決に先立ち、3分の2以上の議決によってその責務を果たすことが決められている(第23条)。その責務が果たされたのかまた、もし反省あることがあれば明らかにしていただきたい。

④今後の校地問題の方針

①本学の基本財産を保全する

新宿校地に有する本学の土地に対していかなる権利をも排除するための、あらゆる手段を講ずる

②評議員会は、財産保全のための責任を負っており、上記目的を達成するため、専門部会を設けるなどして評議員会の機能を果たす

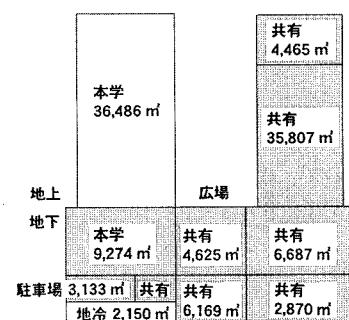
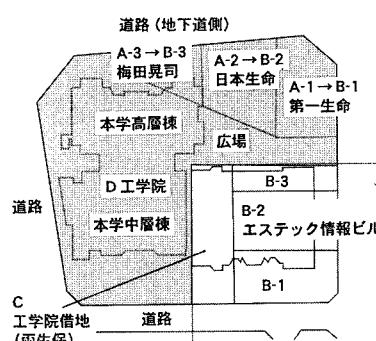
③広く外部も含めた判断を受け入れる

不動産に関しては、本学が十分な知識を有していたとはいえない。むしろ、専門集団である生保の意図を理解できなかったのではないかとも思える。そこで、本学建築学科の専門家をふくめ、更に法律専門家、不動産専門家などを幅広く受け入れ、十分な体制をもつてことにあたる。

④評議員の一員として校友選出評議員の責務を確認する

前に述べた評議員会の責任の一端は校友選出評議員にもあることを反省する。その上で、学園との直接的経済関係を有さない純粋ボランティア精神のもとに評議員の責務を果たすことを確認する。

(レポート:学園将来ビジョンを考える懇談会・世話人会校友会選出グループ／笹原克・高木雅行・寺島敬二・渡辺征一郎)



本学専有 48,833 m²
共有 12,376 m²

生保共有 45,941 m²

合計 106,430 m²

(『NICHE』vol.21より)

2000.08.30

新経営方針で21世紀の大発展を

①母校の財産が保全されていない

母校新宿校地の再開発が完了し早くも5年が経過しました。前号でお伝えした通り、現在、八王子校地は再開発の真最中です。こうした施設の整備は進展していますが、現在、母校の財産の保全の点で大変な問題が放置されたままになっております。

校地の権利問題は『NICHE』vol.21号で、学校法人北澤監事(当時)より皆さんにお伝えしましたが、いまだ有効な対策が講じられておりません。現状の権利状態は新宿校地全域に第一生命、日本生命の借地権が発生し、事実上、工学院大学単独の財産が存在しなくなりました。

具体的には、本学園の敷地全体にある地下6階までの建物が共有建物で登記されており、広場下の商店街は82.7%が両生保の建物となっております。校友選出の監事、評議員および教員の一部の方は再開発初期の段階からそうした複雑な権利状態にならなかっため、それぞれの土地に建つ再開発案を主張してきましたが、それを取り入れられることなく再開発は進みました。

一般社会常識でわかる通り、建築物が存在するためには、その敷地が必要です。工学院大学の土地の上に存在する建築物の工事代金を両生保が一部負担しているため土地に対し権利が発生してしまっています。私たちは、こうした権利関係を一刻も早く見直すため学校経営陣に生保との交渉をするよう主張してきた結果、学校側も生保に現状の権利関係をどう認識しているか質問するに至り、一生保は工学院大学の土地に対し権利を有していると回答し、他方は無回答のままでです。どう考えても、土地に対する対価を支払うことなく、一度手にした土地に対する権利を見直す話しに簡単に応じることは考えられません。

本来、自分自身の土地に対し、他者が何らかの権利を主張した場合、当然、権利を守るべく戦うことでしょう。しかし、代々の関係する学校経営陣は前任者のしたことは否定することはせず、なんら権利を回復するための有効な対策をしておりません。それは、工学院の固有の財産を自分自身が経営者として絶対に守

るとの認識と決意が欠如しているからです。

本来、教育、研究を専門とする先生方が、年収約125億円の工学院大学の経営をしていることに無理があるのかもしれません。

②経営陣の責任:評議員会・理事会の責任

学校法人の財産処分については、寄付行為において明確に規定され、評議員会の議決を経ることになっております。しかし、一連の重要な財産処分にあたる第125回、132回の評議員会では、議事録にある通りなんら議決を経ておりませんでした。

これは当時の評議員会、また議案の作成、業務の執行者である理事長を中心とする理事会の責任に他なりません。本来、この権利関係を見直す最終チャンスと考えられた建物の保存登記の際、校友側は権利関係の見直しがなされないままの同意捺印はしてはならないとの主張に対し「錯誤でいつでも訂正できる」との理由で実行したのは現理事長の北郷薰先生です。

一説によると、来年でこの問題は時効を迎えるといわれています。権利回復の手立てには一刻の猶予もありません。

③新経営陣で21世紀の大発展を

権利回復の法的手続きを進めるに当たり、保存登記に同意捺印した理事長が当事者では、戦いの交渉など不可能です。研究者・教育者であっても強力なリーダーシップをとり戦えるリーダー。または暫定的にその期間に采配を振れる校友のリーダーが必要だと考えます。

母校を21世紀に輝く存在であり続けるため、いま私たち卒業生一人一人の思いを反映し、強力に実現へ向け寄与する新経営陣が誕生するように応援してゆこうではありませんか。

各同窓会を选出母体とする校友会では、学校経営の重要な役割を担う学校法人の評議員を選出します。明年、同窓会、校友会役員の改選が行われ、引き続き翌年学校法人の評議員の選出を行います。どうか積極的な御意見や活動への御参加、御協力をお願いいたします。

(レポート:学園将来ビジョンを考える懇談会・世話人会校友会選出グループ／笠原克・高木雅行・寺島敬二・渡辺征一郎)

SONY

Digital Dream Kids

新製品ではない、
新戦力だ。

SONY

DVCAM

プロの映像で作られたVHS1000が、今この1台に進化した。上位機種のデジタルムービーカメラ「DSR-PD150」新登場。

DSR-PD150 DVCAM

●商品を安全にお使いいただきため、ご使用の前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。●「Digital Dream Kids」デジタル・北陸営業所(011)231-8121 東北営業所(022)257-7630 東京営業所(03)3792-2420 関東営業所(048)632-8808 営業往來所(045)243-6711 多摩営業所(042)575-0201
トーリード・オーディオ・ビデオの企画を務める株式会社です。●ご広告に記載の商品に関するお問い合わせは、下記までお願い。千葉営業所(047)438-0150 神奈営業所(025)270-3273 新潟営業所(065)224-4601 茨城営業所(052)201-6871 北陸営業所(076)240-3110
福井営業所(075)632-4111 岐阜営業所(052)241-8211 四国営業所(087)822-5550 九州営業所(092)741-2761

1・2級建築士をめざすなら、合格率が違う。

日建学院へ。

受講生受付中!!

●案内書無料進呈●

朗報

当学院入学時に
エスティックカード(工学院大学OB会カード)を
ご提示いただけましたら、
学費の割引を適用させていただきます。

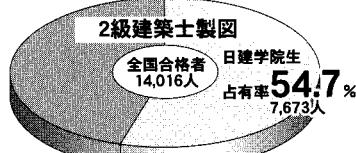
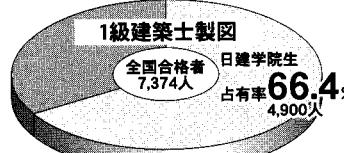
特典

あなたも日建学院なら、
夢に手が届く。

◎1級建築士輩出で毎年日本一の合格システム!!

前年度実績も驚異の高率をマーク!

(平成11年度実績)



開講コース案内

■1・2級建築士科(学科・設計)コース

■宅建取引主任者コース

■1・2級建築施工管理技士コース ■土地家屋調査士コース

■給水装置工事主任技術者コース ■福祉住環境コーディネーター

■ファイナンシャルプランナー

*『教育訓練給付金』指定講座多数有
お取り合はせは、下記、本部までお願いします。

主要都市をネットワークした全国130校・600常備教室は業界No.1の規模。

(株)建築資料研究社

日建学院

本部／東京都豊島区東池袋1-21-16
〒170-0013／日建学院ビル7F
☎03-3983-5001(代)

0120-24-3229

ホームページ <http://www.ksknet.co.jp/>
E-mail nikken@to.ksknet.co.jp

忙しい方、時間がない方のための
土木関連講座も受講生大募集中!!

■開講コース

- 1級土木施工管理技士コース
- 2級土木施工管理技士コース
- 1級造園施工管理技士コース
- 2級造園施工管理技士コース
- 1級管工事施工管理技士コース
- 2級管工事施工管理技士コース
- 測量士補コース



短期集中講座

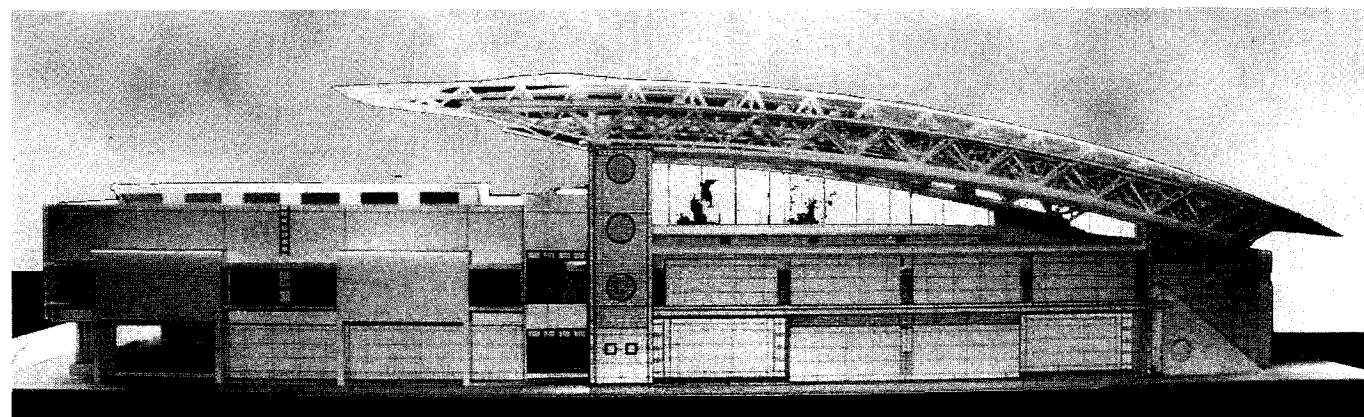
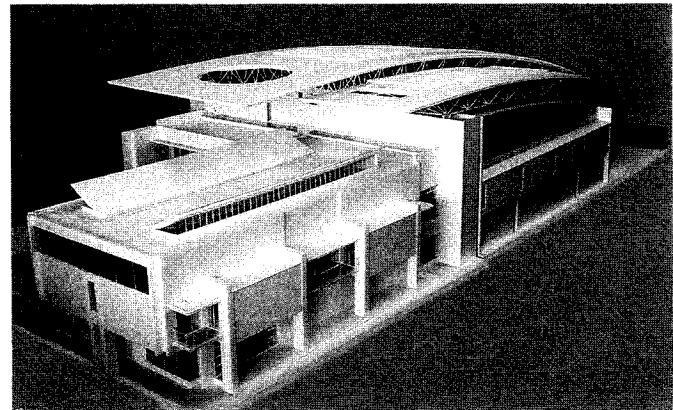
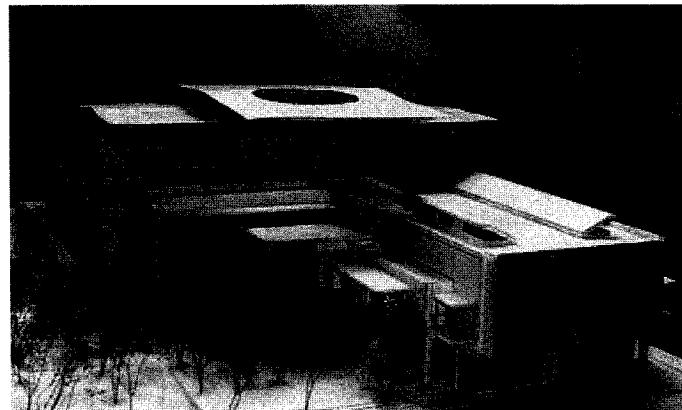
自宅学習教材が充実。
資格習得を早く望まれる方に最適です。

株式会社 久米設計
KUME SEKKEI

代表取締役社長 岡本 賢

本社 135-8567 東京都江東区潮見2丁目1番22号
(03)5632-7811(代表)

札幌支社 東北支社 横浜支社 静岡事務所
名古屋支社 大阪支社 広島事務所 九州支社



学園創立115周年記念体育馆
(八王子キャンパス)

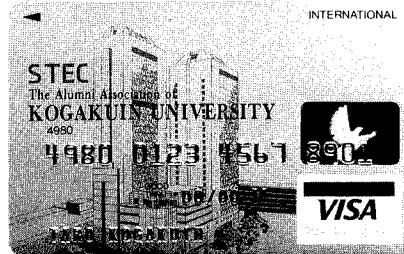
(有)LINK建築工房

〒 160-0023 東京都新宿区西新宿8-2-5 新宿エストビル4F

TEL 03-5330-8230 FAX 03-5330-8230

2001年4月 供用開始

あの頃も、今も輝き続いている信頼がある。



世界No.1カード・VISAとの提携により輝き続ける、
工学院大学校友会VISAゴールドカード・VISAカード。
VISAならではの高い信頼と多彩なサービスをご実感いただける
エンブレムカードを、工学院大学校友会のメンバーの皆様にお届けいたします。
国内ではもちろん、海外でもきっとご満足いただける一枚。
この機会にぜひお申し込みください。

あなたの暮らしをしっかりサポート

VISA市外通話割引サービス

市外通話料金がご利用金額に応じて16~20%割引となります。
サービス提供会社:(株)日本総合研究所(一般第二種電気通信事業者)

国際電話も格安で。

VISAスーパーイコノミーフォン

世界183の国・地域へ格安料金で通話ができるうえ、月々5,000円以上利用すれば、5,000円超過分が15%割引になります。
サービス提供会社:株式会社KDDコミュニケーションズ(一般第二種電気通信事業者)

カードを提示するだけで特別優待割引。

プライムクラブ



国内50,000店の飲食店、ホテル、レンタカー、美容室、海外34都市1,500店の一流ブランド店、免税店、デパート、レストランなどで5~20%の特別割引サービスが受けられます。
(一部プレゼント特典のお店もあります)

海外・国内の旅行をもっと便利に、快適に。

VISAジャパンデスク

VISAジャパンデスクは東京を含む世界主要44都市に設置。現地スタッフが常駐して日本語で最新情報案内からトラブル時の対応までサポートします。またレストラン、ゴルフ場のご予約など、出発前の準備はVISAジャパンデスク[国内]が承ります。



◆ゴールドカードならではの特典サービス◆

ご入会資格: 原則として満30歳以上・年収500万円以上・勤続年数(自営の方は営業年数)5年以上

保険サービス 保険料は弊社負担

●最高5,000万円の海外・国内旅行傷害保険

海外・国内の旅行中の死亡・後遺障害などを最高5,000万円まで補償。
※海外旅行傷害保険は、ご加入日(カード発行日)の翌日以降に日本をご出発の旅行から対象となり、補償期間は旅行につき最も長い3カ月で、ご旅行の都度適用されます。

※国内旅行傷害保険は、事前に旅費等をカードでお支払いいただくことを前提とします。

引受保険会社/住友海上火災保険 株式会社

ゴールドデスク フリーダイヤル

国内線航空券やゴルフコースのご予約・手配、全国の提携ホテルのご予約(優待特典も含む)などをフリーダイヤルで承ります。

お買物安心保険(動産総合保険)

カードでご購入になった商品が万一破損したり盗難に遭った場合、ご購入日から90日間、年間100万円(ゴールドカード会員は年間300万円)損害を補償いたします。保険料のお支払いや事前の手続きは一切不要です。

※一部補償の対象とならない商品がございます。

引受保険会社/住友海上火災保険 株式会社

社团 法人 工学院大学校友会 VISAゴールドカード VISAカード

ご利用は計画的に。

●お問い合わせ・お申し込みは●

住友VISAインフォメーションデスク 東京 ☎ 03-5392-7411 大阪 ☎ 06-6228-1222

受付時間/9:00~17:00 年中無休(ただし12/30~1/3を除く)



株式会社 住友クレジットサービス

近畿財務局長(6)第00209号

東京本社/〒105-8011 東京都港区新橋5-2-10
大阪本社/〒541-8537 大阪市中央区今橋4-5-15

私たちのいちばんの技術は、
お客様の思いを読み取る技術です。

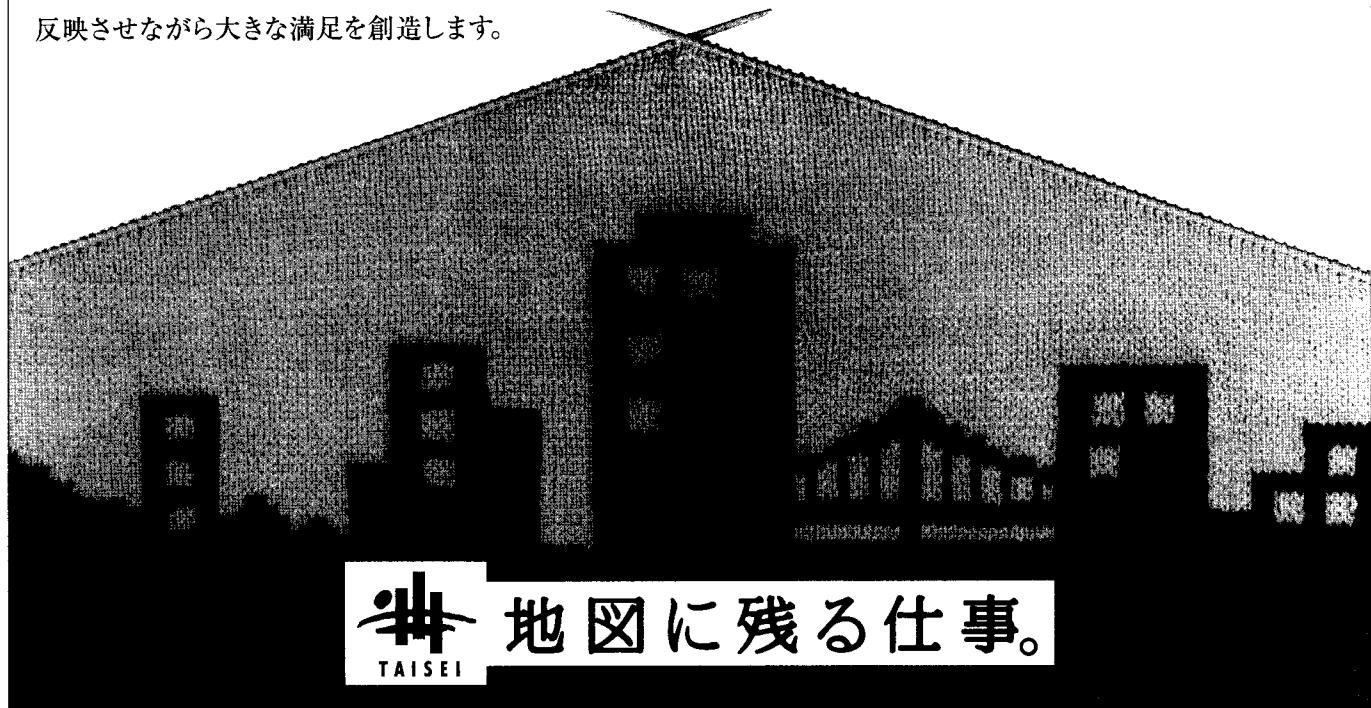
大成建設

東京都新宿区西新宿1-25-1

TEL.03-3348-1111(大代表)

<http://www.taisei.co.jp/>

個々の技術はもちろんですが、何よりも大成建設が胸をはって誇りたいのが
お客様の思いを読み取る技術です。私たちはご利用いただく方の率直な声から引き出された
真のニーズをしっかりと把握し、すべてのプロセスに
反映させながら大きな満足を創造します。

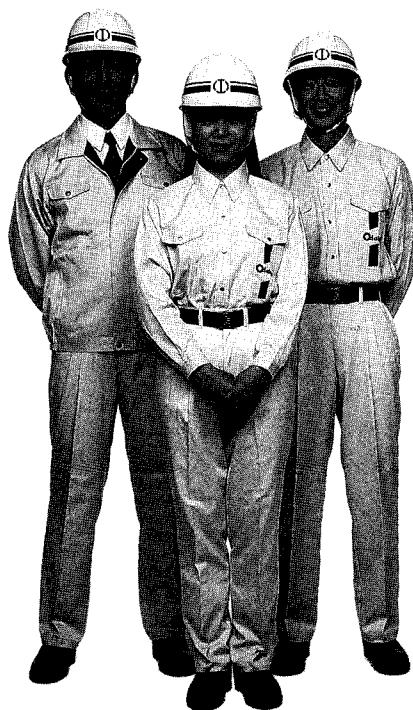


TAISEI

地図に残る仕事。

Odakyu

子供たちの 子供たちに、誇りたい。



ビルも、道も、川も、街も、
決して、一世代だけの財産ではありません。
だからこそ、いまという時代を豊かにしながら、
次の時代にも、大きな満足を生み出せるように。
先進の技術、そして、人や自然への繊細な感性を大切にしながら、
私たち小田急建設は、子供たちの子供たちに誇れる、
そんな仕事をめざしています。

部長 戸澤 豊夫 (S40年卒工学部)
部長 中島 武夫 (S40年卒工学部)
部長 杉井 元昭 (S42年卒工学部)
部長 山崎 達雄 (S44年卒工学部)
部長 吉田 一男 (S46年卒工学部)
部長 中沢 建次 (S50年卒工学部)



小田急建設株式会社

本社：東京都新宿区西新宿4-32-22 TEL 03-3376-3101
<http://www.odakyu-kensetsu.co.jp/>

MUTOH

創造、大切にします

設計現場の即戦力となる人材育成には、優れた教材を使用したい。
そんな声に応えるのは、やっぱりMUTOHです。
あらゆる設計現場で、高い信頼性と
納入実績を誇るMUTOHの設計製図ツールは、
教育の現場でも活躍してくれます。

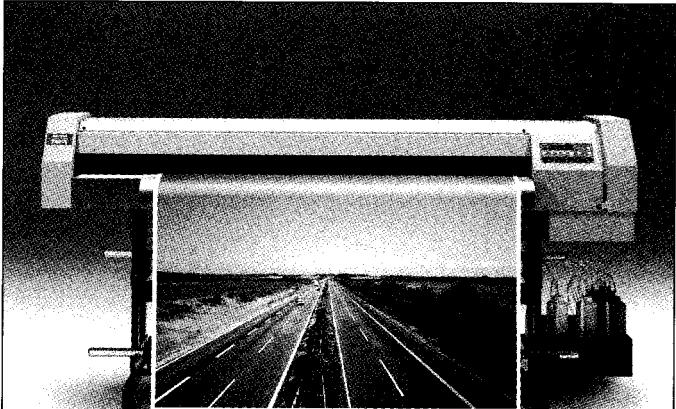
教えるのも、教わるのも、MUTOHなら安心です。

屋外専用大型フルカラー
インクジェットプリンタ

ラミレス

PJ-1304NX

ラミネート不要で成果物の
コストダウンと納期短縮を両立。
屋外サインの制作で、避けられなかつた
ラミネート加工の手間と時間を一気に
解消したのが屋外専用大型フルカラー
インクジェットプリンタ「ラミレス」です。
独自に開発した溶剤系顔料インクの採
用により、手間と時間のかかるラミネー
ト加工がまったく不要。優れた耐水性に
より3年相当の耐候力を実現しました。

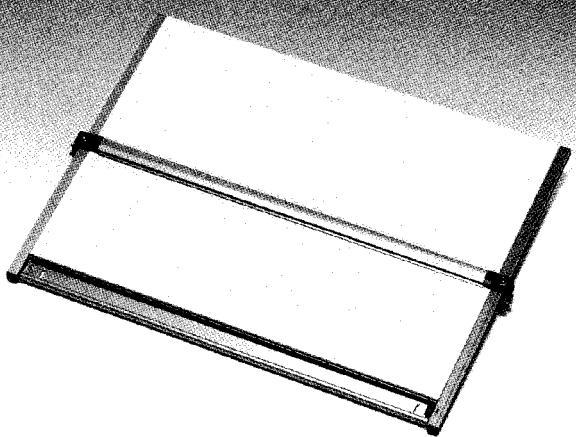


LINER BOARD
UM-09NK

工学院
特別仕様

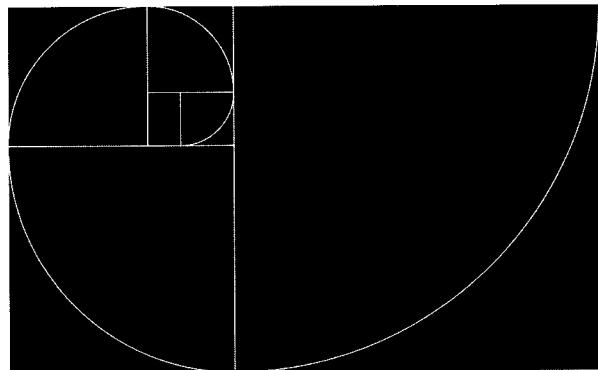
■塩ビシート圧着鋼板製図板使用■

場所を選ばず高い精度と操作性が得られる
コンパクトな平行定規、ライナーボード。
耐久性に優れ快適な操作性を提供する
シンクロベルト方式を採用した本格派。
A1サイズまでの作図に対応。図面への
固定は、付属のマグネットプレートで
ワンタッチ。しかも軽量・コンパクトで
す。簡単に持ち運びできますので、思い
ついたらそこがワークスペース。アイ
ディアを生み出す頼もしい片腕です。



武藤工業株式会社 東京都世田谷区池尻3-1-3 〒154-8560 TEL(03)5486-7139(直通) FAX(03)5486-7172

未来のコルビュジエに贈る



MiniCAD
VectorWorks[®]

Object-Based CAD for Professionals

MiniCAD後継。それはCAD、
そしてOSの枠を超える。

VectorWorksは、オブジェクト指向CADの時代を先取りしてきた13年の実績をもつMiniCAD後継ソフトです。MiniCAD7のコアエンジンを引き継ぐとともにオブジェクトベースのCADエンジンを新搭載しました。ドアや家具などの数多くのプラグインオブジェクトにより作図効率の向上とリンクエージを計りました。さらに、VectorWorksでは、組織型設計に必

要なネットワークコラボレーションが可能なワークグループ機能を実現。JW_CADデータ取込機能、DXF互換に対する機能強化、BMP/JPEG等のイメージファイルの取り込み／取り出し等により、他で作成したデータの有効活用が可能です。また、属性の設定等が行えるクラス機能の大幅な改善により作図環境が一段と向上します。VectorWorksは、

標準価格 Macintosh/Windows 各198,000円(税別)／ハイブリッド版 288,000円(税別)
Macintosh/Windows 追加1ライセンス 各100,000円(税別)

VectorWorksに関する詳しい製品情報、セミナー案内、VectorWorks操作技能保持者認定試験例題集などの各種情報をホームページにて公開しています。<http://www.AandA.co.jp/VectorWorks/>

MiniCAD、VectorWorks、RenderWorksは米国Diehl GraphsoftIncの登録商標です。その他記載された会社名及び製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。製品の仕様は予告なく変更する場合がある



エーアンドエー株式会社
東京都千代田区神田駿河台2-3-15
A&A駿河台ビルディング
TEL 03-3518-0131 FAX 03-3518-0122



1級建築士



2級建築士



宅 建



1級建築施工管理技士

私たち
は、
建築
関連
資格
の取
得を
応援
しま
す。

開講講座一覧

●一級建築士養成講座

- 1級建築士養成講座ピクトリーコース
- 1級建築士パーフェクトコース
- 1級建築士設計製図コース
- 1級短期設計製図コース

●二級建築士養成講座

- 2級建築士学科コース
- 2級建築士設計製図コース
- 2級短期設計製図コース

●宅建総合・本科・答練・大予想講座

- 1級建築施工管理技士
総合・学科・実地通信講座

教育訓練給付制度
対象講座多数

給付金制度に関するお問い合わせ・講座資料の請求は、
最寄の下記校までお気軽にご連絡ください。

札幌校	TEL.011-219-3511	FAX.011-219-3522	岡崎校	TEL.0564-57-8161	FAX.0564-57-8191
新宿校	TEL.03-3366-2181	FAX.03-3366-3081	豊橋校	TEL.0532-57-0311	FAX.0532-57-0031
池袋校	TEL.03-3982-8211	FAX.03-3982-7800	津岐阜校	TEL.059-238-0711	FAX.059-238-0801
上野校	TEL.03-3832-7201	FAX.03-3832-7250	岐阜校	TEL.058-277-3701	FAX.058-277-3706
五反田校	TEL.03-3495-8671	FAX.03-3495-8771	京都校	TEL.075-352-3011	FAX.075-352-3051
立川校	TEL.042-524-7841	FAX.042-524-7491	梅田校	TEL.06-6374-1411	FAX.06-6374-4711
横浜校	TEL.045-316-6811	FAX.045-316-6841	京橋校	TEL.06-6882-8211	FAX.06-6882-8212
町田校	TEL.042-724-3061	FAX.042-724-3350	難波校	TEL.06-6648-5511	FAX.06-6648-5548
厚木校	TEL.046-226-5788	FAX.046-226-5789	堺奈良校	TEL.0722-22-9311	FAX.0722-22-8011
大宮校	TEL.048-642-9811	FAX.048-642-9921	神戸校	TEL.0742-30-1511	FAX.0742-30-1615
越谷校	TEL.0489-90-6971	FAX.0489-90-6981	姫路校	TEL.078-241-1711	FAX.078-241-6711
所沢校	TEL.042-926-6241	FAX.042-926-6281	島田校	TEL.0792-24-1411	FAX.0792-24-1412
千葉校	TEL.043-290-7341	FAX.043-290-6981	福島校	TEL.082-542-3811	FAX.082-542-3815
船橋校	TEL.047-425-8941	FAX.047-425-8940	多摩校	TEL.092-476-5611	FAX.092-476-5610
松戸校	TEL.047-369-3821	FAX.047-369-3841	天神校	TEL.092-716-2081	FAX.092-716-1990
土浦校	TEL.0298-35-5181	FAX.0298-35-5157	小倉校	TEL.093-522-7511	FAX.093-522-7531
名古屋校	TEL.052-202-1751	FAX.052-202-1755			
小牧校	TEL.0568-42-1211	FAX.0568-42-1221			

《ホームページアドレス <http://www.shikaku.co.jp>》

—資格指導のエキスパート—

総合資格学院 中部資格学院
(株式会社 総合資格) (株式会社 中部資格)

[編集後記]

あの日の“悪夢”を、今でもさまざまと思い出せる。4年前、私は建築専門書籍の編集部を“ブツツン退職”した。23年間も勤め、嘗々と築いてきた自分の世界が、会社の体制が変わり、崩壊を余儀なくされたからだ。何が耐えられないかといえば、原稿に勝手に朱を入れられることだった。こちらは一応、文章の整理と創作でスポンサーの信用を得ていた。それを、文学的にも芸術的にもセンスのない人間に無断で修正を加えられるのは、陵辱されているのと同じ、人権蹂躪そのものであった。それで、面白くなればいい。つまらない、ありきたりな、没個性の、下品なものになり、当然、世評の評判は悪く、売れない。そのマイナーな責任だけ負わされるという新体制に、さすが鈍感な私も超～ムカついた。「おオ、わがレーヴン・デートルよ、何処へ！」。向こうが辞めないのなら、こちらが辞めるよりない。私は、収入よりも、倫理を選んだ。

“悪夢”は、そのことではない。辞めて、何をするアテもなかった（だから、ブツツン退職なのだ）。マスコミを賑わす建築家に友達がいるわけでもない。ゼネコンの設計部に太いコネクションがあるわけでもない。おかげに、私がブツツンしたと同時に、バブル経済もブツツンしてしまい、建築界は不景気のトップランナーに躍り出る体たらくであった。無名の建築ジャーナリスト＆エディターに、仕事が舞い込むはずがなかった。

そんな悶々としていた時だ。わが工学院大学建築学科の後輩から連絡が入った。“仕事”があるという。「先輩に、ピッタリな仕事です」。あア、持つべきは、工学院大学建築学科の後輩です。私は、躊躇うことなく飛びついた。

——仕事は『NICHE』の編集であった。しかし、それは“仕事”ではなく、“ボランティア”であった。“悪夢”的幕が、この時、大きく開かれたのだった。

意氣揚々と出かけた最初の編集会議（『NICHE』vol.22）で、まずビックリというか、呆然とした。予算が、ないのである。卒業生ならば必ず会員となり、会員ならば当然に会費のある「同窓会」の、その会費が唯一の拠り所で、しかも会費を払っている会員は、1万人中、100人にも充たないのだという。これでは、印刷費も出ない。いくら世の中が広いとはいえ、建築学科を卒業して印刷会社を経営しているOB・OGはいないだろうから、取材や編集に回る金など、ない！ 広告料のみが、資金源であった。

ボランティアは、21世紀のトレンドとなる。今のうちに、一つぐらいボランティアに勤しんでいたほうがいいに決まっているが、ボランティアは、生活に、^{すが}時間に、体力に、そして経済に余裕があって、はじめてできるのである。といって、仕事がない。私は、“悪夢”に縋るよりなかった。

しかし、悲しいのは、血となった編集者の性である。ボランティアなのだから、いい加減な誌面でいいものを、それができない。原稿は面白くまとめたいし、レイアウトは楽しいものにしたいし、発行も予定通り貫きたい。が、その想いは、カラ回りすることのほうが多いかった。

どうカラ回りするのか、それを言っても詮無いことだ。カラ回りするのが人生だ。こんなムナしい経験は、イヤというほどしている。でも、今まで、ムナしいけれども、ギャラが埋め合わせをしてくれた、と言うのも止めよう。だいたいボランティアで、半年前から段取りをし、印刷所への入稿前の1ヶ月間は、朝の7時から夜の8時まで、Macintosh G4とバトルを繰り広げてるとんていえ、経済的な安定を求めるほうが間違っているのだ。

この“仕事”は、感謝なのだ。建築の面白さを教えてくれ、建築の世界で働かせていただけるほどに育てくれた母校への感謝なのだ。

そして、それは工学院大学建築学科の卒業生の皆さん、即ち工学院大学建築学科同窓会会員の皆さんへの感謝である。『NICHE』が、日本中、いや世界中で活躍されている皆さんとの、交流、刺激、憩い……の広場になれば、望外の喜びである。

感謝は押し売りするものではないが、同窓会の皆さんも母校に感謝しようではありますせんか。その第一歩は「会費」です。会員全員が、会費を普通に支払って下されば、もっともっと高密度・高品質の同窓会誌が作れるし、何より担当者の一家5人が安心して生活できるというものです。どうぞ、よろしくお願ひ申しあげます。 (類洲環)

okamura

relaxed and productive

快適な作業姿勢のために



ERCIO

the feel of perfection

エルシオ

様々なワークスタイルに合わせて理想のオペレーション姿勢を的確にサポートする、次世代のオフィスチェア。

空間に夢を創ります。

お問い合わせ・ご相談は◎お客様サービスセンターへ フリーダイヤル ☎ 0120-81-9060 月曜～金曜(祝祭日を除く) 9:00AM～6:00PM

新宿支店 〒163-0808 東京都新宿区西新宿2-4-1新宿NSビル TEL: 03-3343-8411 FAX: 03-3343-8419

よい品は結局おトクです
岡村製作所
株式会社 岡村製作所

www.okamura.co.jp

龕

龕[がん] 1.仏像を納める厨子。 2.棺(ひつぎ)。——広辞苑
ニッチ[Niche](独 Nische) 龕(がん)とも書かれる。

壁体内に掘られ、多く平面半円、半円筒状で、上に1/4半球をいただく凹所。彫像などを置く。——共立・建築辞典
niche (nich), n. {Fr. niche, from L. nidus a nest}

1. a recess or hollow in a wall usually intended for a statue, bust or vase. 2. a place or position particularly suitable for the person or thing in it.

—— Webster's New Twentieth Century Dictionary